

富士見市障害者計画及び障がい福祉計画、  
障害児福祉計画策定のためのアンケート  
調査結果報告書

令和8年3月

富士見市



# 目次

I	調査の概要1	
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	2
II	調査結果.....	3
(1)	障害者.....	3
1	回答者について.....	3
2	あなた（封筒のあて名のご本人）について.....	4
3	保健・医療について.....	21
4	相談や情報入手について.....	24
5	医療的ケアについて.....	35
6	日中の活動や仕事の状況について.....	38
7	通園・通学している方に.....	50
8	趣味の活動や地域の活動について.....	56
9	災害時の対応について.....	60
10	サービスの利用などについて.....	69
11	権利擁護などについて.....	80
12	今後のことについて.....	90
(2)	関係団体.....	106
1.	貴団体について.....	106
2.	障がい者へのサービス提供について.....	109
3.	今後の障がい福祉施策に求めるものについて（自由記述）.....	109
(3)	事業所.....	112
1	サービスの提供について.....	112
2	相談支援体制・連携状況について.....	113
3	市の障がい福祉施策について.....	116
4	今後の障がい福祉施策に求めるものについて.....	118



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、障害者計画及び障がい福祉計画、障害児福祉計画策定策定の基礎資料作成のため、福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向等を把握することを目的としています。

## 2 調査対象

障害者：身体障がい、知的障がい、精神障がい（発達障害、高次脳機能障害を含む）のほか、難病等のその他の心身の障がいがある人で、障がい及び社会的障壁により継続的に日常生活または社会生活に相当な制限を受ける状態にある人

活動団体・事業所：障がい者関係団体（当事者団体・障害福祉サービス提供事業所・特別支援学校等、ボランティア団体等）

## 3 調査期間

障害者：令和7年12月1日～令和8年1月5日

活動団体・事業所：令和7年12月～令和8年1月

## 4 調査方法

障害者：郵送（回答は郵送およびWEB）

活動団体・事業所：郵送による配布・回収

## 5 回収状況

調査票の種類	配布数	回収数	回収率
障害者	3,021件	1,468件 (うちWEB：608件)	48.9%
関係団体	-	12件	-
事業所	-	44件	-

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・手帳や障がい等の状況について、クロス集計では下記の通り表記します。
  - 「身体」：身体障害者手帳を持っていると回答した方
  - 「知的」：療育手帳を持っていると回答した方
  - 「精神」：精神障害者保健福祉手帳を持っていると回答した方

なお、クロス集計表は、下表の区分としています。

区分	内容	文章中の表記
a 身体+知的（精神を含む）	身体障害者手帳と療育手帳の両方を持っている方。 この中には、精神障害者保健福祉手帳 を持っている方を含む。	身体+知的（精神を含む）
b 身体（精神を含む）	aを除いて、身体障害者手帳を持っている方。 この中には、精神障害者保健福祉手帳を持っている方を含む。	身体（精神を含む）
c 知的（精神を含む）	aを除いて、療育手帳を持っている方。 この中には、精神障害者保健福祉手帳 を持っている方を含む。	知的（精神を含む）
d 精神	上記以外の精神障害者保健福祉手帳を持っている方。	精神
e 無回答	障害者手帳を持っていない方。	手帳なし

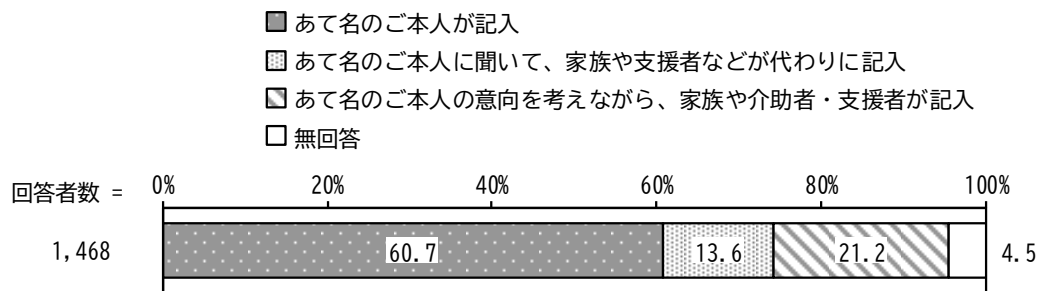
## Ⅱ 調査結果

### (1) 障害者

#### 1 回答者について

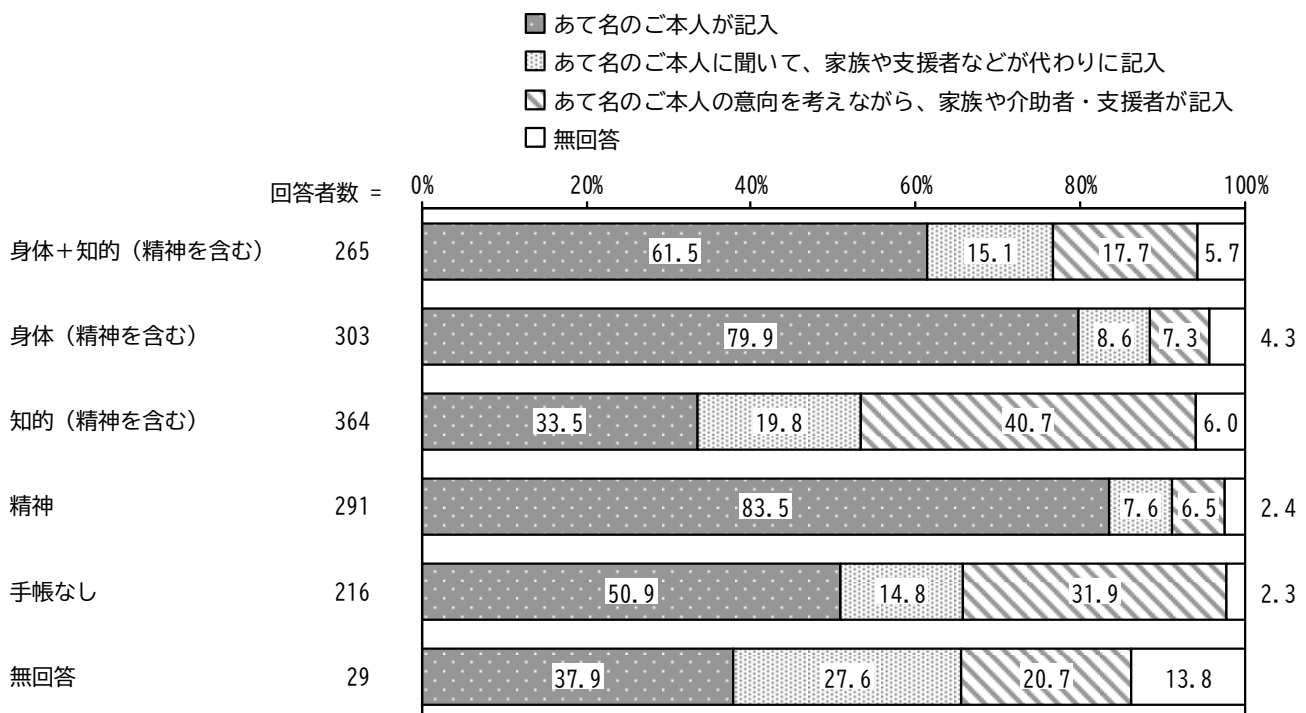
##### 問1 回答されている方はどなたですか。(○は1つだけ)

「あて名のご本人が記入」の割合が60.7%、「あて名のご本人に聞いて、家族や支援者などが代わりに記入」の割合が13.6%、「あて名のご本人の意向を考えながら、家族や介助者・支援者が記入」の割合が21.2%となっています。



#### 【障害種別】

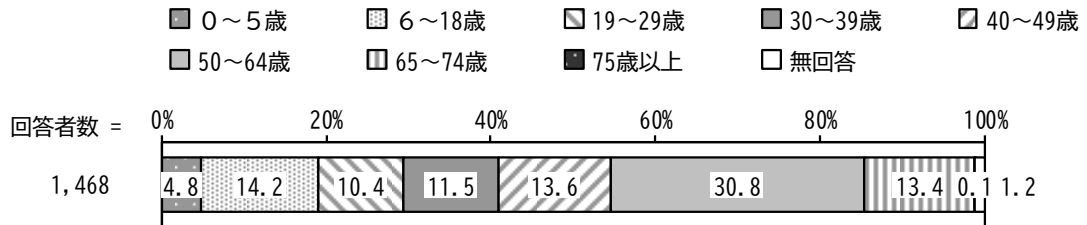
障害種別にみると、精神で「あて名のご本人が記入」、知的（精神を含む）で「あて名のご本人の意向を考えながら、家族や介助者・支援者が記入」の割合が高くなっています。



## 2 あなた（封筒のあて名のご本人）について

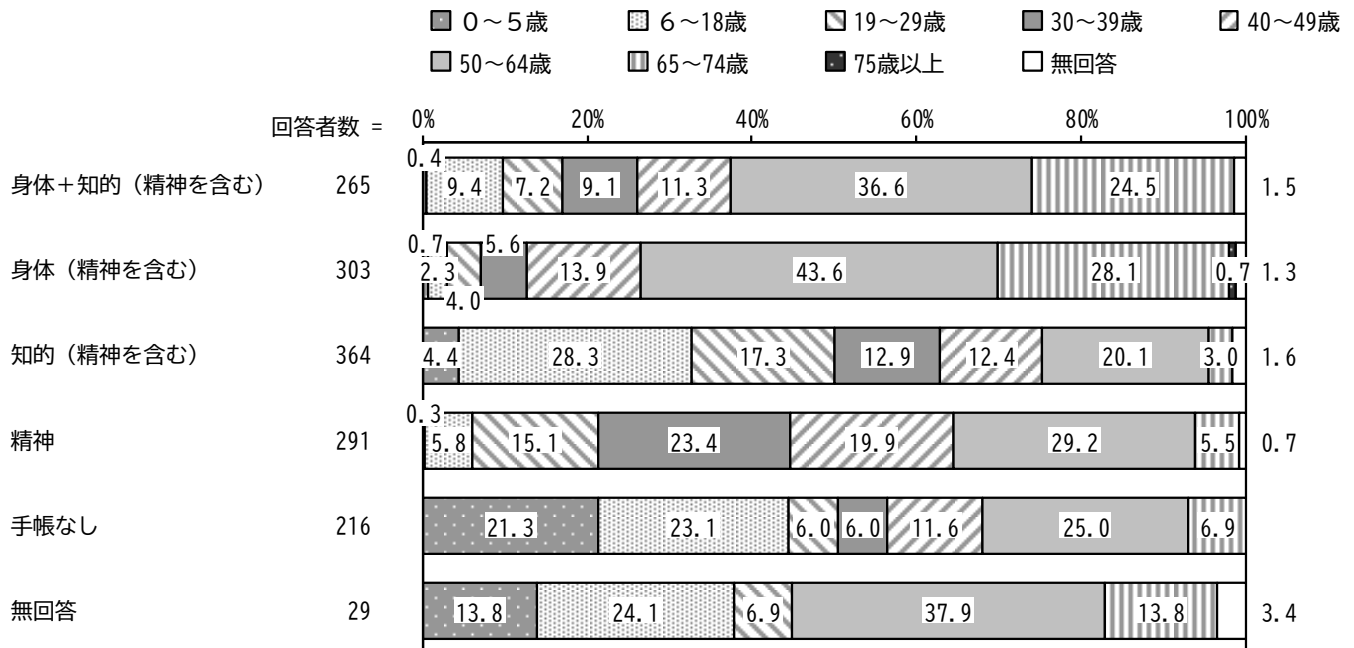
### 問2 あなたの現在の年齢をお答えください。（○は1つだけ）

「50～64歳」の割合が30.8%と最も高く、次いで「6～18歳」の割合が14.2%、「40～49歳」の割合が13.6%となっています。



#### 【障害種別】

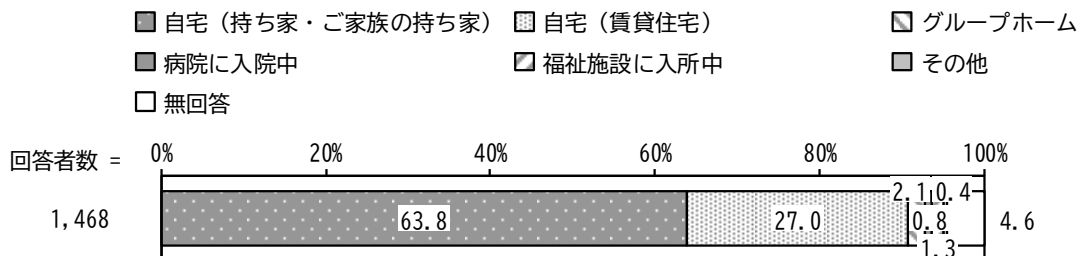
障害種別に見ると、手帳なしで「0～5歳」、知的（精神を含む）で「6～18歳」、精神で「30～39歳」、身体（精神を含む）で「50～64歳」「65～74歳」の割合が高くなっています。



### 問3 あなたは現在どこで生活していますか。(○は1つだけ)

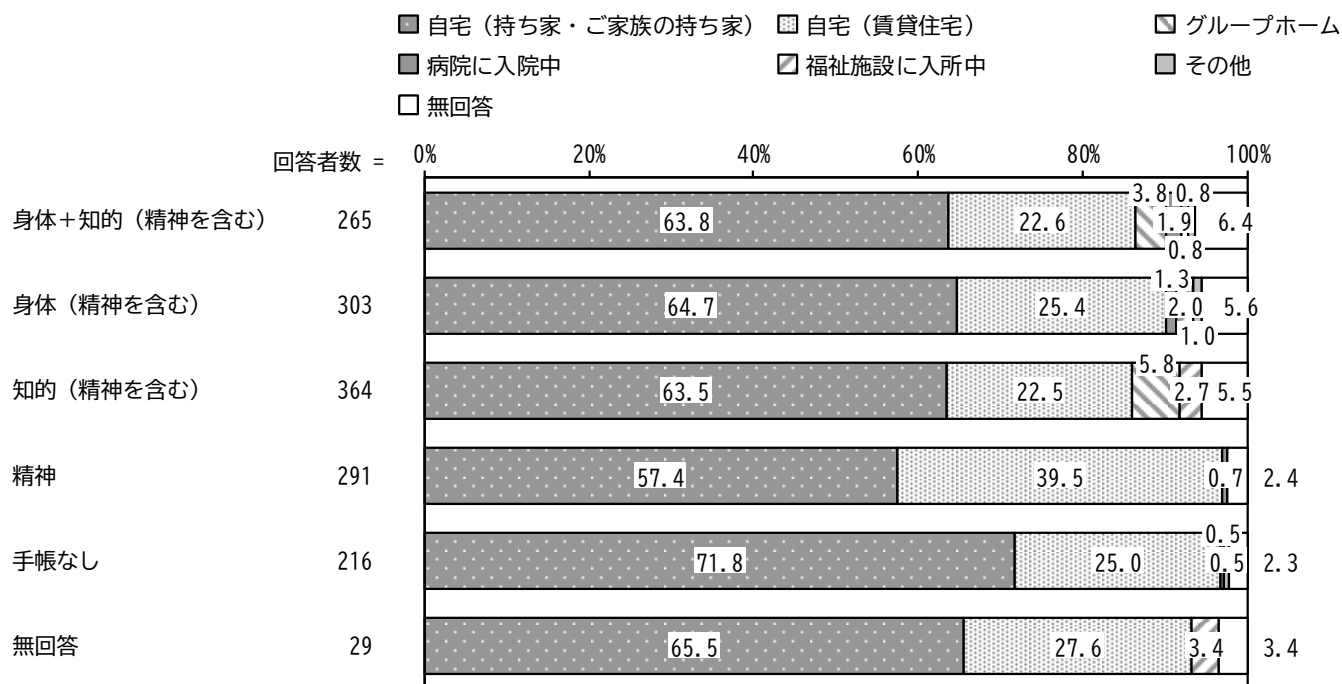
※週末だけご自宅に戻られている方などは、週のうち一番長く居る場所をお答えください。

「自宅（持ち家・ご家族の持ち家）」の割合が 63.8%と最も高く、次いで「自宅（賃貸住宅）」の割合が 27.0%となっています。



#### 【障害種別】

障害種別にみると、手帳なしで「自宅（持ち家・ご家族の持ち家）」、精神で「自宅（賃貸住宅）」の割合が高くなっています。

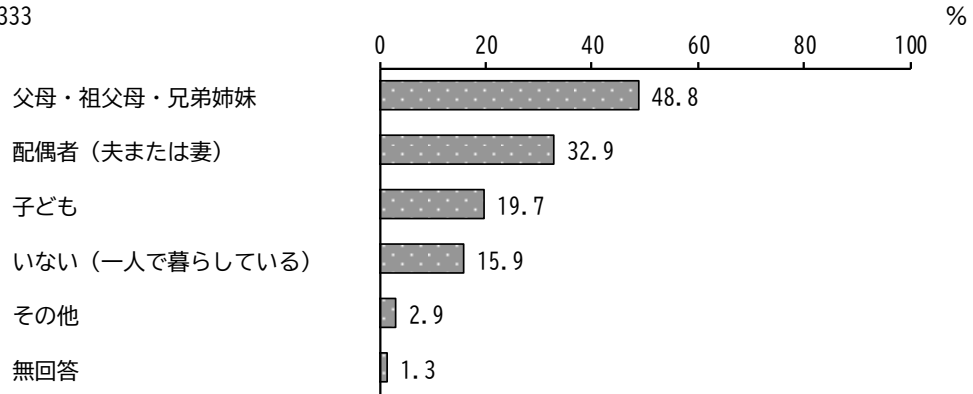


【問3で「自宅（持ち家・ご家族の持ち家）」「自宅（賃貸住宅）」と回答した方にお聞きします。】

問3-1 現在、あなたが一緒に暮らしている方は、どなたですか。  
 （あてはまるものすべてに○）

「父母・祖父母・兄弟姉妹」の割合が48.8%と最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」の割合が32.9%、「子ども」の割合が19.7%となっています。

回答者数 = 1,333



【障害種別】

障害種別にみると、知的（精神を含む）で「父母・祖父母・兄弟姉妹」、身体（精神を含む）で「配偶者（夫または妻）」、精神で「いない（一人で暮らしている）」の割合が高くなっています。

単位：%

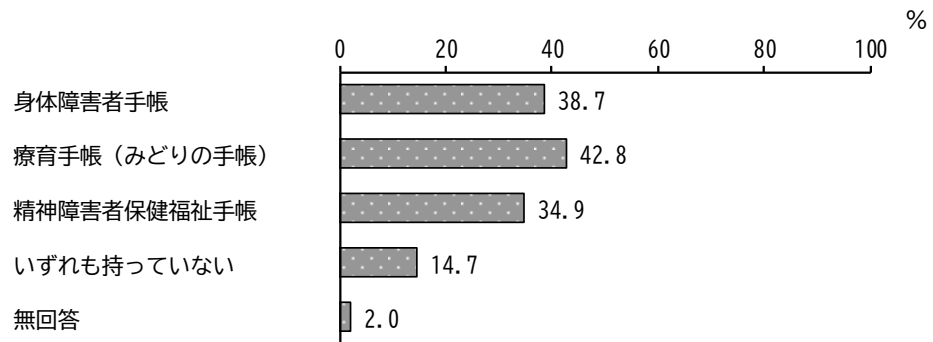
区分	回答者数（件）	父母・祖父母・兄弟姉妹	配偶者（夫または妻）	子ども	いない（一人で暮らしている）	その他	無回答
全体	1,333	48.8	32.9	19.7	15.9	2.9	1.3
身体+知的（精神を含む）	229	39.3	40.2	22.3	17.5	2.2	1.7
身体（精神を含む）	273	23.4	51.3	29.3	22.3	3.7	1.5
知的（精神を含む）	313	75.1	16.9	11.5	6.7	1.6	1.9
精神	282	44.7	23.0	11.3	27.3	5.3	0.7
手帳なし	209	59.3	36.4	27.3	4.8	1.9	0.0
無回答	27	44.4	44.4	25.9	11.1	0.0	3.7

問4 お持ちの手帳などの種類と等級をお答えください。

種類（あてはまるものすべてに○）

「療育手帳(みどりの手帳)」の割合が42.8%と最も高く、次いで「身体障害者手帳」の割合が38.7%、「精神障害者保健福祉手帳」の割合が34.9%となっています。

回答者数 = 1,468



【障害種別】

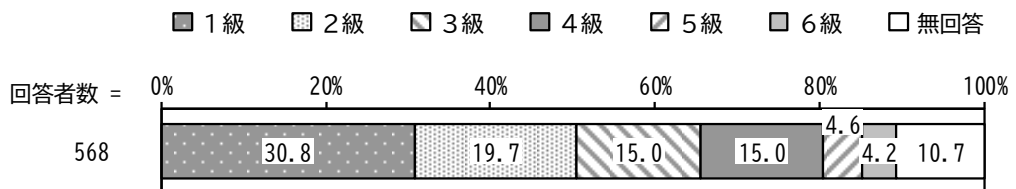
障害種別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数 (件)	身体障害者手帳	療育手帳 (みどりの手帳)	精神障害者保健福祉手帳	いずれも持っていない	無回答
全体	1,468	38.7	42.8	34.9	14.7	2.0
身体+知的 (精神を含む)	265	100.0	100.0	41.5	0.0	0.0
身体 (精神を含む)	303	100.0	0.0	5.6	0.0	0.0
知的 (精神を含む)	364	0.0	100.0	25.8	0.0	0.0
精神	291	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
手帳なし	216	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
無回答	29	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

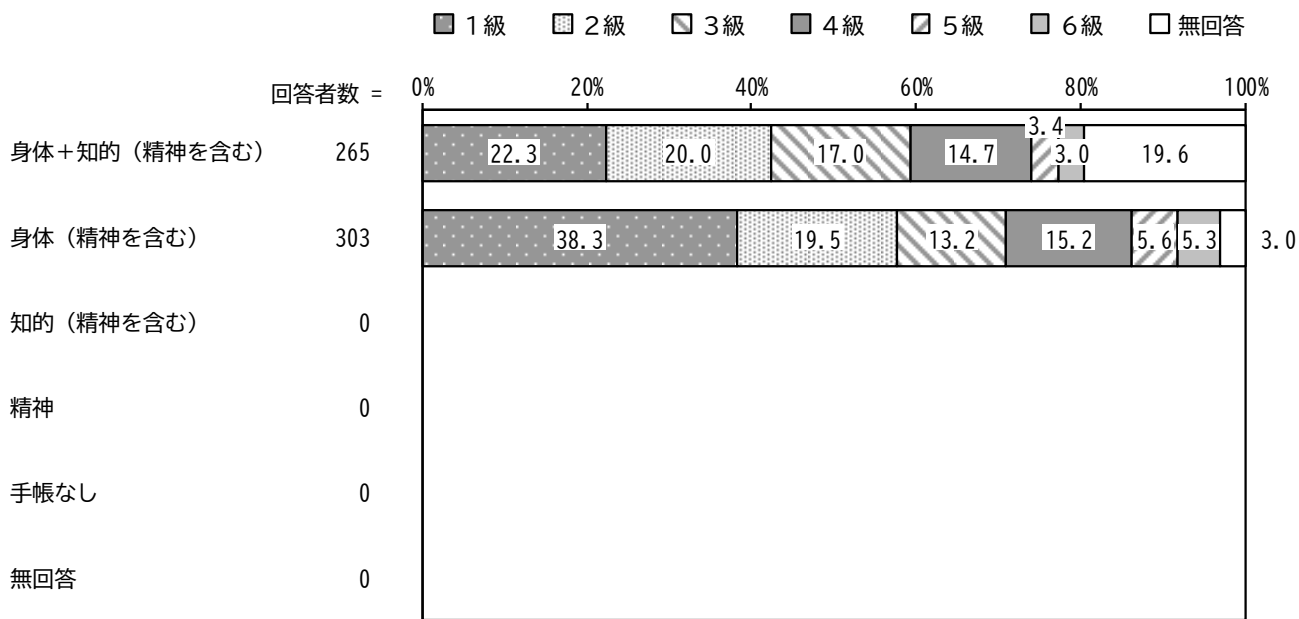
「身体障害者手帳」の等級 (○は1つ)

「1級」の割合が30.8%と最も高く、次いで「2級」の割合が19.7%、「3級」、「4級」の割合が15.0%となっています。



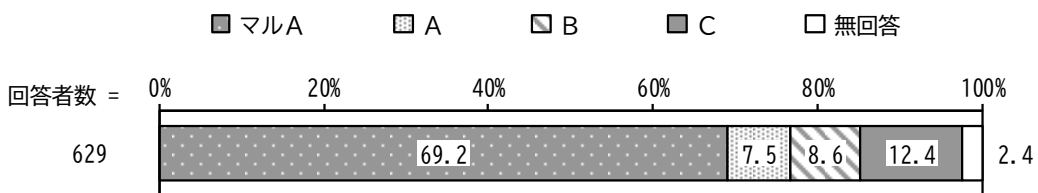
【障害種別】

障害種別にみると、身体（精神を含む）で「1級」の割合が高くなっています。



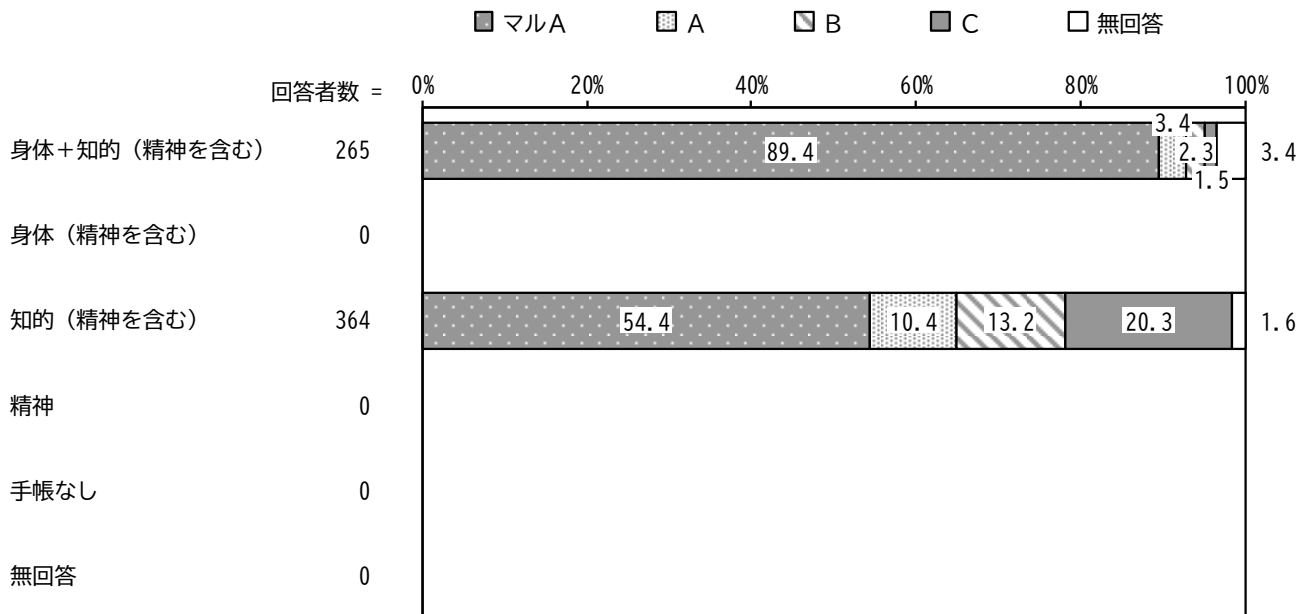
「療育手帳（みどりの手帳）」の等級（○は1つ）

「マルA」の割合が69.2%と最も高く、次いで「C」の割合が12.4%となっています。



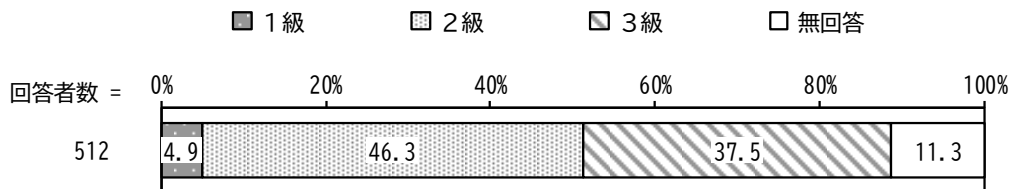
【障害種別】

障害種別にみると、身体+知的（精神を含む）で「マルA」の割合が高く、知的（精神を含む）で「A」「B」「C」の割合が高くなっています。



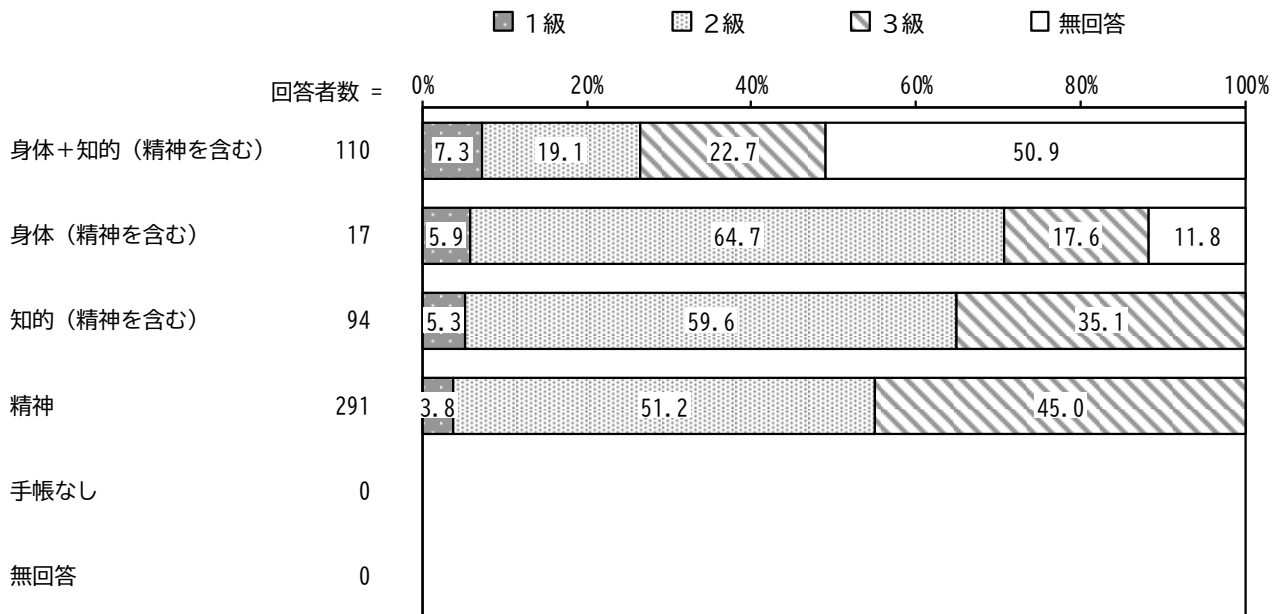
「精神障害者保健福祉手帳」の等級（○は1つ）

「1級」の割合が4.9%、「2級」の割合が46.3%、「3級」の割合が37.5%となっています。



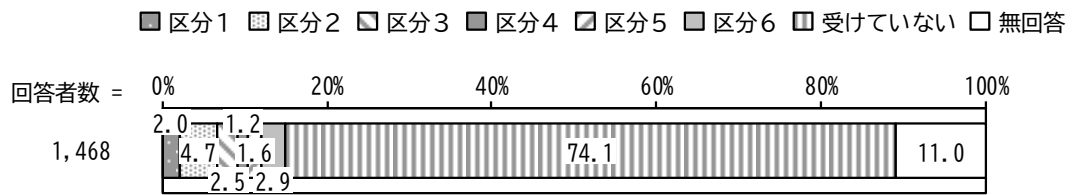
【障害種別】

障害種別にみると、身体（精神を含む）で「2級」の割合が高く、「3級」の割合が低くなっています。



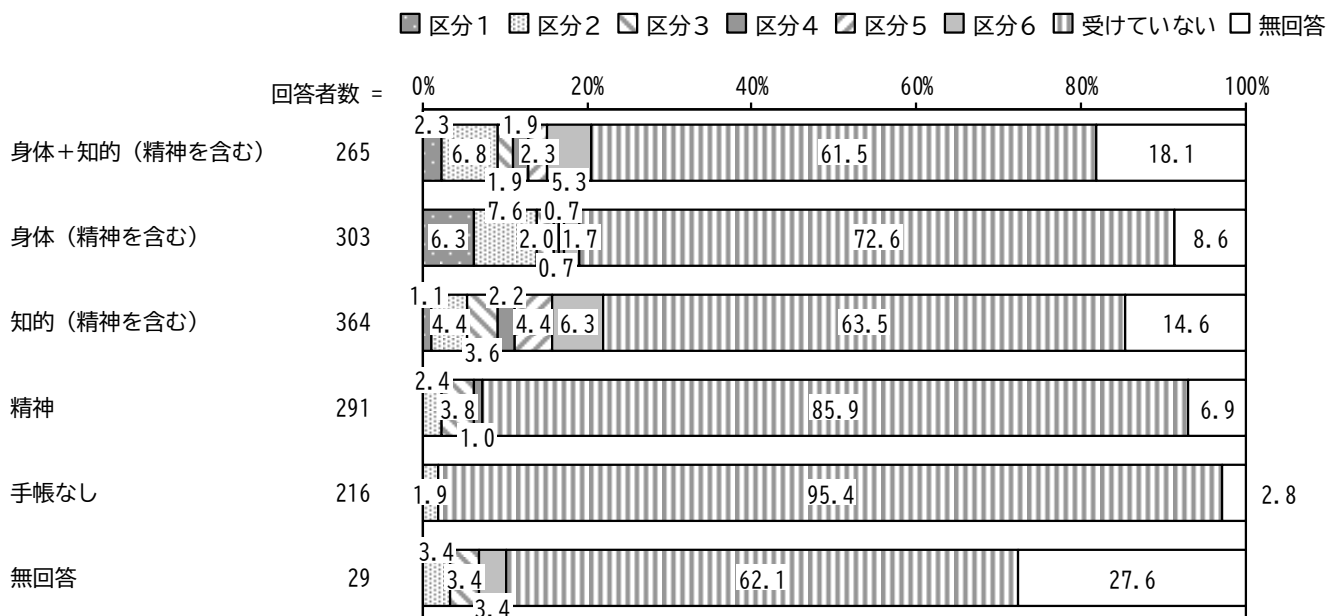
問5 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(○は1つだけ)

「受けていない」の割合が74.1%と最も高くなっています。



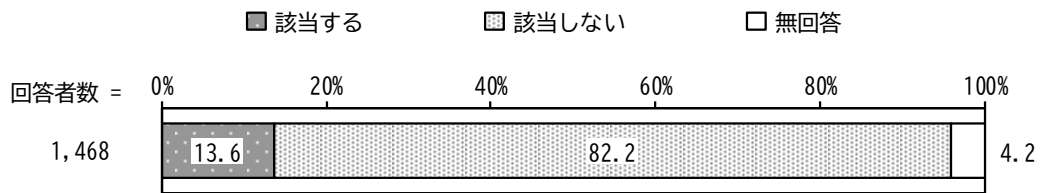
【障害種別】

障害種別にみると、手帳なしで「受けていない」の割合が高くなっています。



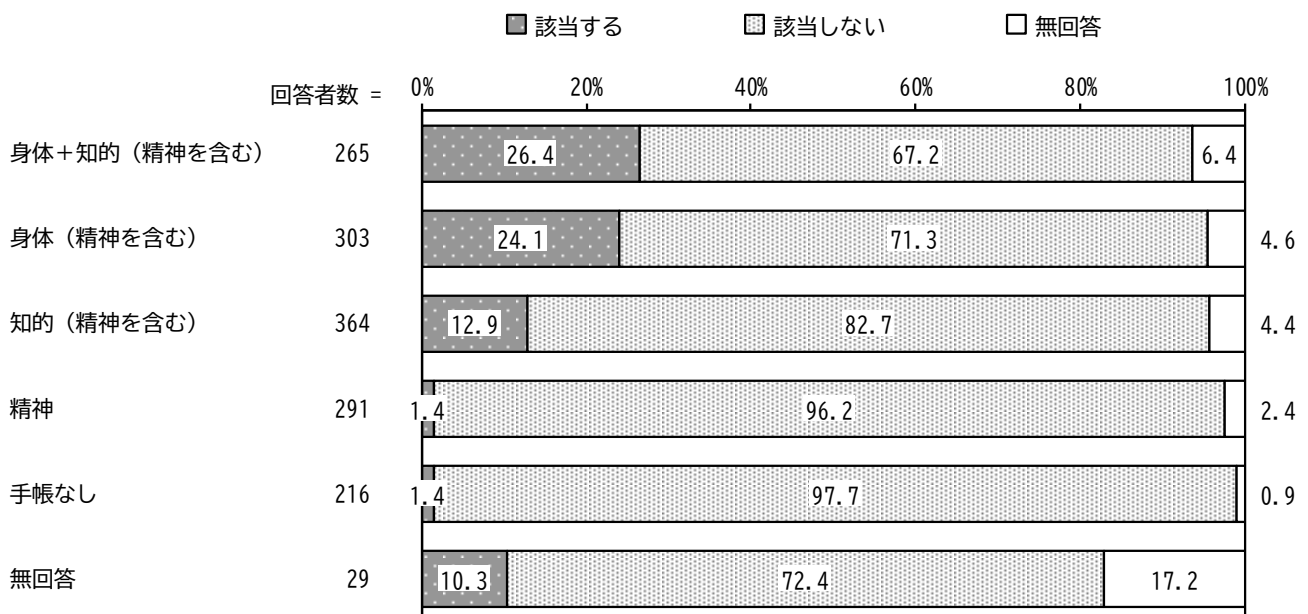
問6 あなたは重症心身障がいにご該当しますか。(○は1つだけ)

「該当する」の割合が13.6%、「該当しない」の割合が82.2%となっています。



【障害種別】

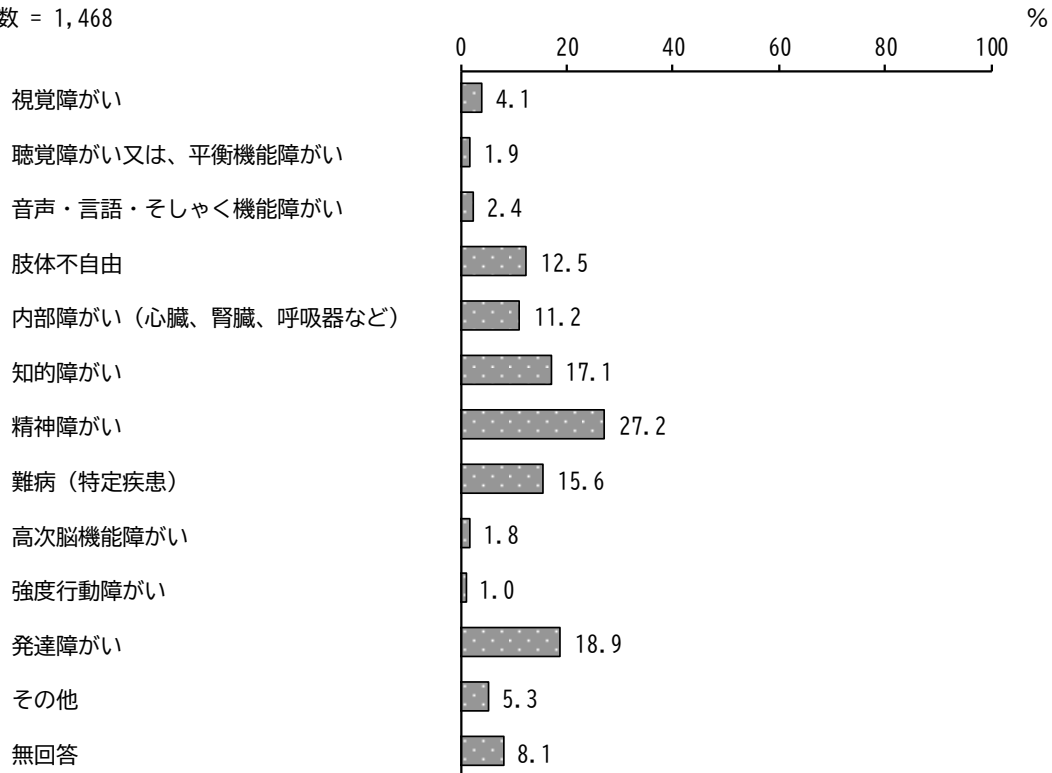
障害種別にみると、身体+知的（精神を含む）、身体（精神を含む）で「該当する」、精神、手帳なしで「該当しない」の割合が高くなっています。



問7 あなたは現在、以下の障がいや疾患の診断等を受けていますか。(〇はいくつでも)

「精神障がい」の割合が27.2%と最も高く、次いで「発達障がい」の割合が18.9%、「知的障がい」の割合が17.1%となっています。

回答者数 = 1,468



【障害種別】

障害種別にみると、身体(精神を含む)で「肢体不自由」「内部障がい(心臓、腎臓、呼吸器など)」、知的(精神を含む)で「知的障がい」「発達障がい」、精神で「精神障がい」、手帳なしで「難病(特定疾患)」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	視覚障がい	聴覚障がい又は、平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由	内部障がい(心臓、腎臓、呼吸器など)	知的障がい	精神障がい	難病(特定疾患)	高次脳機能障がい	強度行動障がい	発達障がい	その他	無回答
全体	1,468	4.1	1.9	2.4	12.5	11.2	17.1	27.2	15.6	1.8	1.0	18.9	5.3	8.1
身体+知的(精神を含む)	265	9.1	5.3	4.2	29.4	17.7	12.5	19.6	14.0	2.3	0.4	5.7	4.5	9.8
身体(精神を含む)	303	11.2	4.0	4.3	32.7	32.7	1.7	7.9	10.6	3.3	0.3	1.3	5.6	6.9
知的(精神を含む)	364	0.3	0.3	2.5	0.5	1.6	52.5	22.0	9.3	0.5	2.7	33.0	4.9	8.0
精神	291	0.3	0.0	0.0	0.3	2.1	3.4	80.4	2.7	2.1	0.3	27.1	3.8	2.7
手帳なし	216	0.0	0.5	0.5	0.0	1.9	3.2	2.3	51.9	0.0	0.0	24.5	7.9	14.4
無回答	29	0.0	0.0	3.4	10.3	6.9	17.2	13.8	20.7	6.9	3.4	20.7	10.3	13.8

【問7で「難病（特定疾患）」と回答した方にお聞きします。】

問7-1 差し支えなければ疾患名をご記入ください。また、その疾患に対してどのような支援があるとよいと思いますか。

疾患名については、記述の多くみられたものを下記に記載。また、あるとよいと思う支援については、一部を紹介。

《疾患名》

- ・うつ病
- ・もやもや病
- ・好酸球性副鼻腔炎
- ・多発性筋炎
- ・皮膚筋炎
- ・クローン病
- ・リウマチ
- ・視神経脊髄炎
- ・潰瘍性大腸炎
- ・下垂体前葉機能低下症 など
- ・てんかん
- ・網膜色素変性症
- ・重症筋無力症
- ・糖尿病
- ・パーキンソン病
- ・後縦靭帯骨化症
- ・全身性エリテマトーデス
- ・統合失調症

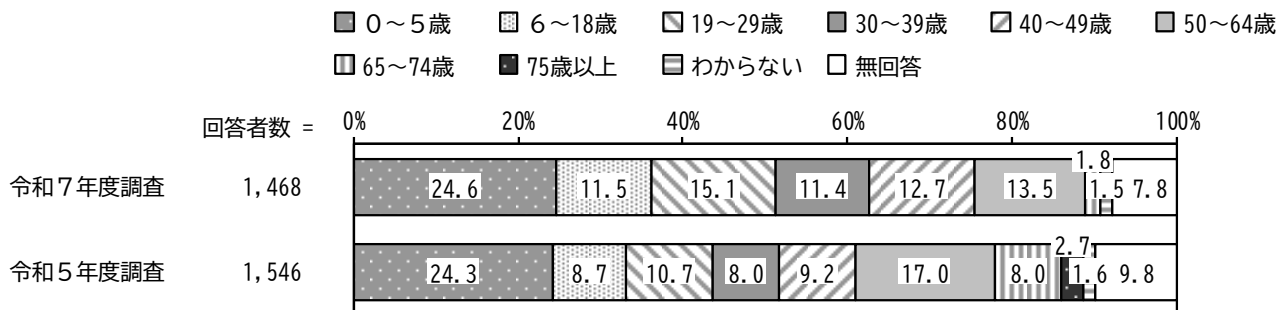
《あるとよいと思う支援》

- ・交通機関への補助（タクシーやライフバスへの割引等）
- ・通院・日常生活・家事の支援を柔軟に利用できる制度
- ・移動支援（タクシー補助等）
- ・買い物代行
- ・就労を続けるための相談支援
- ・見舞金制度
- ・難病患者用の枠を設置
- ・お金の補助（医療費、交通費がかかるため）
- ・お手洗いが間に合わない方の為の優先トイレ
- ・ケアをする家族に対する支援
- ・サポーター・衛生材（ガーゼ、包帯）などに補助金
- ・タクシーのサービス券など
- ・タクシー券の一回の利用上限を無くして欲しい
- ・ユニバーサルトイレの充実
- ・医療費の全額免除
- ・医療費負担の軽減
- ・入院時の給付金
- ・学校を通院や入院で休んでも、欠席にならず出席停止扱いなど
- ・金銭的支援 物資支援（生活用品・食品等）
- ・見た目ではわからない病気なので 理解してもらうための周知活動、広報
- ・交通機関利用支援、優先度拡充（優先利用できていない）
- ・街のバリアフリー化
- ・就職、復職支援
- ・難病手帳の更新が面倒すぎるので受診、治療状況はマイナンバーで共有して、自動更新

## 問8 主な障がい・疾患がわかったのは何歳ごろでしたか。(〇は1つだけ)

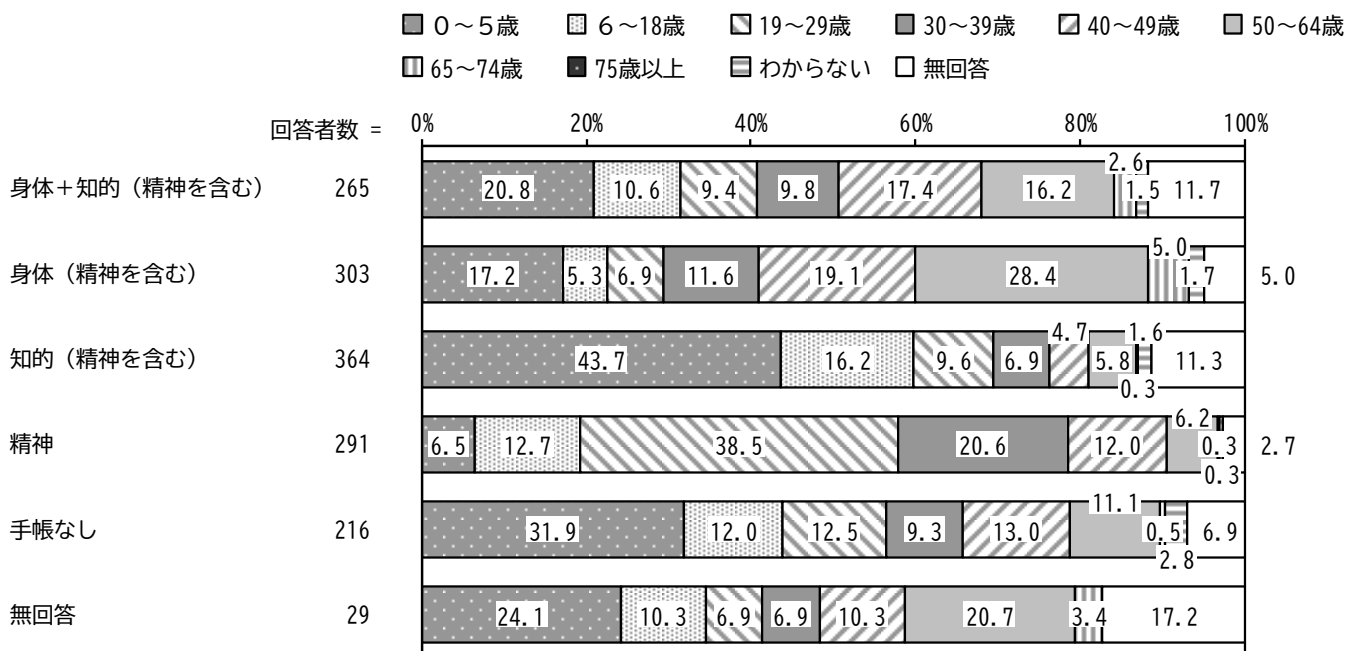
「0～5歳」の割合が24.6%と最も高く、次いで「19～29歳」の割合が15.1%、「50～64歳」の割合が13.5%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「65～74歳」の割合が減少しています。



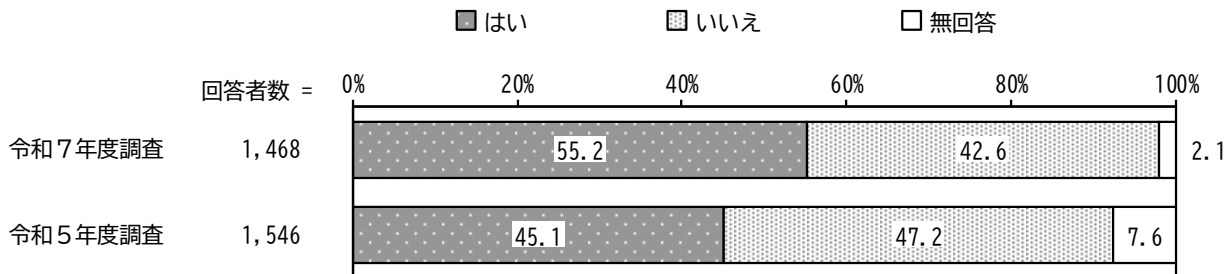
### 【障害種別】

障害種別にみると、知的（精神を含む）で「0～5歳」、精神で「19～29歳」「30～39歳」、身体（精神を含む）で「40～49歳」「50～64歳」の割合が高くなっています。



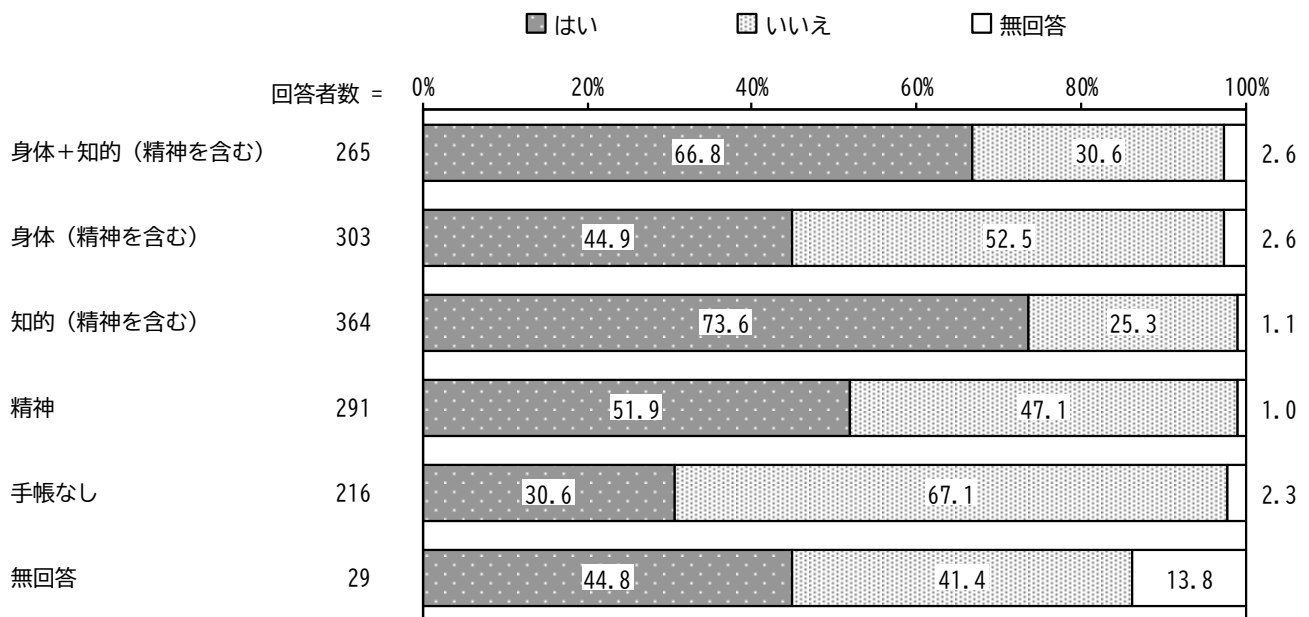
問9 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。  
(○は1つだけ)

「はい」の割合が55.2%、「いいえ」の割合が42.6%となっています。  
令和5年度調査と比較すると、「はい」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別に見ると、知的（精神を含む）で「はい」、手帳なしで「いいえ」の割合が高くなっています。

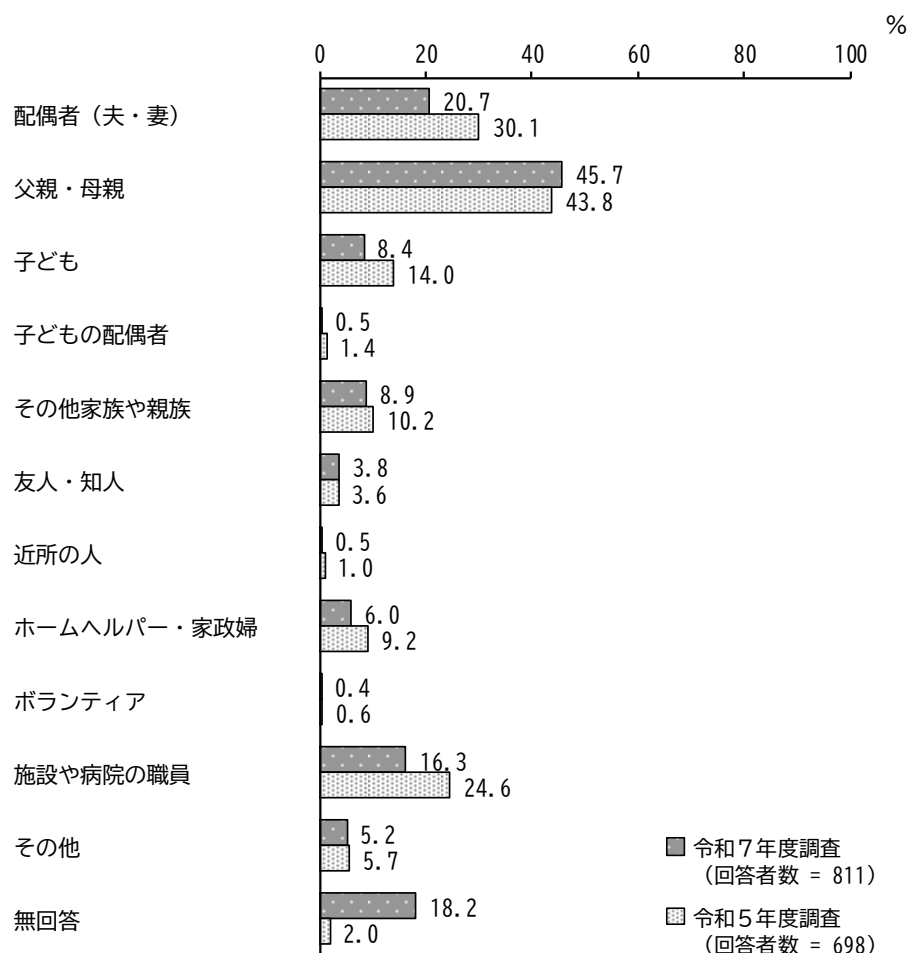


【問9で「はい」と回答した方にお聞きします。】

問9-1 日常生活での主な介助者はどなたですか。(〇はいくつでも)

「父親・母親」の割合が45.7%と最も高く、次いで「配偶者(夫・妻)」の割合が20.7%、「施設や病院の職員」の割合が16.3%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「配偶者(夫・妻)」「子ども」「施設や病院の職員」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体（精神を含む）で「配偶者（夫・妻）」「子ども」「ホームヘルパー・家政婦」、手帳なしで「父親・母親」、知的（精神を含む）で「施設や病院の職員」の割合が高くなっています。

単位：％

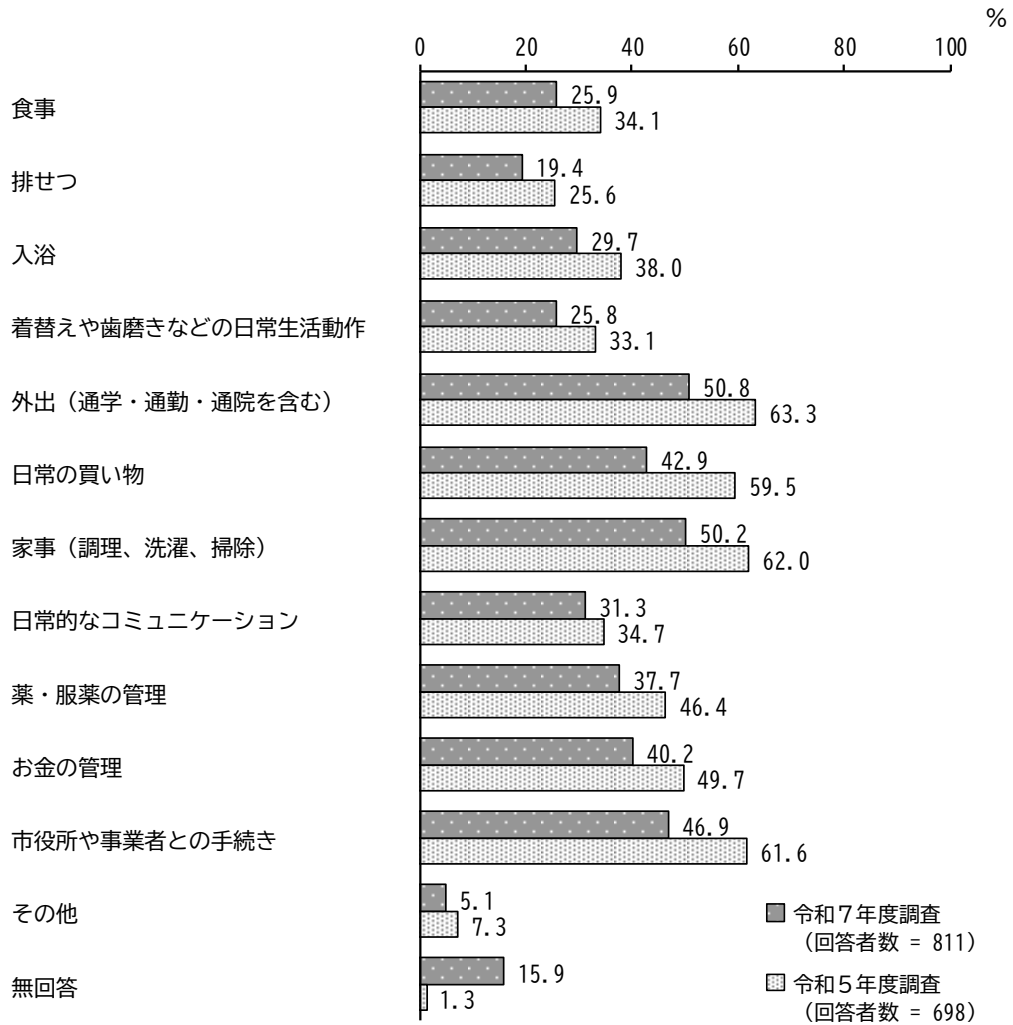
区分	回答者数 (件)	配偶者 (夫・妻)	父親・ 母親	子 ども	子 どもの 配偶者	そ の 他 家 族 や 親 族	友 人 ・ 知 人	近 所 の 人	政 婦	ホ ー ム ヘ ル パ ー ・ 家	ボ ラ ン テ ィ ア	施 設 や 病 院 の 職 員	そ の 他	無 回 答
全 体	811	20.7	45.7	8.4	0.5	8.9	3.8	0.5	6.0	0.4	16.3	5.2	18.2	
身体+知的（精神を含む）	177	21.5	32.2	9.0	1.1	8.5	2.8	0.6	7.3	1.1	14.7	2.8	29.4	
身体（精神を含む）	136	39.7	16.9	19.1	0.7	6.6	4.4	0.7	11.8	0.0	16.2	2.9	20.6	
知的（精神を含む）	268	9.3	66.0	5.2	0.0	11.6	3.0	0.7	1.9	0.4	21.3	4.9	15.3	
精神	151	25.8	39.1	4.6	0.0	8.6	7.3	0.0	9.3	0.0	9.3	10.6	12.6	
手帳なし	66	12.1	74.2	4.5	1.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	4.5	9.1	
無回答	13	30.8	46.2	15.4	0.0	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	30.8	7.7	15.4	

【問9で「はい」と回答した方にお聞きします。】

問9-2 どのような場面で介助や支援が必要ですか。(〇はいくつでも)

「外出(通学・通勤・通院を含む)」の割合が50.8%と最も高く、次いで「家事(調理、洗濯、掃除)」の割合が50.2%、「市役所や事業者との手続き」の割合が46.9%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「食事」「排せつ」「入浴」「着替えや歯磨きなどの日常生活動作」「外出(通学・通勤・通院を含む)」「日常の買い物」「家事(調理、洗濯、掃除)」「薬・服薬の管理」「お金の管理」「市役所や事業者との手続き」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、手帳なしで「食事」「排せつ」「入浴」「着替えや歯磨きなどの日常生活動作」「外出（通学・通勤・通院を含む）」、知的（精神を含む）、手帳なしで「日常的なコミュニケーション」、知的（精神を含む）で「薬・服薬の管理」「お金の管理」「市役所や事業者との手続き」の割合が高くなっています。

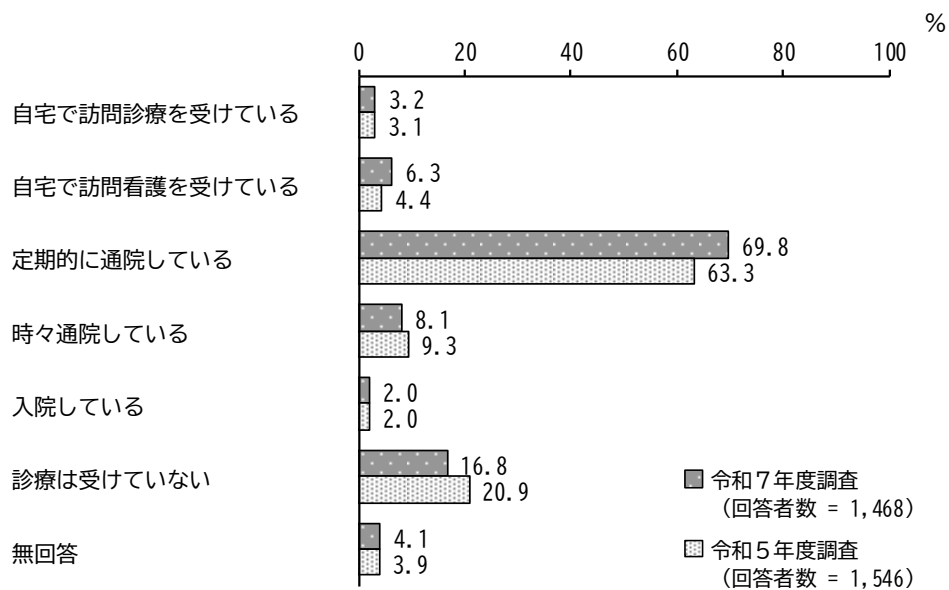
単位：％

区分	回答者数 (件)	食事	排せつ	入浴	着替えや歯磨きなどの日常生活動作	外出（通学・通勤・通院を含む）	日常の買い物	家事（調理、洗濯、掃除）	日常的なコミュニケーション	薬・服薬の管理	お金の管理	市役所や事業者との手続き	その他	無回答
全体	811	25.9	19.4	29.7	25.8	50.8	42.9	50.2	31.3	37.7	40.2	46.9	5.1	15.9
身体+知的（精神を含む）	177	24.9	23.2	30.5	26.6	43.5	35.6	42.9	22.0	33.9	36.7	40.7	5.1	26.6
身体（精神を含む）	136	19.9	12.5	26.5	17.6	50.7	43.4	45.6	11.0	24.3	19.1	34.6	8.1	16.9
知的（精神を含む）	268	32.1	25.4	34.0	34.7	59.0	45.5	54.5	44.0	48.1	52.6	59.3	3.7	14.2
精神	151	16.6	2.6	11.9	6.6	39.1	43.0	57.0	29.1	33.8	42.4	44.4	5.3	9.3
手帳なし	66	39.4	34.8	56.1	48.5	62.1	47.0	47.0	47.0	42.4	36.4	42.4	4.5	9.1
無回答	13	15.4	30.8	38.5	23.1	61.5	61.5	46.2	53.8	38.5	46.2	53.8	0.0	7.7

### 3 保健・医療について

#### 問10 現在、医師の診療や訪問看護を受けていますか。(〇はいくつでも)

「定期的に通院している」の割合が69.8%と最も高くなっています。  
 令和5年度調査と比較すると、「定期的に通院している」の割合が増加しています。



#### 【障害種別】

障害種別にみると、精神で「定期的に通院している」の割合が高くなっています。

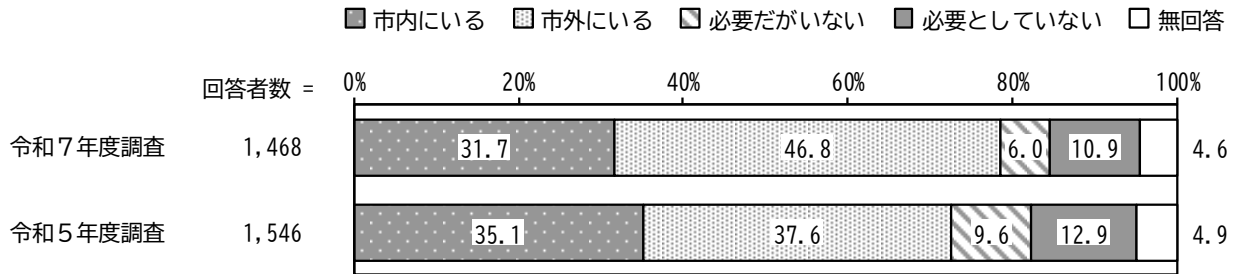
単位：%

区分	回答者数(件)	自宅で訪問診療を受けている	自宅で訪問看護を受けている	定期的に通院している	時々通院している	入院している	診療は受けていない	無回答
全体	1,468	3.2	6.3	69.8	8.1	2.0	16.8	4.1
身体+知的(精神を含む)	265	7.2	9.8	64.2	10.9	4.5	16.2	6.0
身体(精神を含む)	303	3.0	5.3	69.6	6.9	2.6	17.2	4.3
知的(精神を含む)	364	3.8	4.1	61.8	10.4	0.5	23.1	4.4
精神	291	0.7	11.0	87.3	3.8	1.4	4.1	2.7
手帳なし	216	0.9	1.9	66.7	7.4	1.4	23.1	2.3
無回答	29	3.4	0.0	69.0	13.8	3.4	20.7	6.9

問 11 あなたには、日常的に診療や相談などを受けられる医師がいますか。(○は1つだけ)

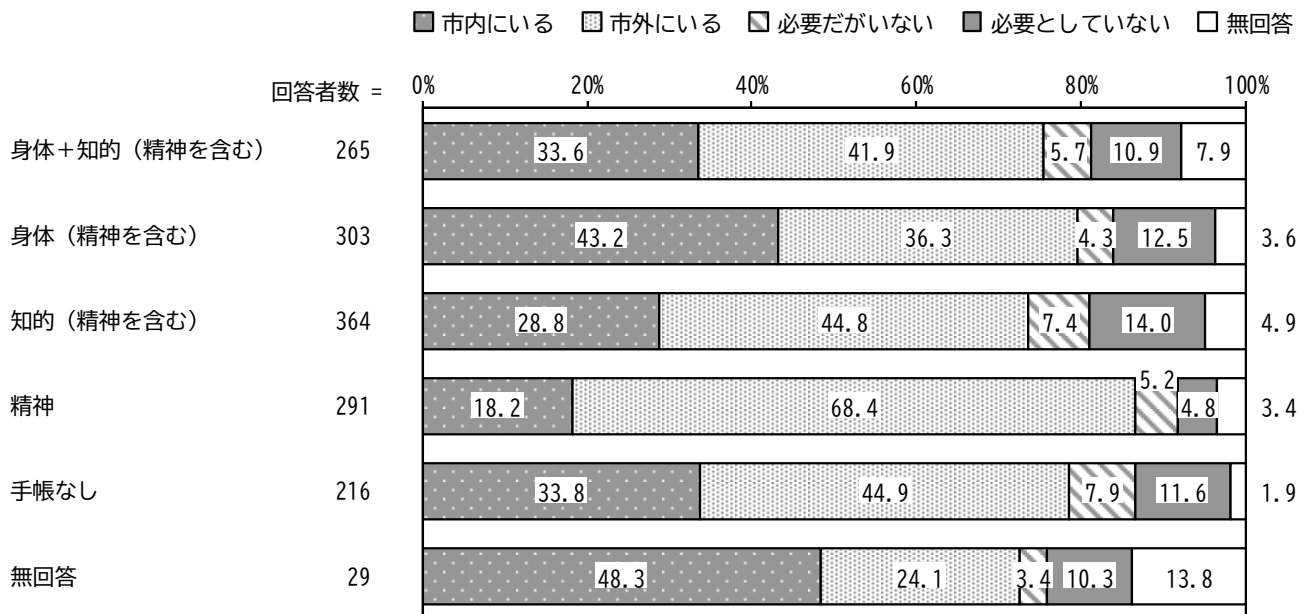
「市外にいる」の割合が46.8%と最も高く、次いで「市内にいる」の割合が31.7%、「必要としていない」の割合が10.9%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「市外にいる」の割合が増加しています。



【障害種別】

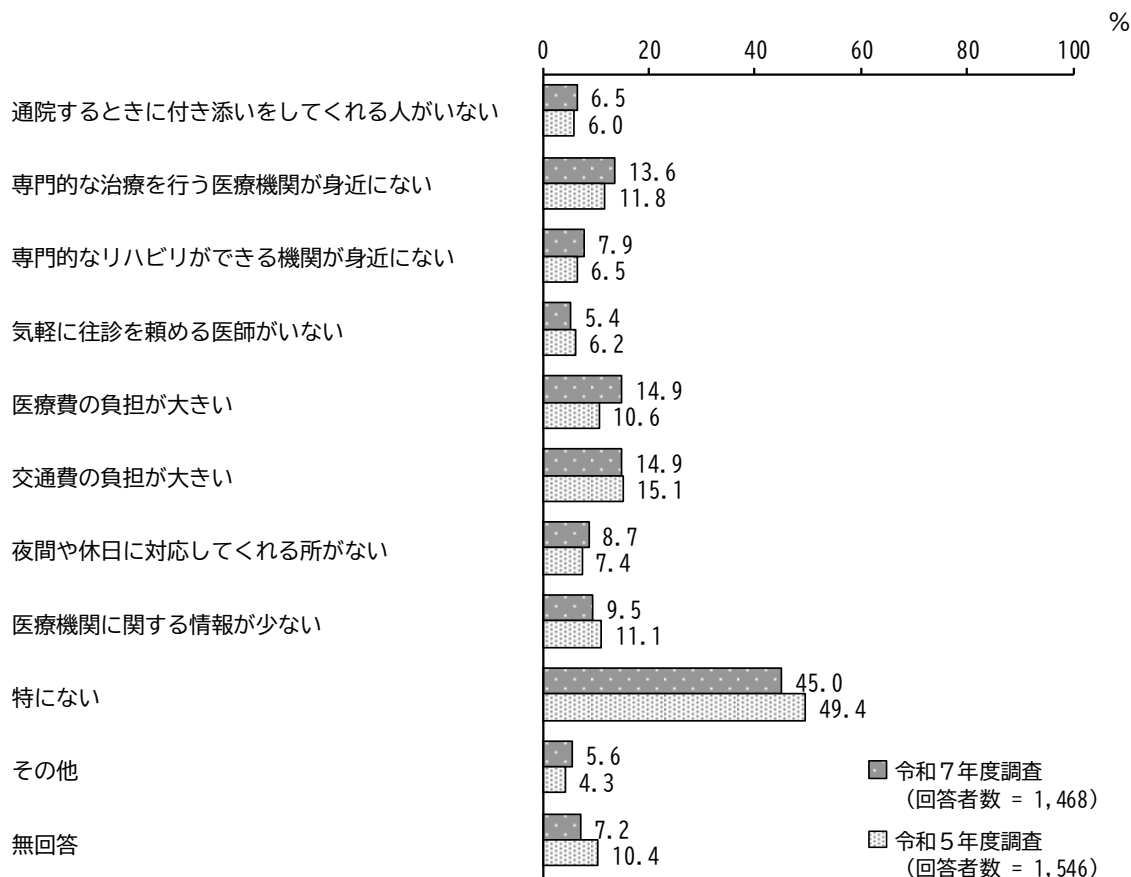
障害種別にみると、身体（精神を含む）で「市内にいる」、精神で「市外にいる」の割合が高くなっています。



問 12 医師の診療や定期健診、リハビリを受けるにあたってお困りのことがありますか。  
(〇はいくつでも)

「医療費の負担が大きい」、「交通費の負担が大きい」の割合が 14.9%と最も高く、次いで「専門的な治療を行う医療機関が身近にない」の割合が 13.6%となっています。

令和 5 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害種別】

障害種別にみると、手帳なしで「医療費の負担が大きい」、精神、手帳なしで「交通費の負担が大きい」の割合が高くなっています。

単位：%

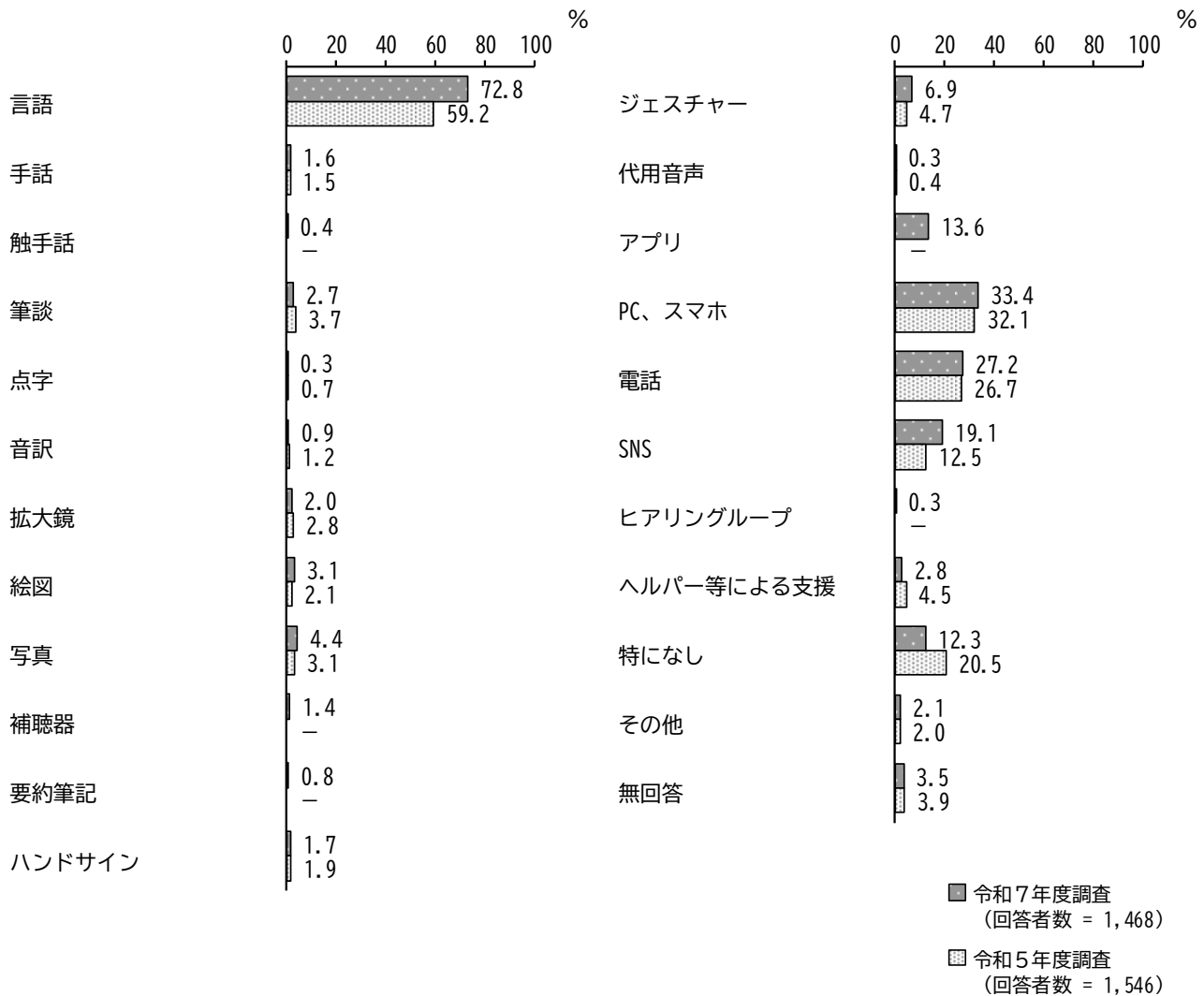
区分	回答者数 (件)	通院するときに付き添いをしてもらえる人がいない	専門的な治療を行う医療機関が身近にない	専門的なリハビリができる機関が身近にない	気軽に往診を頼める医師がいない	医療費の負担が大きい	交通費の負担が大きい	夜間や休日に対応してくれる所がない	医療機関に関する情報が少ない	特にない	その他	無回答
全体	1,468	6.5	13.6	7.9	5.4	14.9	14.9	8.7	9.5	45.0	5.6	7.2
身体+知的 (精神を含む)	265	7.2	10.9	11.3	7.2	12.5	11.7	8.7	7.9	37.7	4.2	15.8
身体 (精神を含む)	303	7.6	13.2	8.6	6.3	14.2	13.9	7.3	6.9	49.2	4.0	6.6
知的 (精神を含む)	364	8.2	13.7	8.0	4.4	11.3	9.1	8.5	11.3	45.3	8.8	6.6
精神	291	5.5	14.8	5.2	5.5	15.5	23.4	12.7	13.4	44.3	4.1	3.1
手帳なし	216	2.8	15.7	5.1	3.2	25.5	20.4	4.6	6.0	47.7	6.5	3.7
無回答	29	3.4	10.3	17.2	6.9	6.9	3.4	17.2	13.8	48.3	3.4	10.3

## 4 相談や情報入手について

問13 あなたは日常的にどのようなコミュニケーション手段を利用していますか。  
(〇はいくつでも)

「言語」の割合が72.8%と最も高く、次いで「PC、スマホ」の割合が33.4%、「電話」の割合が27.2%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「言語」「SNS」の割合が増加しています。一方、「特になし」の割合が減少しています。



※令和5年度調査では、「触手話」、「補聴器」、「要約筆記」、「アプリ」、「ヒアリンググループ」がありませんでした。

【障害種別】

障害種別にみると、精神、手帳なしで「言語」、精神で「PC、スマホ」「電話」「SNS」の割合が高くなっています。

単位：％

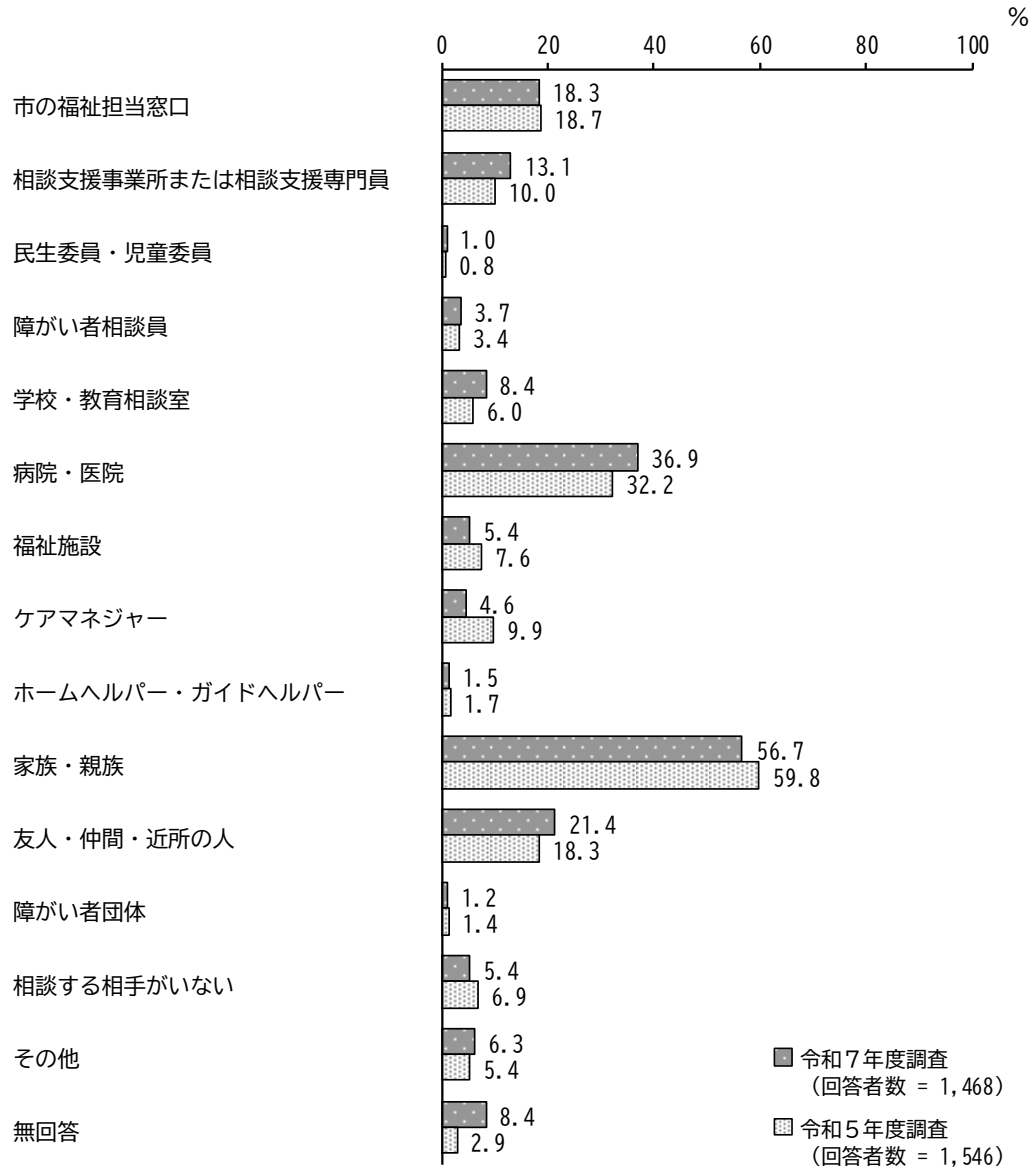
区分	回答者数 (件)	言語	手話	触手話	筆談	点字	音訳	拡大鏡	絵図	写真	補聴器	要約筆記
全 体	1,468	72.8	1.6	0.4	2.7	0.3	0.9	2.0	3.1	4.4	1.4	0.8
身体+知的（精神を含む）	265	56.2	2.6	0.8	3.4	0.0	0.4	3.4	1.5	2.6	3.4	0.8
身体（精神を含む）	303	72.3	2.3	0.3	4.0	1.7	2.0	5.3	1.0	2.3	2.3	1.3
知的（精神を含む）	364	71.4	1.6	0.8	1.1	0.0	0.5	0.3	5.8	7.1	0.0	0.8
精神	291	83.2	0.7	0.0	4.1	0.0	0.3	0.3	4.1	5.8	0.3	0.3
手帳なし	216	82.9	0.5	0.0	0.5	0.0	1.4	0.9	1.9	2.3	1.4	0.9
無回答	29	65.5	0.0	0.0	6.9	0.0	0.0	3.4	6.9	6.9	0.0	0.0

区分	ハンドサイン	ジェスチャー	代用音声	アプリ	PC、スマホ	電話	SMS	ヒアリンググループ	ヘルパー等による支援	特になし	その他	無回答
全 体	1.7	6.9	0.3	13.6	33.4	27.2	19.1	0.3	2.8	12.3	2.1	3.5
身体+知的（精神を含む）	1.5	4.9	0.4	10.6	27.5	21.9	13.2	0.8	2.3	18.5	5.7	7.2
身体（精神を含む）	1.0	4.0	0.7	12.9	38.9	32.7	20.1	0.3	4.6	10.9	1.0	3.6
知的（精神を含む）	2.7	11.3	0.0	9.3	23.6	19.0	12.4	0.0	3.3	12.9	2.7	3.0
精神	0.7	4.8	0.7	20.6	49.1	38.8	32.6	0.3	2.4	7.2	0.7	1.7
手帳なし	1.9	8.8	0.0	15.3	28.2	25.0	19.0	0.0	0.5	11.6	0.5	1.4
無回答	6.9	10.3	0.0	20.7	34.5	20.7	10.3	0.0	3.4	17.2	0.0	6.9

問 14 あなたは困ったときや、相談したいことがあったとき、だれに相談していますか。  
(〇はいくつでも)

「家族・親族」の割合が 56.7%と最も高く、次いで「病院・医院」の割合が 36.9%、「友人・仲間・近所の人」の割合が 21.4%となっています。

令和 5 年度調査と比較すると、「ケアマネジャー」の割合が減少しています。



【障害種別】

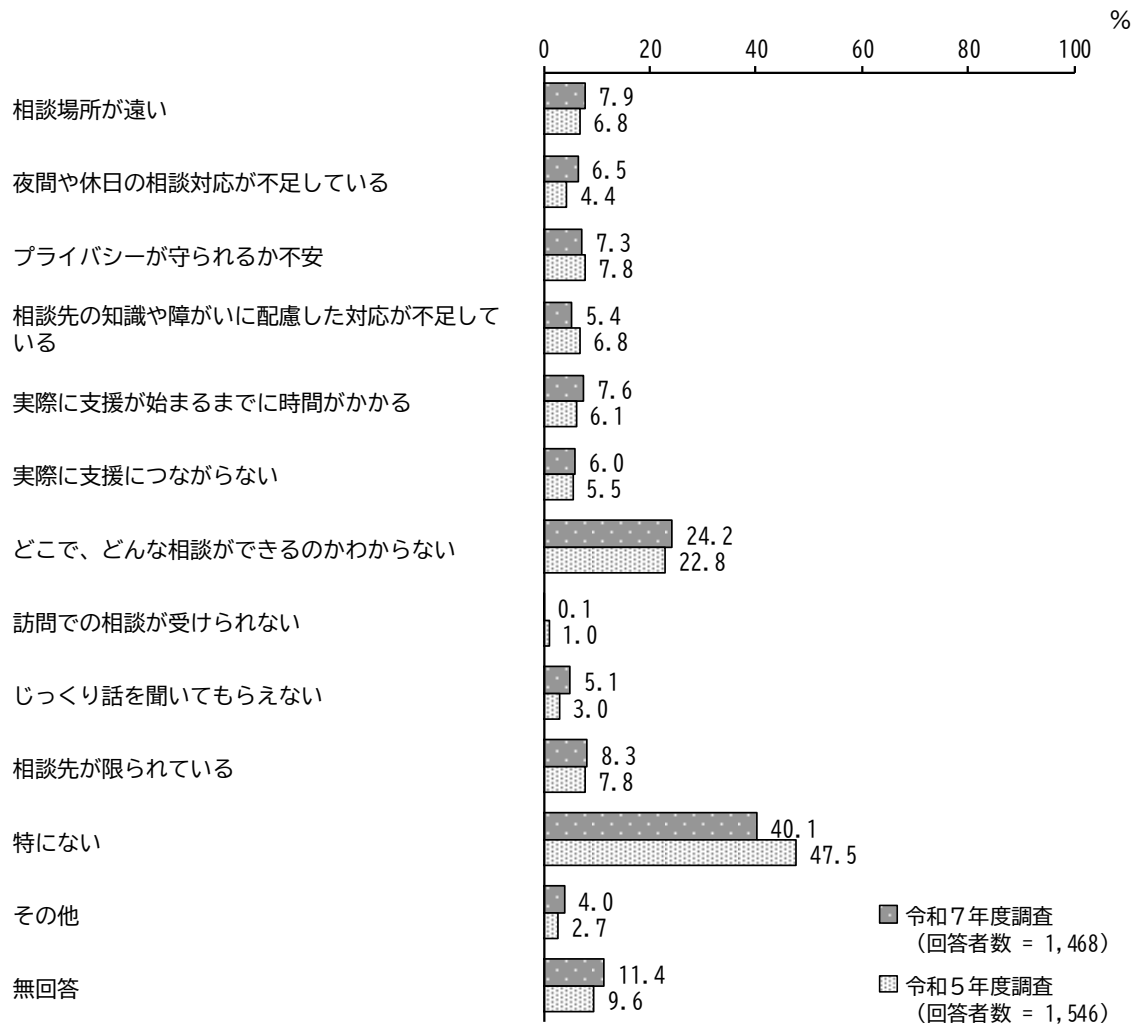
障害種別にみると、身体（精神を含む）で「市の福祉担当窓口」「ケアマネジャー」、知的（精神を含む）で「相談支援事業所または相談支援専門員」、知的（精神を含む）、手帳なしで「学校・教育相談室」、精神で「病院・医院」、手帳なしで「家族・親族」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	市の福祉担当窓口	相談支援事業所または相談支援専門員	民生委員・児童委員	障がい者相談員	学校・教育相談室	病院・医院	福祉施設	ケアマネジャー	ホームヘルパー・ガイドヘルパー	家族・親族	友人・仲間・近所の人	障がい者団体	相談する相手がない	その他	無回答
全体	1,468	18.3	13.1	1.0	3.7	8.4	36.9	5.4	4.6	1.5	56.7	21.4	1.2	5.4	6.3	8.4
身体+知的 (精神を含む)	265	21.5	11.7	0.4	5.3	4.5	32.1	5.3	7.2	3.0	53.6	20.4	1.9	2.3	4.5	15.5
身体 (精神を含む)	303	23.4	7.6	2.3	2.6	1.7	39.3	3.0	10.9	2.3	55.1	20.5	1.7	5.9	4.6	5.9
知的 (精神を含む)	364	16.5	19.0	0.5	5.5	16.8	29.7	9.9	1.4	0.8	57.4	17.0	1.1	4.7	8.8	9.3
精神	291	17.5	13.1	0.7	2.7	3.8	47.1	4.8	2.1	1.4	51.5	24.4	1.0	9.6	6.9	6.2
手帳なし	216	8.8	13.4	0.9	0.5	14.8	38.4	2.8	0.9	0.0	69.0	24.5	0.5	4.6	6.0	3.7
無回答	29	34.5	10.3	0.0	10.3	10.3	31.0	3.4	10.3	0.0	51.7	41.4	0.0	0.0	6.9	17.2

問 15 悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることがありますか。  
 (主なもの3つまでに○)

「どこで、どんな相談ができるのかわからない」の割合が24.2%と最も高くなっています。  
 令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害種別】

障害種別にみると、精神で「相談場所が遠い」「じっくり話を聞いてもらえない」の割合が高くなっています。

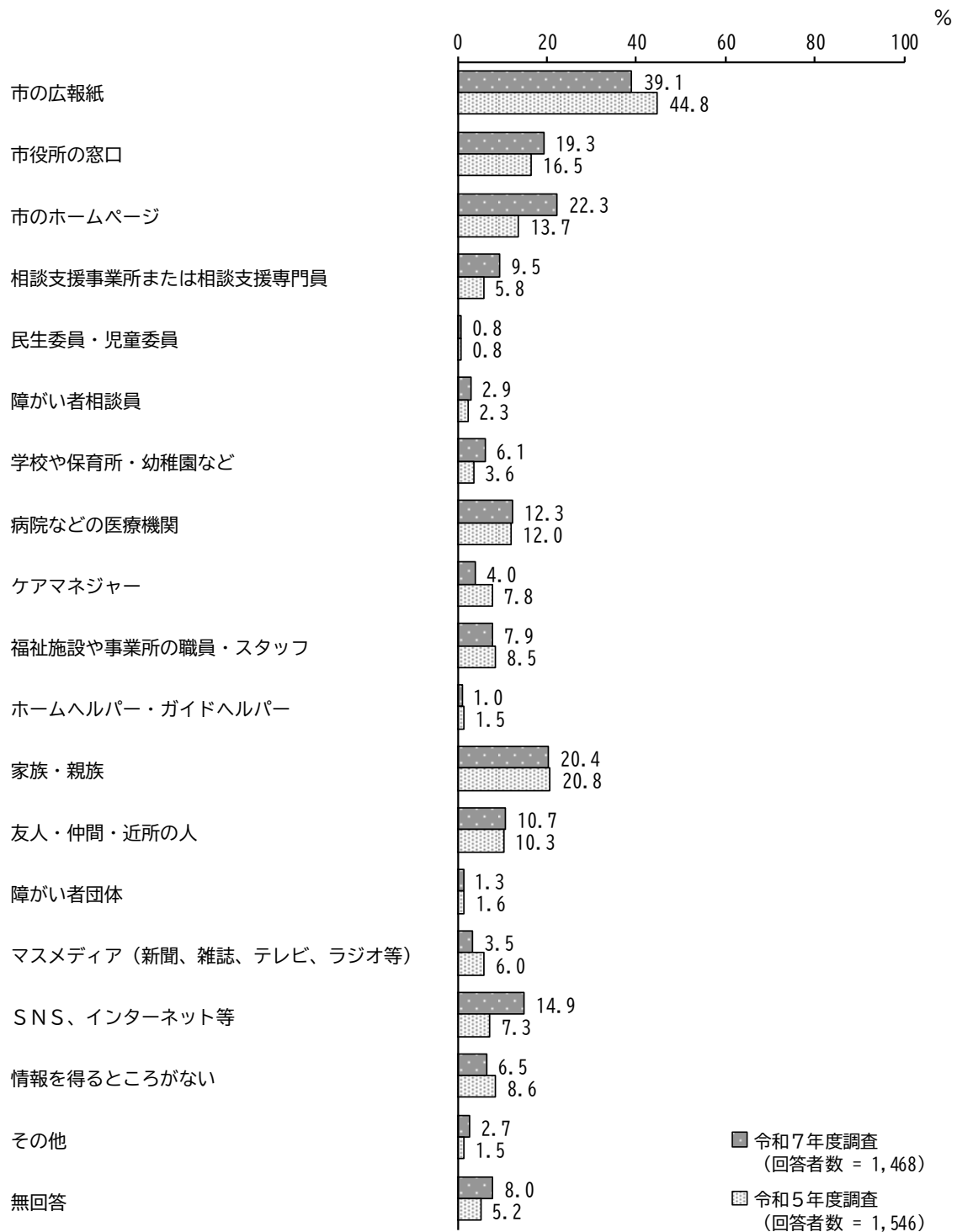
単位：％

区分	回答者数(件)	相談場所が遠い	夜間や休日の相談対応が不足している	プライバシーが守られるか不安	相談先の知識や障がい配慮した対応が不足している	実際にかかる時間がかかる	実際に支援が始まるまでに時間がかかる	実際に支援につながらない	どこで、どんな相談ができるのかわからない	訪問での相談が受けられない	じっくり話を聞いてもらえない	相談先が限られている	特にない	その他	無回答
全体	1,468	7.9	6.5	7.3	5.4	7.6	6.0	24.2	0.1	5.1	8.3	40.1	4.0	11.4	
身体+知的 (精神を含む)	265	5.3	4.2	9.4	4.2	5.7	6.0	20.8	0.0	4.5	6.0	38.1	3.8	21.1	
身体 (精神を含む)	303	7.6	5.6	6.3	5.0	5.6	3.6	22.1	0.0	2.0	7.3	45.5	5.0	9.6	
知的 (精神を含む)	364	6.9	7.1	6.0	5.5	11.0	5.5	24.2	0.3	5.2	9.1	37.9	4.9	12.9	
精神	291	13.1	10.7	9.3	7.6	5.8	9.3	27.1	0.3	11.3	12.0	32.6	3.1	7.2	
手帳なし	216	6.0	3.7	6.0	4.6	10.2	6.5	26.9	0.0	2.3	6.9	47.2	2.8	3.7	
無回答	29	10.3	10.3	3.4	6.9	3.4	0.0	27.6	0.0	0.0	3.4	48.3	3.4	20.7	

問16 市のサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。  
(〇はいくつでも)

「市の広報紙」の割合が39.1%と最も高く、次いで「市のホームページ」の割合が22.3%、「家族・親族」の割合が20.4%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「市のホームページ」「SNS、インターネット等」の割合が増加しています。一方、「市の広報紙」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体（精神を含む）で「市の広報紙」、身体（精神を含む）、手帳なしで「市のホームページ」、手帳なしで「学校や保育所・幼稚園など」、知的（精神を含む）で「福祉施設や事業所の職員・スタッフ」、精神で「SNS、インターネット等」の割合が高くなっています。

単位：％

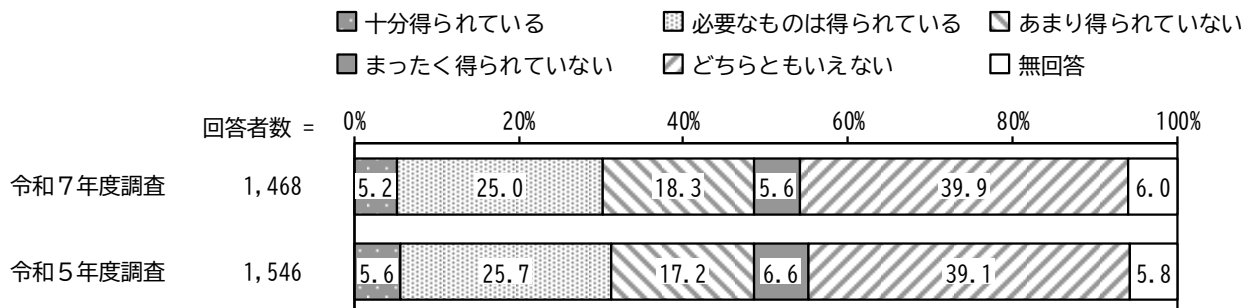
区分	回答者数（件）	市の広報紙	市役所の窓口	市のホームページ	相談支援事業所または相談支援専門員	民生委員・児童委員	障がい者相談員	学校や保育所・幼稚園など	病院などの医療機関	ケアマネジャー
全体	1,468	39.1	19.3	22.3	9.5	0.8	2.9	6.1	12.3	4.0
身体+知的（精神を含む）	265	40.8	21.9	14.7	8.7	0.8	4.2	3.0	12.8	8.7
身体（精神を含む）	303	49.8	17.8	29.4	3.0	1.0	2.3	1.0	13.9	7.6
知的（精神を含む）	364	32.1	17.3	14.3	13.5	0.5	4.4	10.7	7.7	1.9
精神	291	35.1	22.7	25.8	7.9	0.3	2.7	2.4	13.1	0.3
手帳なし	216	39.8	15.7	31.5	14.4	1.9	0.0	13.9	14.4	1.4
無回答	29	34.5	27.6	17.2	17.2	0.0	3.4	10.3	24.1	3.4

区分	福祉施設や事業所の職員・スタッフ	ホームヘルパー・ガイドヘルパー	家族・親族	友人・仲間・近所の人	障がい者団体	マスメディア（新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等）	SNS、インターネット等	情報を得るところがない	その他	無回答
全体	7.9	1.0	20.4	10.7	1.3	3.5	14.9	6.5	2.7	8.0
身体+知的（精神を含む）	7.9	3.0	20.4	12.1	1.5	3.4	12.5	3.4	3.4	14.3
身体（精神を含む）	4.3	1.3	19.5	9.2	1.7	5.9	16.8	6.6	3.0	5.3
知的（精神を含む）	14.0	0.3	24.5	12.1	1.1	1.4	8.5	7.1	3.0	9.6
精神	5.2	0.3	17.5	5.2	1.7	3.8	22.7	10.3	3.4	5.2
手帳なし	6.0	0.5	18.5	13.9	0.5	3.7	16.7	4.2	0.0	3.7
無回答	10.3	0.0	24.1	27.6	0.0	0.0	6.9	3.4	3.4	17.2

問 17 市のサービスの情報は、十分に得られていますか。(○は1つだけ)

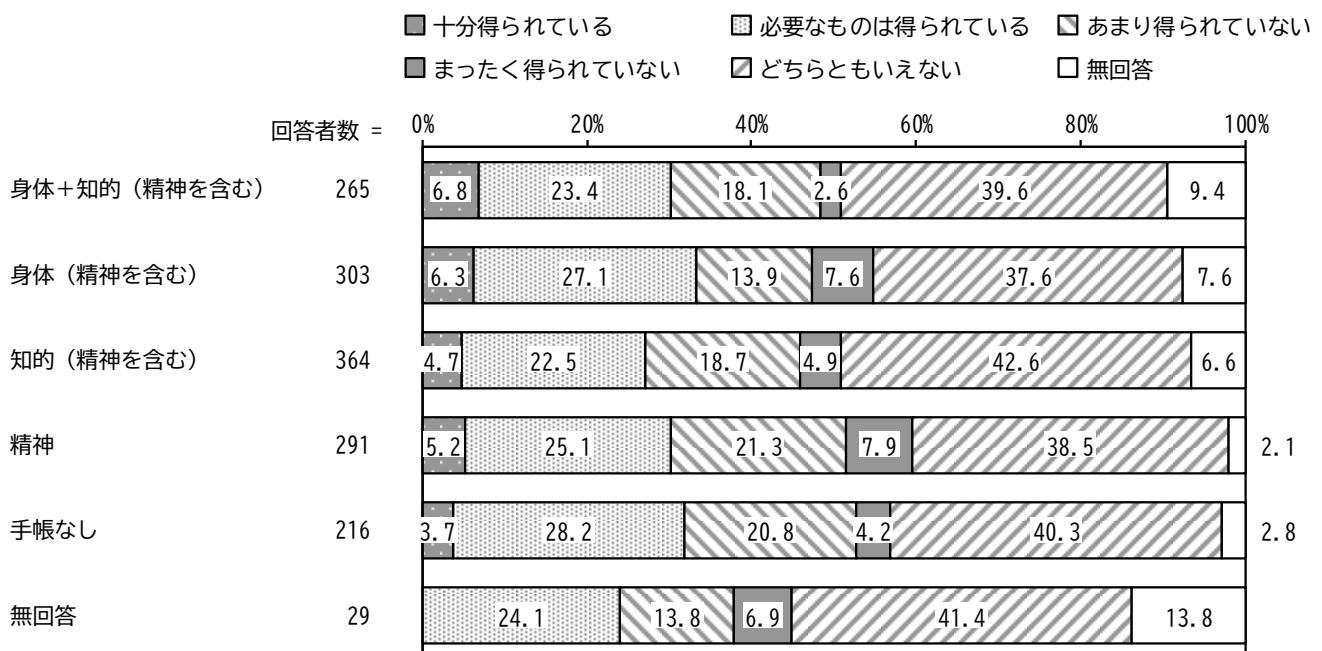
「十分得られている」「必要なものは得られている」を合わせた“得られている”の割合が 30.2%、「あまり得られていない」「まったく得られていない」を合わせた“得られていない”の割合が 23.9%となっています。

令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害種別】

障害種別に見ると、精神で“得られていない”の割合が高くなっています。



【問 17 で「十分得られている」～「まったく得られていない」と回答した方にお聞きします。】

問 17-1 情報が得られている方は、どのような情報が得られているか、また、情報が得られていない方は、どのような情報が必要ですか。具体的にご記入ください。

473 件の記述があり、その中から一部を紹介します。

<情報が得られている方>

- ・ JR の交通費半額の対応など、日常に影響のある物など。
- ・ イベント事や、年間の支出、工事の期間など。
- ・ ガソリン代の補助・障害者手帳の更新時期などの情報が得られているが、障害者就労支援センターや障害者雇用の求人に加え障害者年金の申請の仕方などの情報があまり得られていない。
- ・ こちらから、働きかけしないとどんな支援が受けられるのか分からないことがある。
- ・ こちらから聞かないと有益な情報おえてもらえない。
- ・ コミュニケーション教室などの情報。
- ・ コロナワクチンの接種・定期検診や、給付金についてなど。
- ・ タクシーチケットをうけとれること
- ・ ホームページや広報紙で得られるが見落としもある。同じ内容を個別に配信などできないものか。
- ・ ユーチューブ等で自分で情報を得ているが調べない限り何があるか不明なので一覧が欲しい。
- ・ 医療のサービスや循環バスの乗車証など、とても助かっている。
- ・ 医療費免除その他割引など。
- ・ 何かを相談したい時にどこに行けばいいのかという情報を HP から得ている。(相談すれば)
- ・ 給付金の申請申込みについてなど。
- ・ 健康診断、介護サービス、障害福祉サービス等の案内等。
- ・ 広報誌で、イベントのことを知れる。ホームページで、市が行っている施策や制度について深掘りできる。
- ・ 高速料金の減免、駐車場優先。
- ・ 今は就学に向けての相談がメインで、教育相談室、保育課でその都度必要な手続きなどについての情報は得られていると思います。
- ・ 困ったときに何らかの解決手段を提案、提供してくれる。
- ・ 最初はインターネットで調べて、分からなかった事項は市の福祉担当窓口にいる。
- ・ 作業所の情報が得られた
- ・ 市の広報誌で必要な情報は得られている。
- ・ 市役所の担当窓口の方に教えてもらえる。
- ・ 児童発達支援について情報を得られている。
- ・ 就労支援で就職先の提案。
- ・ 障がい者手帳を持っていると、受けられるサービスについて。
- ・ 申請などの知らせが、ポストに届くのがありがたいです。

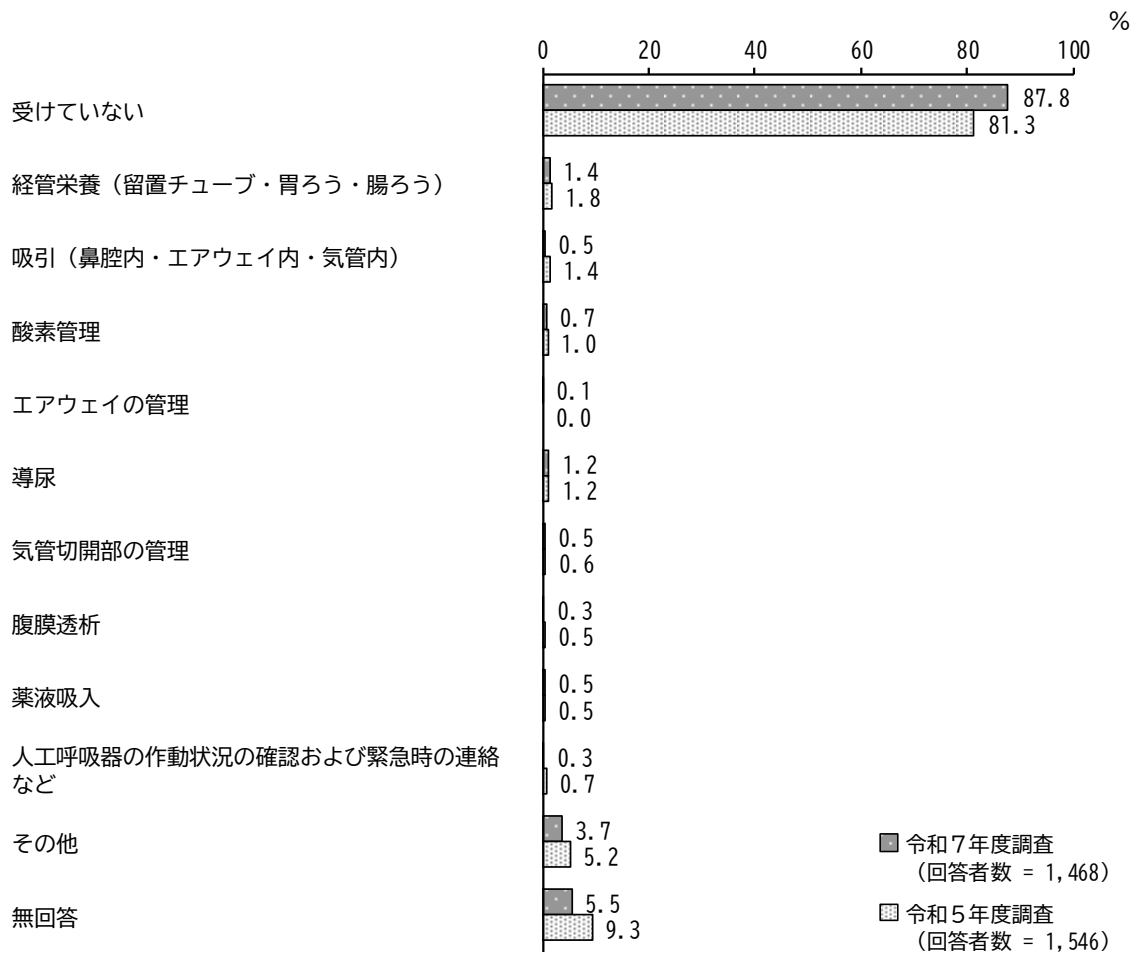
<情報を得られていない方>

- ・62歳なので障害福祉と老人福祉をどう併用しながら何処まで出来るか情報が伝わっていない。
- ・HPが見づらい
- ・SNSでは殆どイベント情報。生活に直結するようなサービス情報も欲しい。
- ・イベントをやってほしい、こういうサービスがあるが、受けているかの情報が欲しい。
- ・グループホームの情報が知りたいです。どこにあるのか、市で運営している所はあるのか、入居するには予算はどれくらい必要か、見学できるのか・・・などなど、知らない事が多いのでどういう所なのか教えて下さい。
- ・こちらが聞かないと、教えてくれない。
- ・こっちにわかる言葉、文章でかいてほしい。
- ・そもそもどんなサービスがあるのかわからない。
- ・どこで、何を聞けるのか、分からない。
- ・どのサービスも、最後に〇〇へお問い合わせ下さい。等と書かれており、正確な情報を得る為には様々な所に電話を掛け総合的に判断しなければならず、不便を感じる。
- ・どんなサービスがあるのか、わかりません。パンフレットのようなものがあるといいと思います。
- ・ネットでの情報が少なすぎる。窓口、対人が原則、かつ職員の能力不足を非常に感じる。
- ・みじかくわかりやすいようにチラシをいれてほしい(長文はリカイできない)。
- ・医療・福祉の情報が得られていない。
- ・何がサービスとしてあるのか受けられるのか知らない。
- ・各種補助金制度、サービス等があるはずなのにその事にあまり触れてないように思う。
- ・金銭面でどのような支援が得られるのか知りたい。
- ・結局自分で調べないとしっかり教えてくれない。市役所に行かないとわからないから、何が必要かもよくわからない。
- ・更生医療費について、その対象の医療行為だったにも関わらず事前申請の規則を知らなかったことで申請不可なり、高額な医療費を自費負担する事になった。
- ・今の自分の状況で受けられる支援や施設等の情報が知りたいが、能動的に情報収集しない限り知り得ない事が多い。
- ・在宅で仕事をしたいが、受けられる支援が分からず、そういった情報がほしい。
- ・市のサービスで他にも受けられるサービスがあるかもしれないが、どういうものがあるか分からない。もっと広くサービス内容を周知してほしい。
- ・市の情報がどこにのっているのか分からない。
- ・支援員を探す際に窓口に行っても詳しくは教えてもらえず、自分で探して下さいという感じだったので、もう少し一緒に探してもらえるようなサポートがほしい。
- ・自分が該当するサービスがどれなのかわからない。
- ・自分の障害で使える福祉サービスの種類・内容・申し込み方法等とにかく全てが市の職員の説明があってやっと開示されるので情報へのアクセスの仕方が解決すべき最優先だと思う。
- ・障害者が市から受けられるサービスには、どの様なものがあるか、あまり知らない。
- ・情報がどこにあるかわからない。

## 5 医療的ケアについて

問18 あなたは、医療的な支援（医療的ケア）を受けていますか。（○はいくつでも）

「受けていない」の割合が87.8%と最も高くなっています。  
令和5年度調査と比較すると、「受けていない」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、精神、手帳なしで「受けていない」の割合が高くなっています。

単位：％

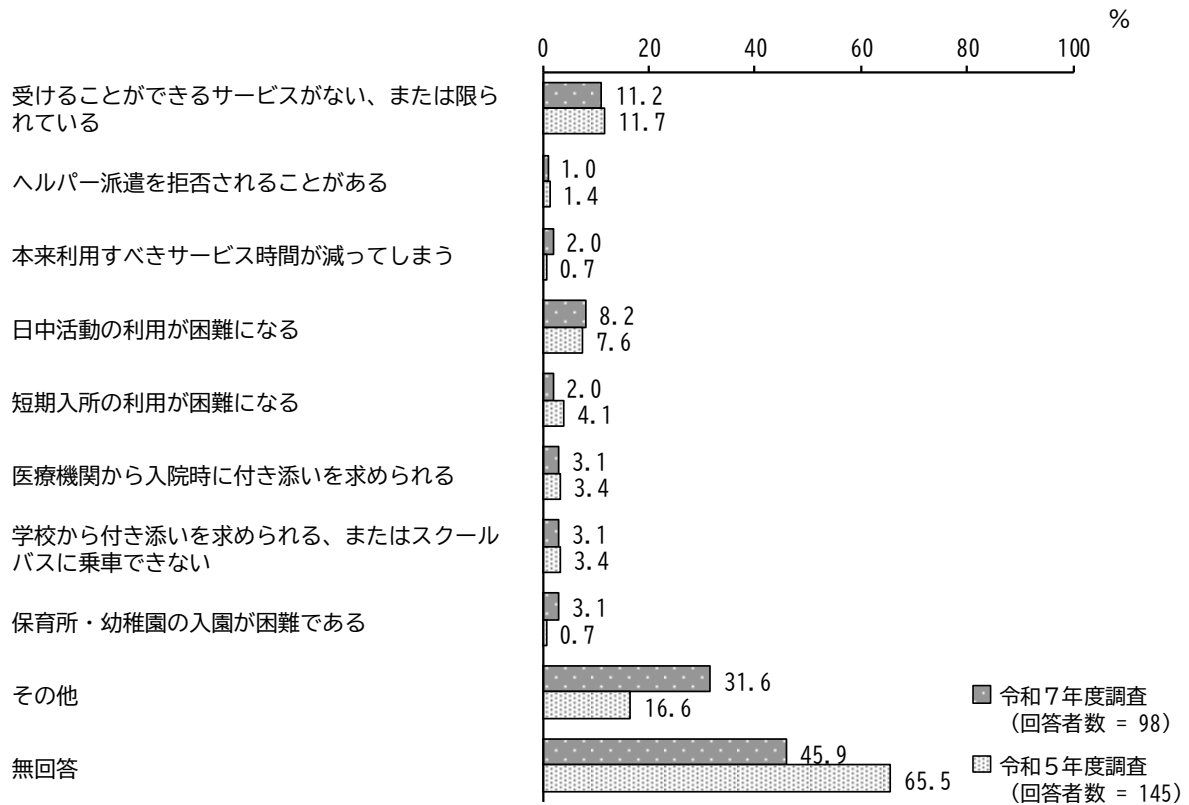
区分	回答者数(件)	受けていない	経管栄養(留置チューブ・胃ろう・腸ろう)	吸引(鼻腔内・エアウェイ内・気管内)	酸素管理	エアウェイの管理	導尿	気管切開部の管理	腹膜透析	薬液吸入	人工呼吸器の作動状況の確認および緊急時の連絡など	その他	無回答
全体	1,468	87.8	1.4	0.5	0.7	0.1	1.2	0.5	0.3	0.5	0.3	3.7	5.5
身体+知的 (精神を含む)	265	78.9	3.0	1.9	1.1	0.0	2.3	1.1	0.8	0.8	1.1	6.4	9.1
身体 (精神を含む)	303	83.5	2.6	1.0	1.7	0.3	3.0	1.3	0.7	1.0	0.3	6.3	4.6
知的 (精神を含む)	364	90.1	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	6.6
精神	291	93.8	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	2.4	3.1
手帳なし	216	94.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.9	3.7
無回答	29	79.3	0.0	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	3.4	3.4	6.9

【問 18 で「経管栄養～その他」と回答した方にお聞きします。】

問 18-1 日常生活の中で、医療的ケアに関してお困りのことがありますか。  
(〇はいくつでも)

「受けることができるサービスがない、または限られている」の割合が 11.2%と最も高くなっています。

令和 5 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害種別】

障害種別にみると、身体+知的（精神を含む）で「医療機関から入院時に付き添いを求められる」「学校から付き添いを求められる、またはスクールバスに乗車できない」の割合が高くなっています。

単位：%

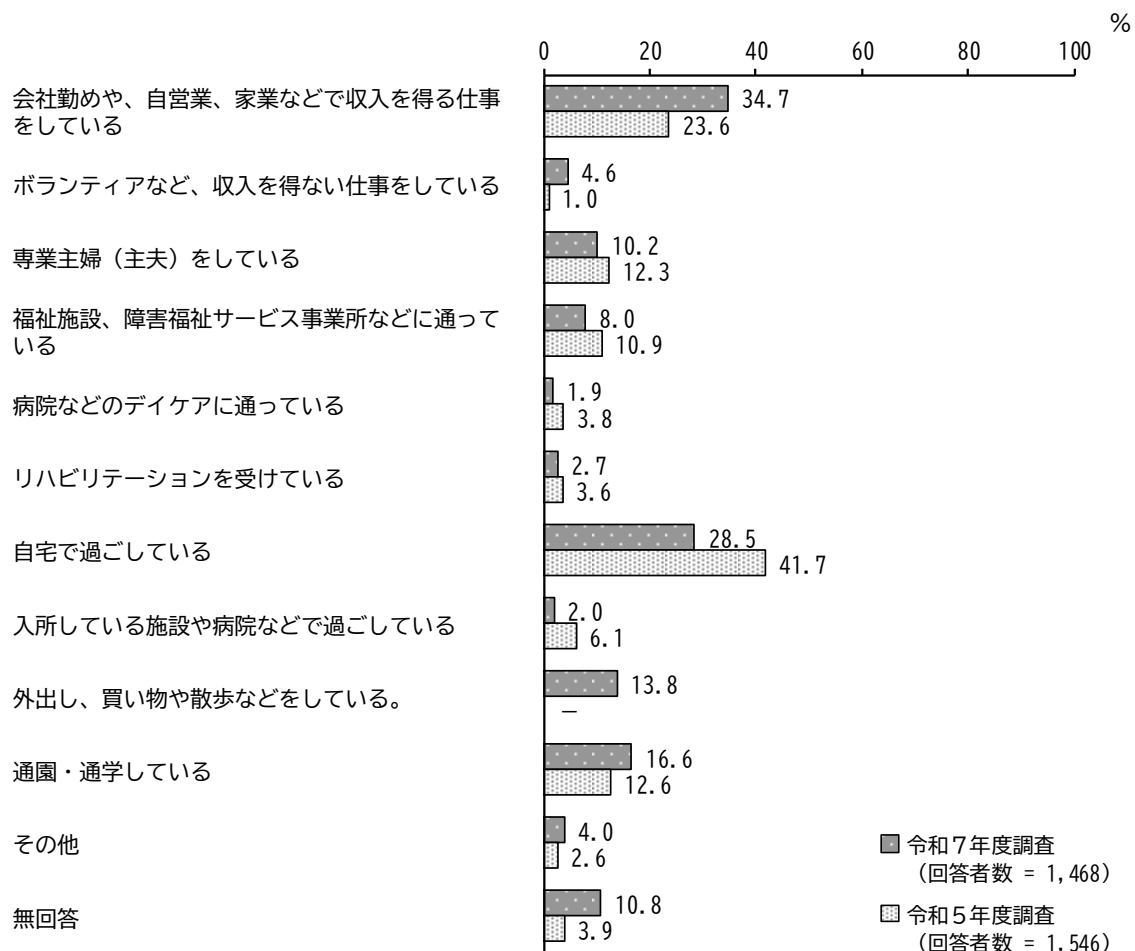
区分	回答者数 (件)	受けることができるサービスがない、または限られている	ヘルパー派遣を拒否されることがある	本来利用すべきサービス時間が減ってしまう	日中活動の利用が困難になる	短期入所の利用が困難になる	医療機関から入院時に付き添いを求められる	学校から付き添いを求められる、またはスクールバスに乗車できない	保育所・幼稚園の入園が困難である	その他	無回答
全体	98	11.2	1.0	2.0	8.2	2.0	3.1	3.1	3.1	31.6	45.9
身体+知的（精神を含む）	32	12.5	3.1	0.0	12.5	6.3	9.4	9.4	3.1	25.0	46.9
身体（精神を含む）	36	13.9	0.0	2.8	8.3	0.0	0.0	0.0	2.8	30.6	44.4
知的（精神を含む）	12	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	41.7
精神	9	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.4	33.3
手帳なし	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0
無回答	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

## 6 日中の活動や仕事の状況について

### 問19 平日の日中は主にどのように過ごしていますか。(主なもの3つまでに○)

「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」の割合が34.7%と最も高く、次いで「自宅で過ごしている」の割合が28.5%、「通園・通学している」の割合が16.6%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」の割合が増加しています。一方、「自宅で過ごしている」の割合が減少しています。



※令和5年度調査では、「外出し、買い物や散歩などをしている。」がありませんでした。

【障害種別】

障害種別にみると、身体（精神を含む）で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている」、知的（精神を含む）で「福祉施設、障害福祉サービス事業所などに通っている」、精神で「自宅で過ごしている」「外出し、買い物や散歩などをしている。」、手帳なしで「通園・通学している」の割合が高くなっています。

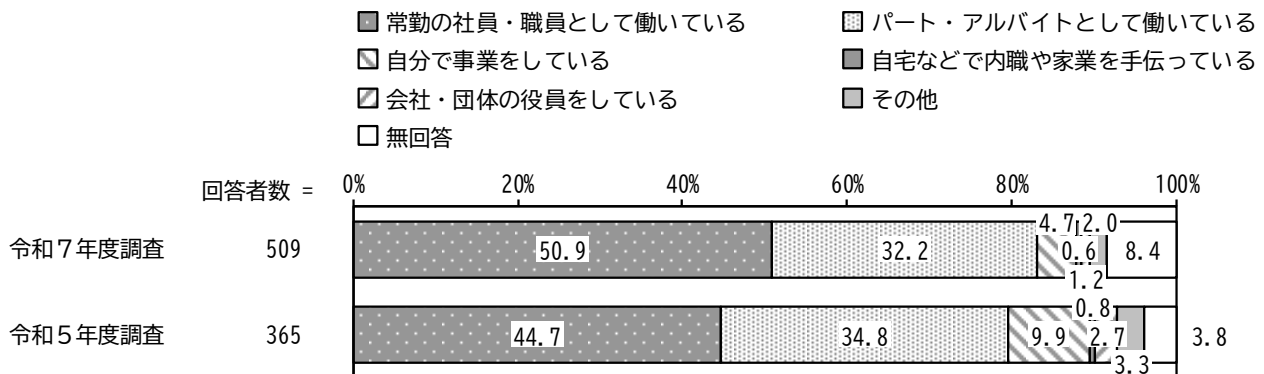
単位：％

区分	回答者数（件）	会社勤めや、自営業、家業などで収入を得る仕事をしている	ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	専業主婦（主夫）をしている	福祉施設、障害福祉サービス事業所などに通っている	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている	入所している施設や病院などで過ごしている	外出し、買い物や散歩などをしている。	通園・通学している	その他	無回答
全体	1,468	34.7	4.6	10.2	8.0	1.9	2.7	28.5	2.0	13.8	16.6	4.0	10.8
身体+知的（精神を含む）	265	32.1	6.0	12.8	8.7	1.9	3.4	29.8	0.8	13.2	7.5	5.7	19.2
身体（精神を含む）	303	42.9	5.3	14.2	2.6	4.0	6.6	31.7	4.0	12.9	3.3	4.0	6.9
知的（精神を含む）	364	28.8	6.0	6.6	14.6	0.5	0.5	17.0	2.7	11.0	27.2	3.0	14.6
精神	291	37.5	2.4	9.6	10.7	2.7	1.0	48.1	1.4	20.3	6.5	4.1	5.5
手帳なし	216	35.2	3.2	8.8	0.9	0.0	1.9	16.2	0.9	12.0	40.3	3.2	4.2
無回答	29	13.8	0.0	6.9	3.4	3.4	3.4	24.1	0.0	13.8	27.6	3.4	27.6

問 20 あなたは、現在、どのように働いていますか。(○は1つだけ)

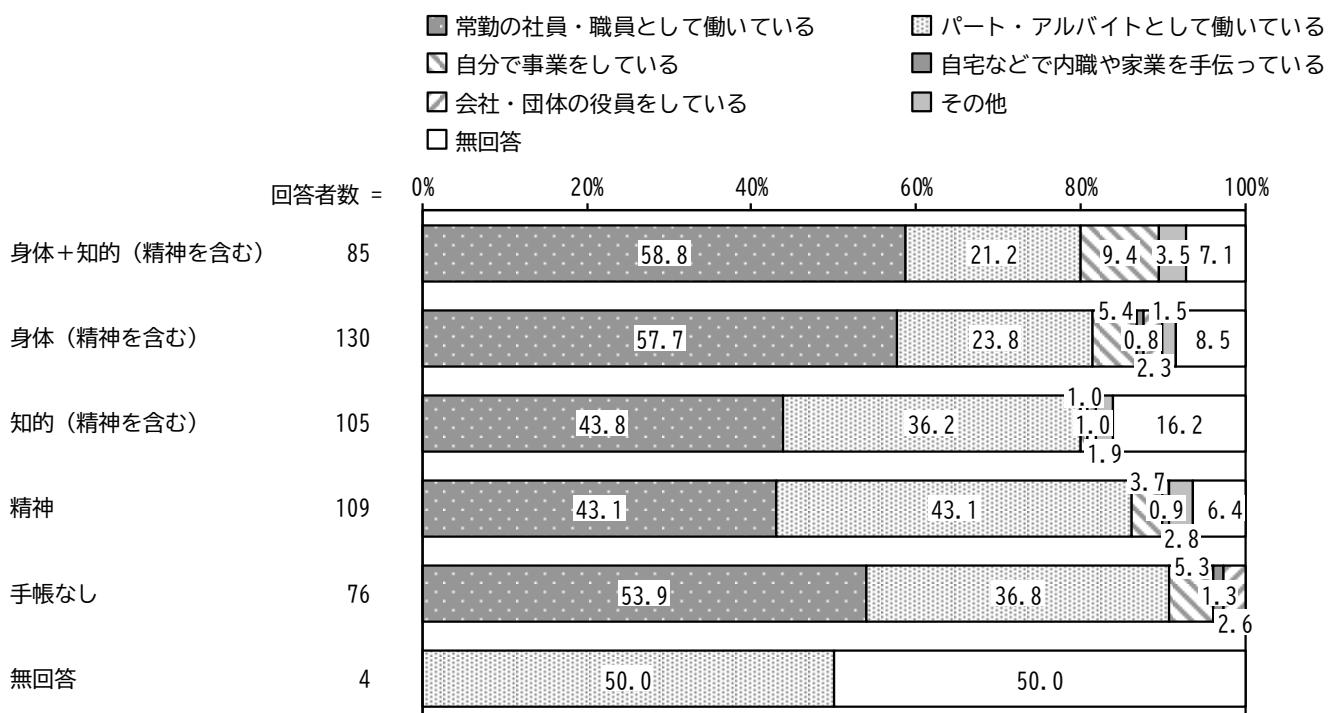
「常勤の社員・職員として働いている」の割合が 50.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイトとして働いている」の割合が 32.2%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「常勤の社員・職員として働いている」の割合が増加しています。一方、「自分で事業をしている」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体+知的（精神を含む）、身体（精神を含む）で「常勤の社員・職員として働いている」、精神で「パート・アルバイトとして働いている」の割合が高くなっています。

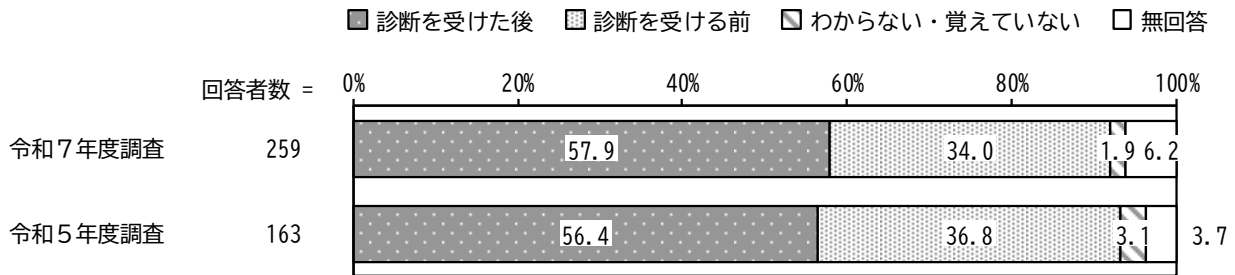


【問 20 で「常勤の社員・職員として働いている」と回答した方にお聞きします。】

問 20－1 現在の職場に就職したのは、疾患や障がいの診断を受ける後でしたか。  
 (○は1つだけ)

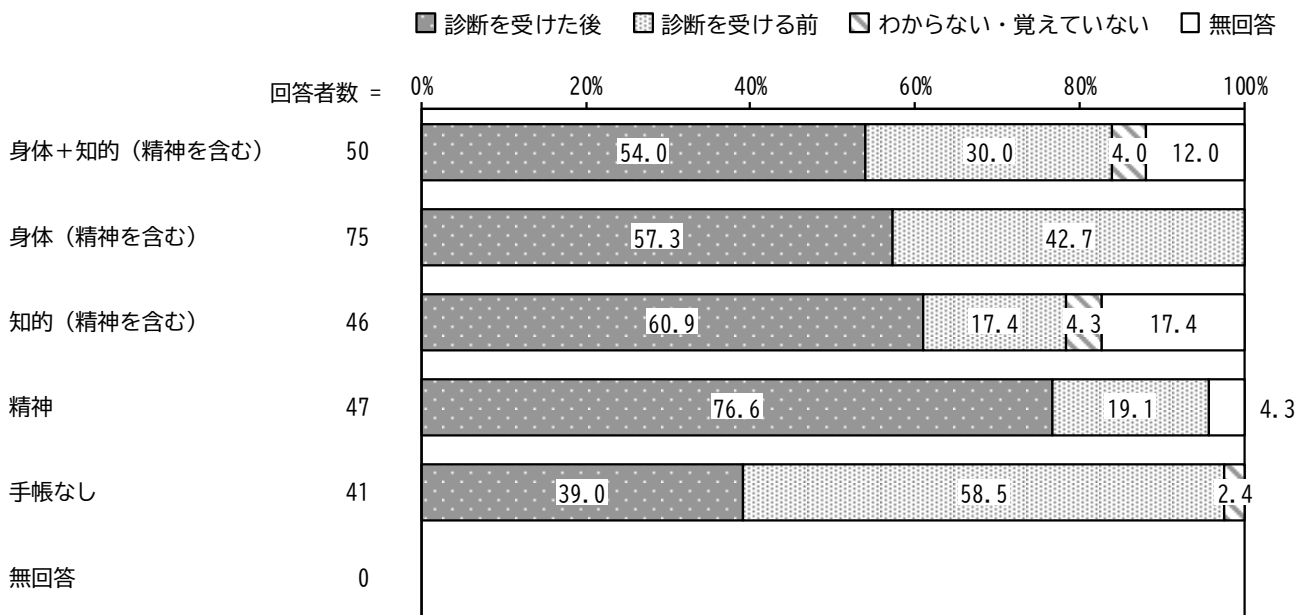
「診断を受けた後」の割合が 57.9%、「診断を受ける前」の割合が 34.0%、「わからない・覚えていない」の割合が 1.9%となっています。

令和 5 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害種別】

障害種別にみると、精神で「診断を受けた後」、手帳なしで「診断を受ける前」の割合が高くなっています。

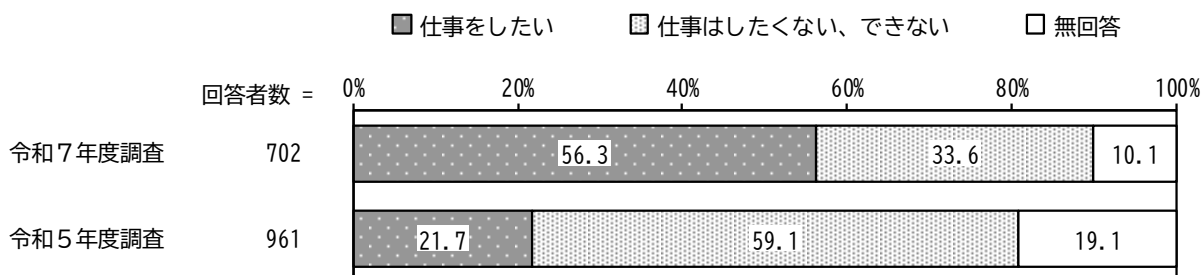


【問 19 で「ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている」～「外出し、買い物や散歩などを行っている。」と回答した方にお聞きします。】

問 21 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いませんか。(○は1つだけ)

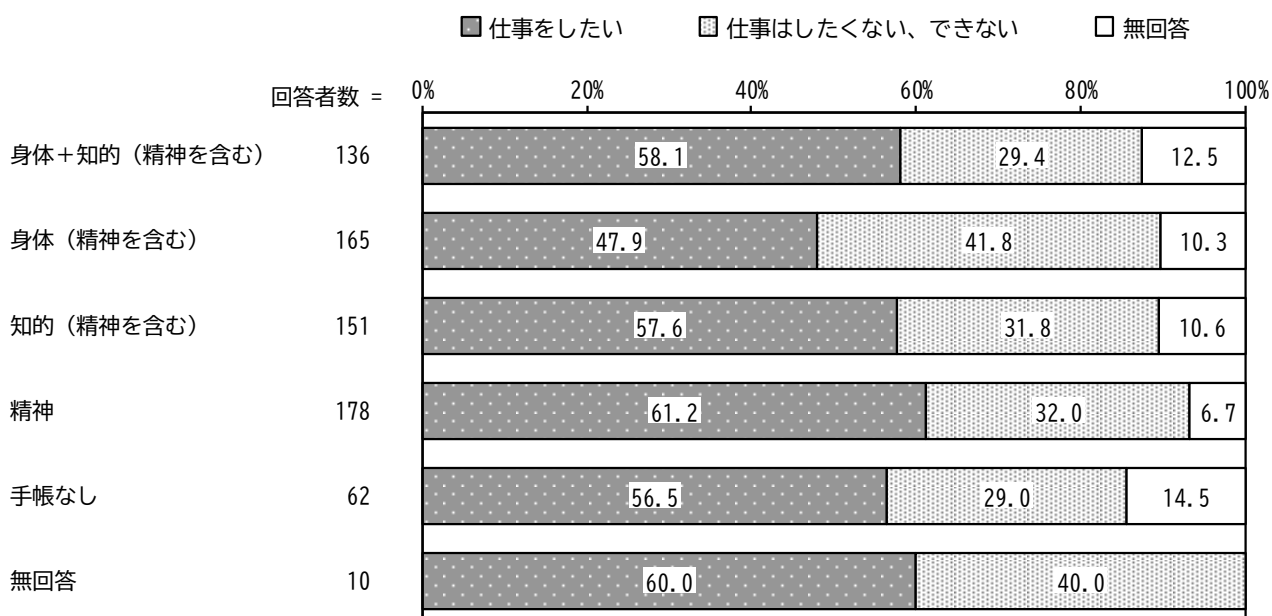
「仕事をしたい」の割合が 56.3%、「仕事はしたくない、できない」の割合が 33.6%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「仕事をしたい」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体（精神を含む）で「仕事はしたくない、できない」の割合が高くなっています。

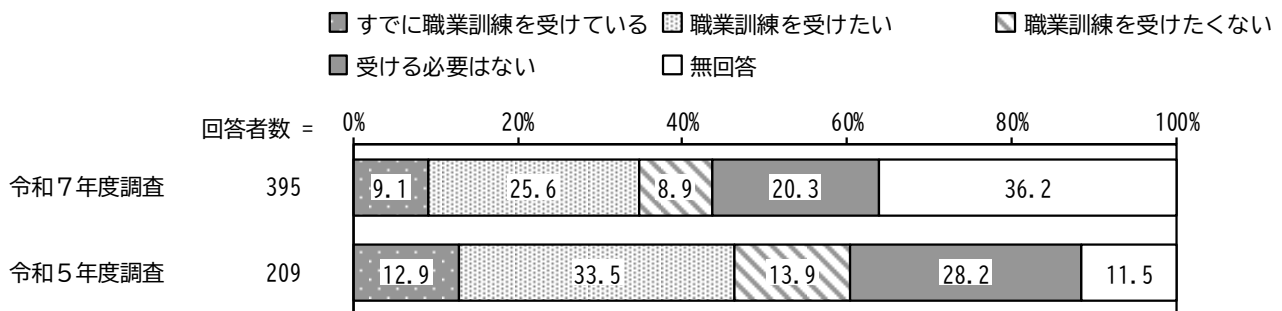


【問 21 で「仕事をしたい」と回答した方にお聞きします。】

問 21-1 収入を得る仕事に就くために、職業訓練などを受けたいと思いますか。  
(○は1つだけ)

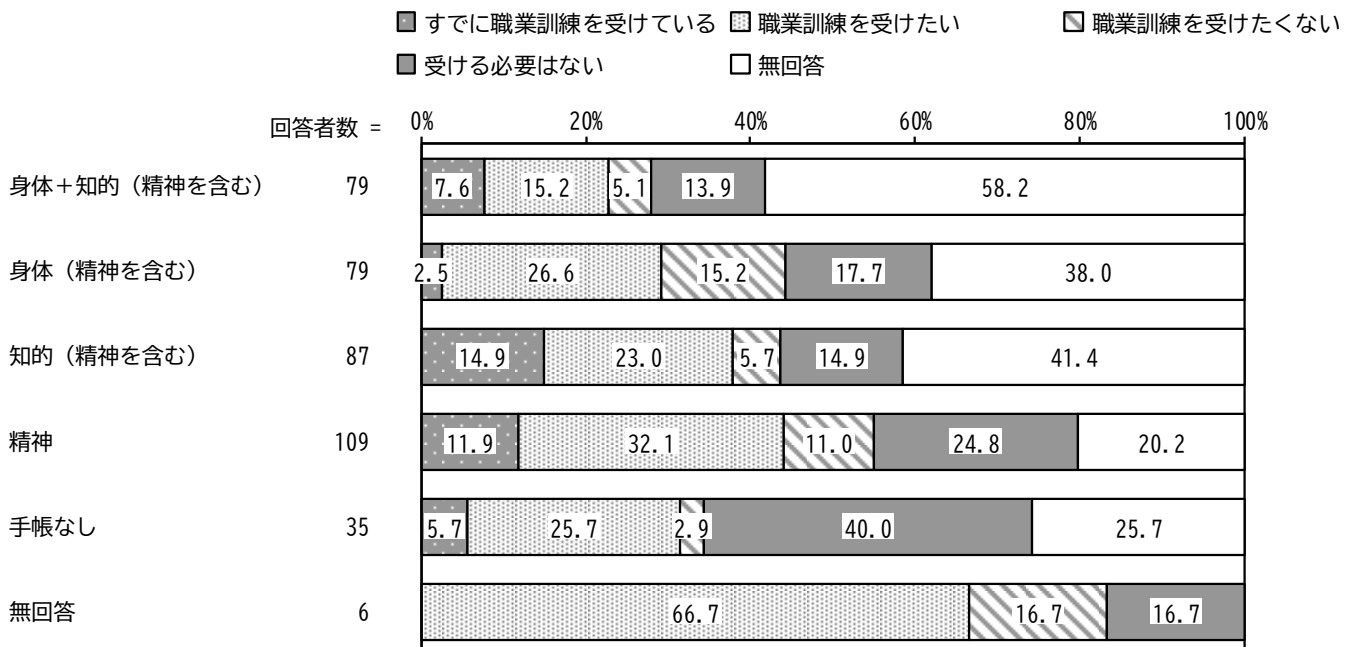
「職業訓練を受けたい」の割合が 25.6%と最も高く、次いで「受ける必要はない」の割合が 20.3%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「職業訓練を受けたい」「受ける必要はない」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別に見ると、手帳なしで「受ける必要はない」の割合が高く、身体+知的（精神を含む）で「職業訓練を受けたい」の割合が低くなっています。

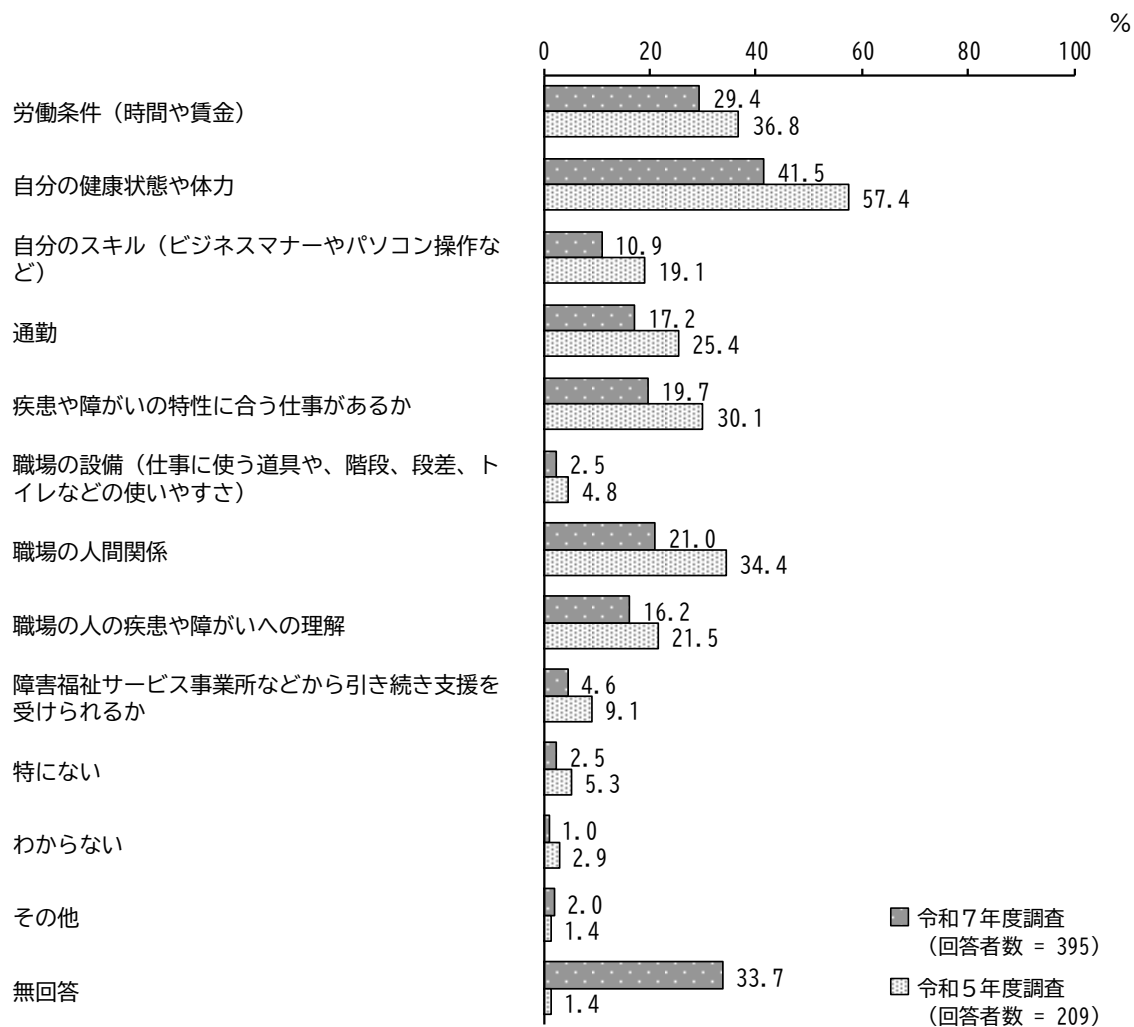


【問 21 で「仕事をしたい」と回答した方にお聞きします。】

問 21-2 働くにあたって、特に心配なことはありますか。(主なもの3つまでに○)

「自分の健康状態や体力」の割合が 41.5%と最も高く、次いで「労働条件(時間や賃金)」の割合が 29.4%、「職場の人間関係」の割合が 21.0%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「労働条件(時間や賃金)」「自分の健康状態や体力」「自分のスキル(ビジネスマナーやパソコン操作など)」「通勤」「疾患や障がいの特性に合う仕事があるか」「職場の人間関係」「職場の人の疾患や障がいへの理解」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、精神で「労働条件（時間や賃金）」「自分のスキル（ビジネスマナーやパソコン操作など）」「職場の人間関係」、身体（精神を含む）、精神で「自分の健康状態や体力」「通勤」、身体（精神を含む）で「疾患や障がいの特性に合う仕事があるか」「職場の設備（仕事に使う道具や、階段、段差、トイレなどの使いやすさ）」の割合が高くなっています。

単位：％

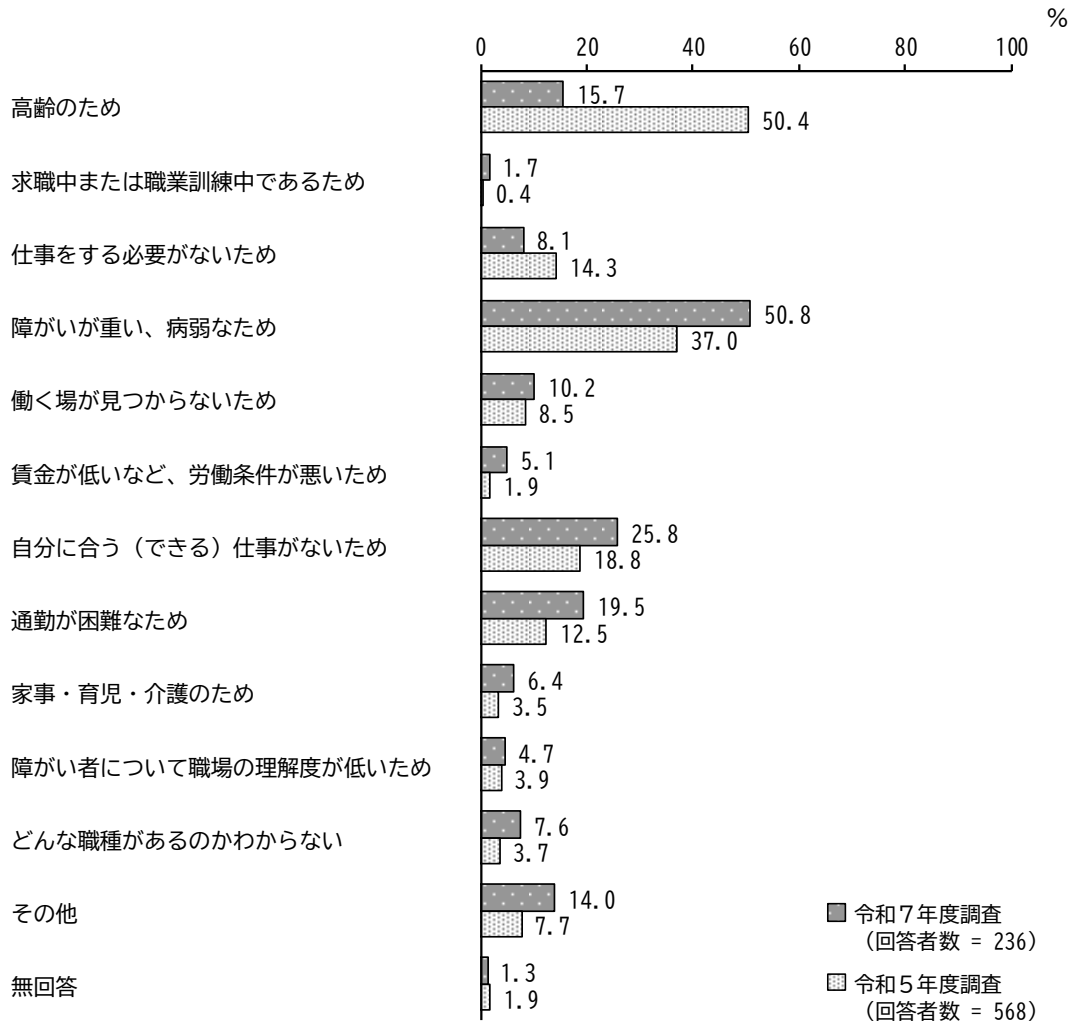
区分	回答者数（件）	労働条件（時間や賃金）	自分の健康状態や体力	自分のスキル（ビジネスマナーやパソコン操作など）	通勤	疾患や障がいの特性に合う仕事があるか	職場の設備（仕事に使う道具や、階段、段差、トイレなどの使いやすさ）	職場の人間関係	職場の人の疾患や障がいへの理解	障害福祉サービス事業所などから引き続き支援を受けられるか	特にない	わからない	その他	無回答
全体	395	29.4	41.5	10.9	17.2	19.7	2.5	21.0	16.2	4.6	2.5	1.0	2.0	33.7
身体+知的（精神を含む）	79	16.5	34.2	5.1	15.2	20.3	3.8	17.7	13.9	3.8	3.8	1.3	1.3	44.3
身体（精神を含む）	79	27.8	50.6	10.1	22.8	25.3	8.9	8.9	10.1	3.8	1.3	1.3	1.3	35.4
知的（精神を含む）	87	25.3	26.4	9.2	6.9	23.0	0.0	23.0	20.7	8.0	2.3	1.1	1.1	37.9
精神	109	41.3	52.3	17.4	22.9	17.4	0.0	31.2	19.3	2.8	1.8	0.9	3.7	22.0
手帳なし	35	37.1	40.0	8.6	17.1	5.7	0.0	17.1	14.3	2.9	5.7	0.0	2.9	34.3
無回答	6	16.7	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7

【問 21 で「仕事はしたくない、できない」と回答した方にお聞きします。】

問 21-3 仕事はしたくない、できないと思う理由は何ですか。(主なもの3つまでに○)

「障がい重い、病弱なため」の割合が 50.8%と最も高く、次いで「自分に合う(できる)仕事がないため」の割合が 25.8%、「通勤が困難なため」の割合が 19.5%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「障がい重い、病弱なため」「自分に合う(できる)仕事がないため」「通勤が困難なため」の割合が増加しています。一方、「高齢のため」「仕事をする必要がないため」の割合が減少しています。



※令和5年度調査では、「どんな職種があるのかわからない」が「わからない」となっていました。

【障害種別】

障害種別にみると、身体+知的（精神を含む）で「高齢のため」「家事・育児・介護のため」、手帳なしで「働く場が見つからないため」、精神で「自分に合う（できる）仕事がないため」、身体（精神を含む）で「通勤が困難なため」の割合が高くなっています。

単位：%

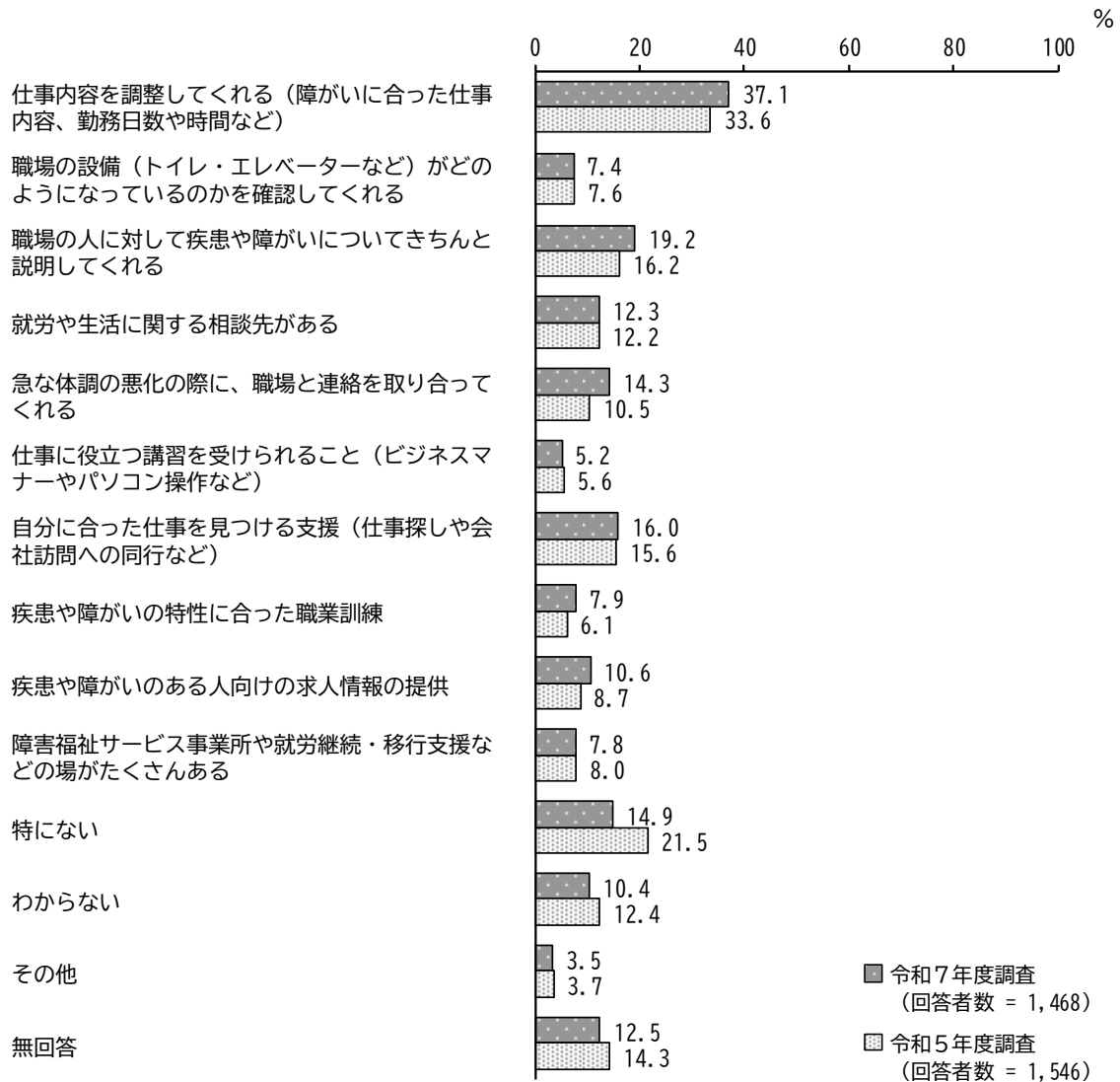
区分	回答者数（件）	高齢のため	求職中または職業訓練中であるため	仕事をする必要がないため	障がい（重い、病弱なため）	働く場が見つからないため	賃金が低いなど、労働条件が悪いため	自分に合う（できる）仕事がないため	通勤が困難なため	家事・育児・介護のため	障がい者について職場の理解度が低いため	どんな職種があるかわからない	その他	無回答
全体	236	15.7	1.7	8.1	50.8	10.2	5.1	25.8	19.5	6.4	4.7	7.6	14.0	1.3
身体+知的（精神を含む）	40	32.5	0.0	10.0	52.5	10.0	2.5	22.5	15.0	12.5	5.0	7.5	7.5	0.0
身体（精神を含む）	69	21.7	1.4	13.0	55.1	8.7	2.9	21.7	24.6	4.3	1.4	2.9	7.2	0.0
知的（精神を含む）	48	6.3	2.1	8.3	54.2	8.3	8.3	29.2	22.9	4.2	8.3	12.5	10.4	6.3
精神	57	5.3	3.5	0.0	45.6	12.3	7.0	35.1	17.5	5.3	5.3	10.5	26.3	0.0
手帳なし	18	16.7	0.0	11.1	33.3	16.7	0.0	11.1	0.0	5.6	0.0	0.0	27.8	0.0
無回答	4	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0

【ここから再び全員の方にお聞きします。】

問 22 あなたが働く際、特にどのような支援があったらよいと思いますか。  
(主なもの3つまでに○)

「仕事内容を調整してくれる(障がいにあった仕事内容、勤務日数や時間など)」の割合が37.1%と最も高く、次いで「職場の人に対して疾患や障がいについてきちんと説明してくれる」の割合が19.2%、「自分に合った仕事を見つける支援(仕事探しや会社訪問への同行など)」の割合が16.0%となっています。

令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害種別】

障害種別にみると、精神で「仕事内容を調整してくれる（障がいにあった仕事内容、勤務日数や時間など）」「職場の人に対して疾患や障がいについてきちんと説明してくれる」「就労や生活に関する相談先がある」「急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる」「自分に合った仕事を見つける支援（仕事探しや会社訪問への同行など）」、身体+知的（精神を含む）、身体（精神を含む）で「職場の設備（トイレ・エレベーターなど）がどのようになっているのかを確認してくれる」、知的（精神を含む）で「障害福祉サービス事業所や就労継続・移行支援などの場がたくさんある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	仕事内容を調整してくれる（障がいにあった仕事内容、勤務日数や時間など）	職場の設備（トイレ・エレベーターなど）がどのようにになっているのかを確認してくれる	職場の人に対して疾患や障がいについてきちんと説明してくれる	就労や生活に関する相談先がある	急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる	仕事に役立つ講習を受けられること（ビジネスマナーやパソコン操作など）	自分に合った仕事を見つける支援（仕事探しや会社訪問への同行など）
全体	1,468	37.1	7.4	19.2	12.3	14.3	5.2	16.0
身体+知的（精神を含む）	265	31.3	12.8	12.1	7.2	10.6	3.8	10.6
身体（精神を含む）	303	37.6	14.2	19.8	7.3	11.2	3.6	10.6
知的（精神を含む）	364	33.0	3.0	20.6	13.7	11.8	5.2	20.6
精神	291	51.2	3.8	26.8	19.6	23.7	7.2	21.3
手帳なし	216	32.4	3.2	15.7	12.5	13.9	6.5	15.3
無回答	29	31.0	6.9	10.3	17.2	20.7	6.9	17.2

区分	疾患や障がいの特性に合った職業訓練	疾患や障がいのある人向けの求人情報の提供	障害福祉サービス事業所や就労継続・移行支援などの場がたくさんある	特になし	わからない	その他	無回答
全体	7.9	10.6	7.8	14.9	10.4	3.5	12.5
身体+知的（精神を含む）	6.0	9.8	8.7	13.6	12.1	4.5	19.2
身体（精神を含む）	4.6	12.9	2.6	21.8	9.6	3.0	10.6
知的（精神を含む）	12.1	7.4	13.2	11.3	8.2	4.1	17.3
精神	7.9	13.1	8.9	6.2	7.9	3.4	6.2
手帳なし	8.3	9.7	4.2	24.1	15.3	1.9	6.0
無回答	3.4	13.8	3.4	17.2	17.2	3.4	20.7

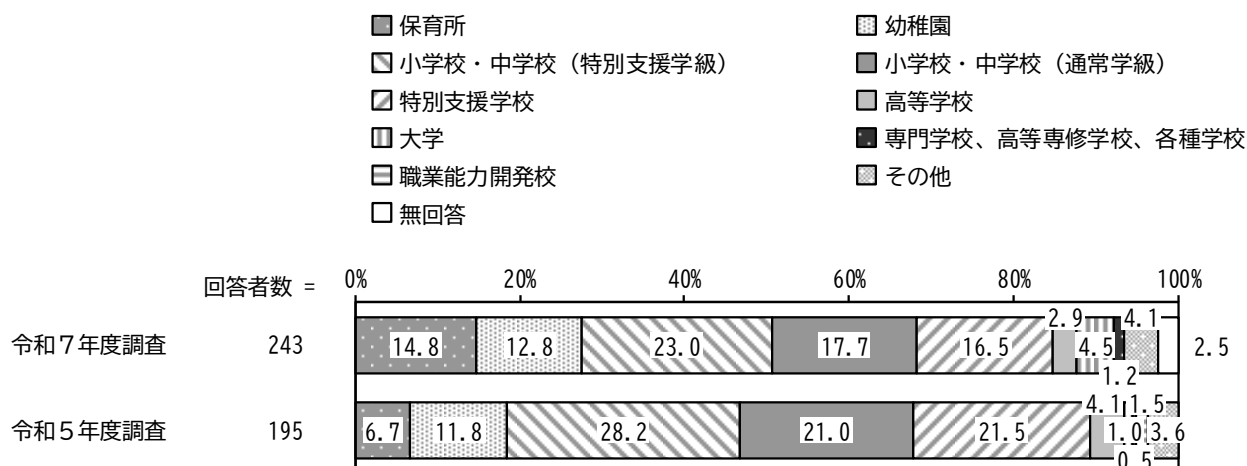
## 7 通園・通学している方に

【問23～問27は、問19で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。】

### 問23 通園・通学しているところはどこですか。(○は1つだけ)

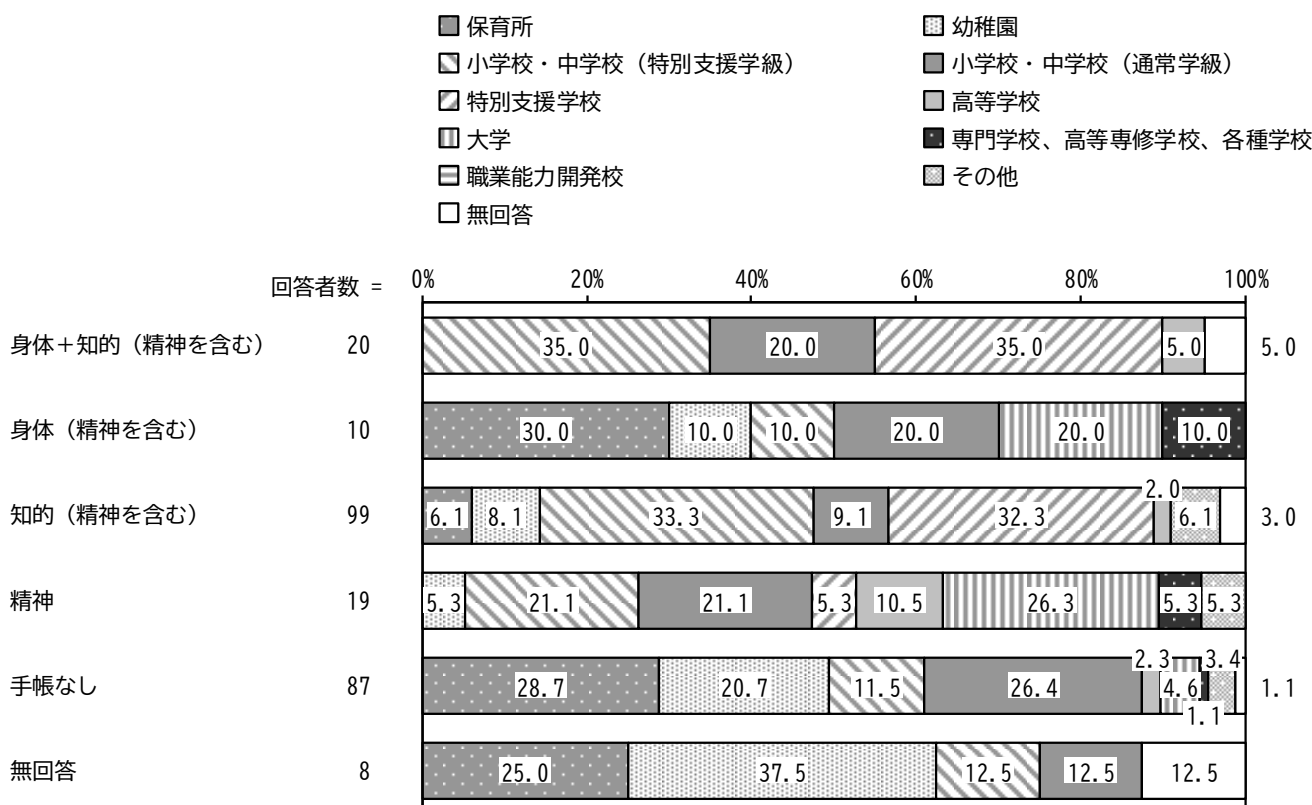
「小学校・中学校（特別支援学級）」の割合が23.0%と最も高く、次いで「小学校・中学校（通常学級）」の割合が17.7%、「特別支援学校」の割合が16.5%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「保育所」の割合が増加しています。一方、「小学校・中学校（特別支援学級）」の割合が減少しています。



### 【障害種別】

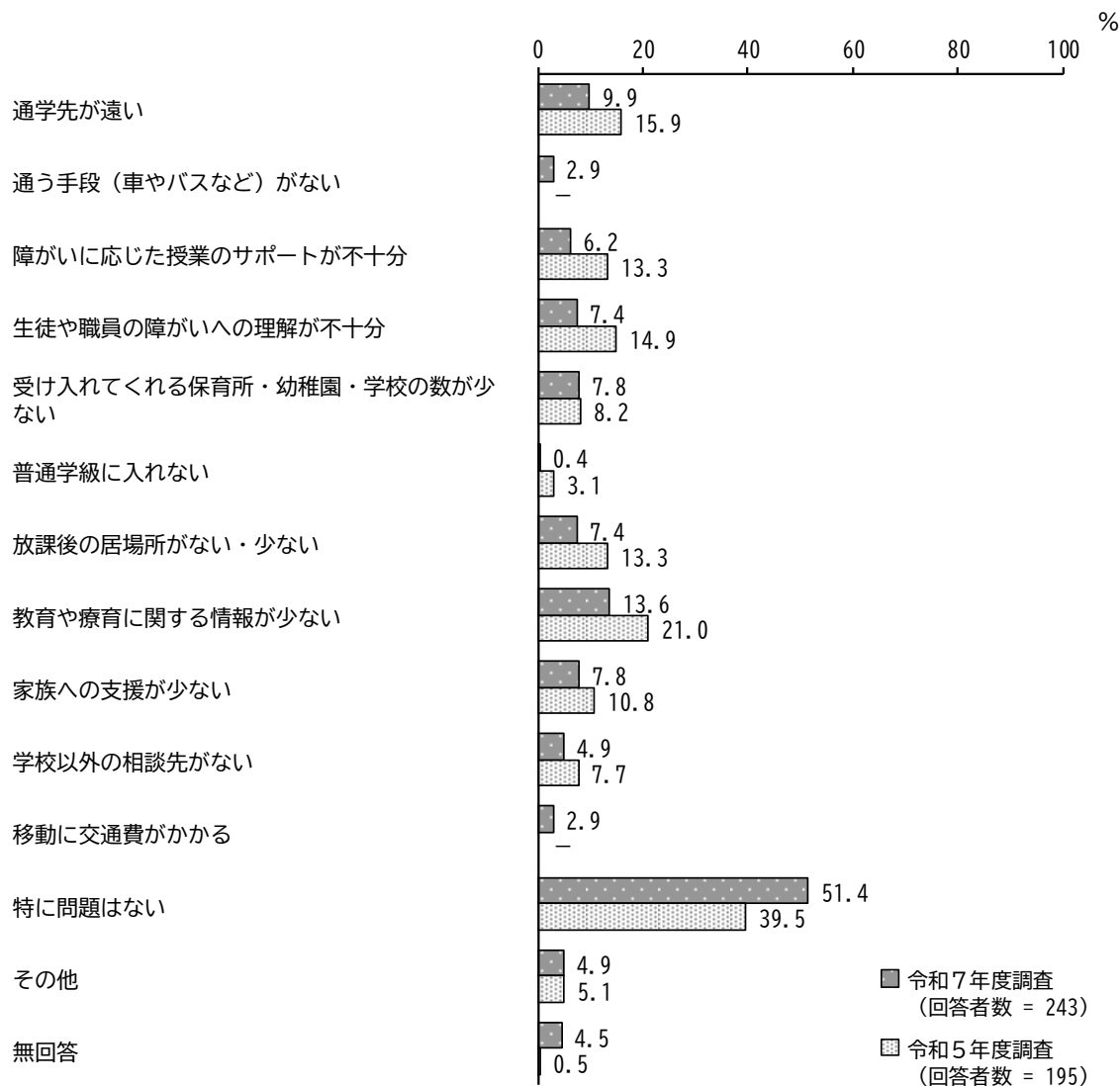
障害種別にみると、身体（精神を含む）、手帳なしで「保育所」、身体+知的（精神を含む）、知的（精神を含む）で「小学校・中学校（特別支援学級）」「特別支援学校」、精神で「大学」の割合が高くなっています。



問 24 通園・通学などで困っていることはありますか。(主なもの3つまでに○)

「教育や療育に関する情報が少ない」の割合が13.6%と最も高くなっています。

令和5年度調査と比較すると、「通学先が遠い」「障がいに応じた授業のサポートが不十分」「生徒や職員の障がいへの理解が不十分」「放課後の居場所がない・少ない」「教育や療育に関する情報が少ない」の割合が減少しています。



※令和5年度調査では、「通学先が遠い」が「通うのが大変」となっており、「通う手段(車やバスなど)がない」、「移動に交通費がかかる」がありませんでした。

【障害種別】

障害種別にみると、身体+知的（精神を含む）で「通学先が遠い」「教育や療育に関する情報が少ない」「家族への支援が少ない」、身体（精神を含む）で「通う手段（車やバスなど）がない」「障がいに応じた授業のサポートが不十分」、精神で「学校以外の相談先がない」「移動に交通費がかかる」の割合が高くなっています。

単位：%

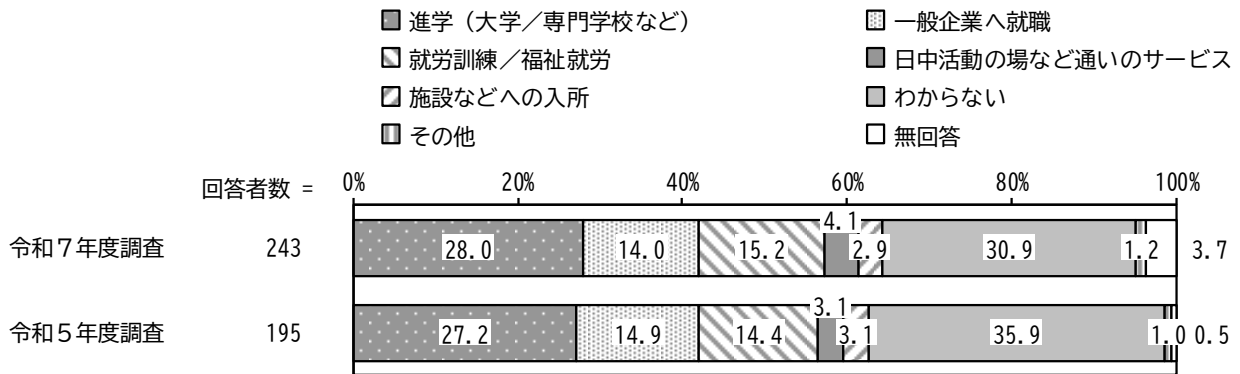
区分	回答者数(件)	通学先が遠い	通う手段(車やバスなど)がない	障がいに応じた授業のサポートが不十分	生徒や職員の障がいへの理解が不十分	受け入れてくれる保育所・幼稚園・学校の数が少ない	普通学級に入れない	放課後の居場所がない・少ない
全体	243	9.9	2.9	6.2	7.4	7.8	0.4	7.4
身体+知的(精神を含む)	20	30.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	5.0
身体(精神を含む)	10	10.0	10.0	20.0	10.0	10.0	0.0	0.0
知的(精神を含む)	99	7.1	2.0	5.1	6.1	5.1	0.0	9.1
精神	19	10.5	0.0	10.5	10.5	10.5	0.0	10.5
手帳なし	87	9.2	4.6	4.6	8.0	11.5	1.1	5.7
無回答	8	0.0	0.0	0.0	25.0	12.5	0.0	12.5

区分	教育や療育に関する情報が少ない	家族への支援が少ない	学校以外の相談先がない	移動に交通費がかかる	特に問題はない	その他	無回答
全体	13.6	7.8	4.9	2.9	51.4	4.9	4.5
身体+知的(精神を含む)	20.0	15.0	0.0	0.0	25.0	5.0	20.0
身体(精神を含む)	10.0	0.0	0.0	10.0	50.0	10.0	0.0
知的(精神を含む)	15.2	10.1	7.1	2.0	50.5	5.1	6.1
精神	10.5	0.0	10.5	15.8	42.1	5.3	0.0
手帳なし	11.5	6.9	3.4	1.1	59.8	4.6	1.1
無回答	12.5	0.0	0.0	0.0	62.5	0.0	0.0

問 25 将来（高等学校または高等部卒業後）の進路について、希望しているものはどれですか。（○は主なものに1つだけ）

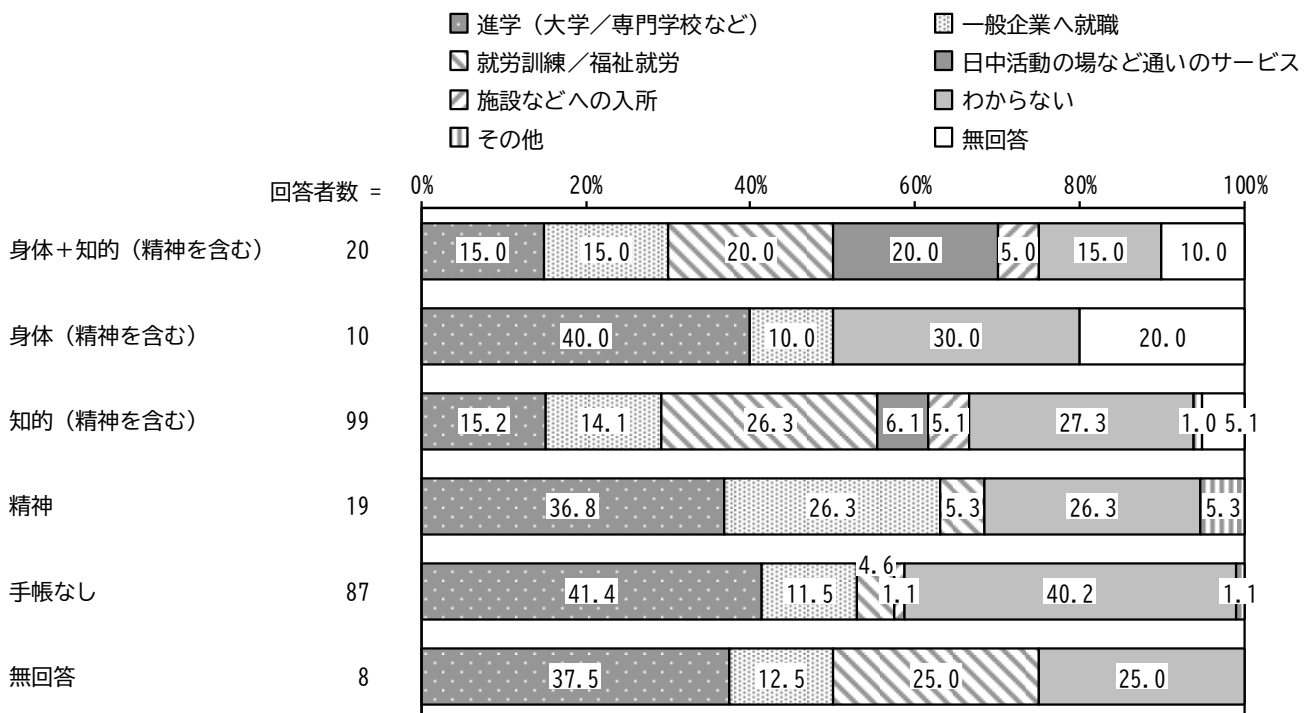
「進学（大学／専門学校など）」の割合が28.0%と最も高く、次いで「就労訓練／福祉就労」の割合が15.2%、「一般企業へ就職」の割合が14.0%となっています。

令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



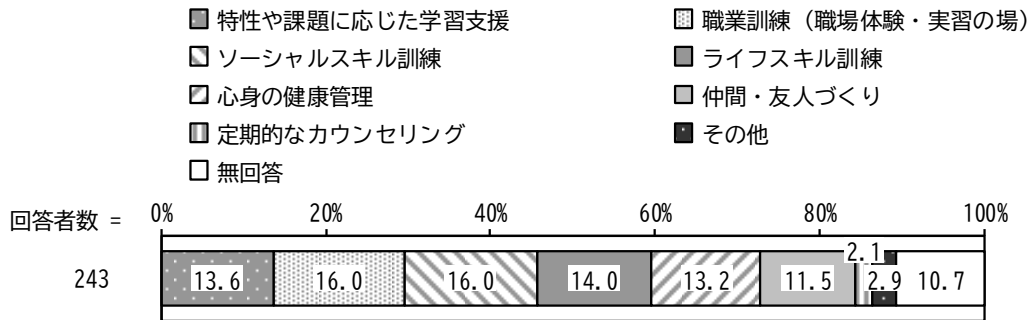
【障害種別】

障害種別にみると、身体（精神を含む）、手帳なしで「進学（大学／専門学校など）」、精神で「一般企業へ就職」、知的（精神を含む）で「就労訓練／福祉就労」、身体+知的（精神を含む）で「日中活動の場など通いのサービス」の割合が高くなっています。



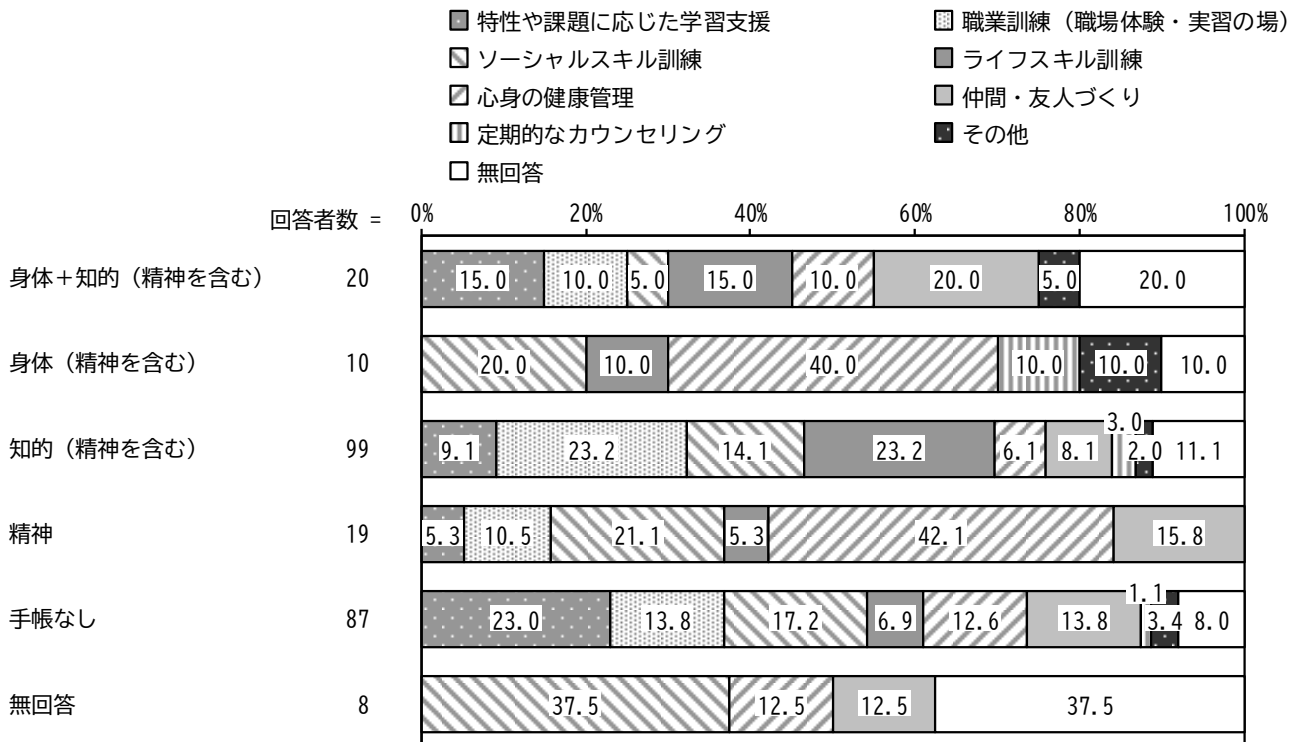
問 26 卒業後、地域で日常生活を送るために必要だと思うものはどれですか。  
(○は主なものに1つだけ)

「職業訓練（職場体験・実習の場）」、「ソーシャルスキル訓練」の割合が16.0%と最も高く、次いで「ライフスキル訓練」の割合が14.0%となっています。



【障害種別】

障害種別にみると、手帳なしで「特性や課題に応じた学習支援」、知的（精神を含む）で「職業訓練（職場体験・実習の場）」、「ライフスキル訓練」、精神で「ソーシャルスキル訓練」、身体（精神を含む）、精神で「心身の健康管理」、身体+知的（精神を含む）で「仲間・友人づくり」、身体（精神を含む）で「定期的なカウンセリング」の割合が高くなっています。



問 27 学校を卒業した後の過ごし方について不安に感じていることなどはありますか。よろしければご意見をお聞かせください。(自由記述)

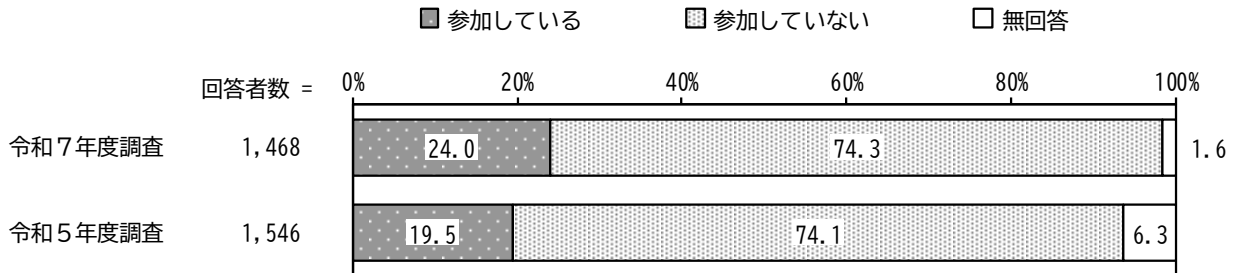
83 件の記述がありました。その中から、一部を紹介します。

- ・ 1 人で忘れ物、時間を守り、仕事が出来、無事に毎日行って帰ってこられるか。嫌な事があつたら、ためこまず言ってくれるか。
- ・ いつまた心がおれてしまうか不安、生活の相談を常に受けたい。
- ・ きちんと働いて独り立ちできるか。親亡き後のお金や住まい。
- ・ グループホームに空きがあるか。
- ・ グループホームに入れば良いと思っているが、重度知的障害者を受け入れてくれるところがほほない。
- ・ グループホームに入所させたいが(本人自立の為)場所が限られていたり、定員がいっぱいで入所できない。
- ・ コミュニケーション面に不安があるので、就職後に人間関係が上手くいくのか不安に思っている。
- ・ そもそも学習についていけるのかが不安。不登校になってしまったらどうしたら良いか。
- ・ ちゃんと働けるか心配です。
- ・ まだそれまでに何をすれば良いのか漠然としていて、何となく不安。
- ・ 学習についていけるのか、小学校になじめるかが不安。
- ・ 共働きなので(フルタイム)、学校卒業後の本人の居場所、預け先の利用時間(土曜日も可能か)がわからない。
- ・ 経済的に自立できるかどうか、自己管理が生活面でできるかどうか。
- ・ 軽度の発達障害のため、どのような職場を選ぶべきか悩んでいる。
- ・ 行き先があるか不安。現在仕事をしているため卒業後、今まで通り 9 時～5 時の勤務をすることができず困る。
- ・ 合った仕事に就けるか。
- ・ 今年からうつ病になりなかなか学校に思うように通えていない。就職できるのかが不安。
- ・ 子供は重度の知的障害もあり、生活介護事業所での預かりを考えているが受け入れ人数がいっぱいで不安。
- ・ 私たち親や親族がいなくなったとしても、1 人で自立して働き生活をしていける社会になっているか不安です。
- ・ 自分だけで、病気とうまくやっていけるのか、自立した生活が営めるかが心配。
- ・ 社会に出た後の自立と人とのコミュニケーション。
- ・ 就職し、自立した生活が送れるかどうか。
- ・ 親がたおれたり、何かあつた時に誰かに助けを求められるのか。ご飯や買い物、入浴などの生活ができるのか。
- ・ 親が老いて行く中で、どうしても子供の生活の場を考えなくてはいけない時があります。
- ・ 親亡き後のことを今から考えています。仕事、住居以外にも、人生を楽しめるような活動を見つけていきたいです。
- ・ 相談したいことがあつた場合にどこに相談すればよいのかが分からない。
- ・ 良いグループホームがあればいいと思います。

## 8 趣味の活動や地域の活動について

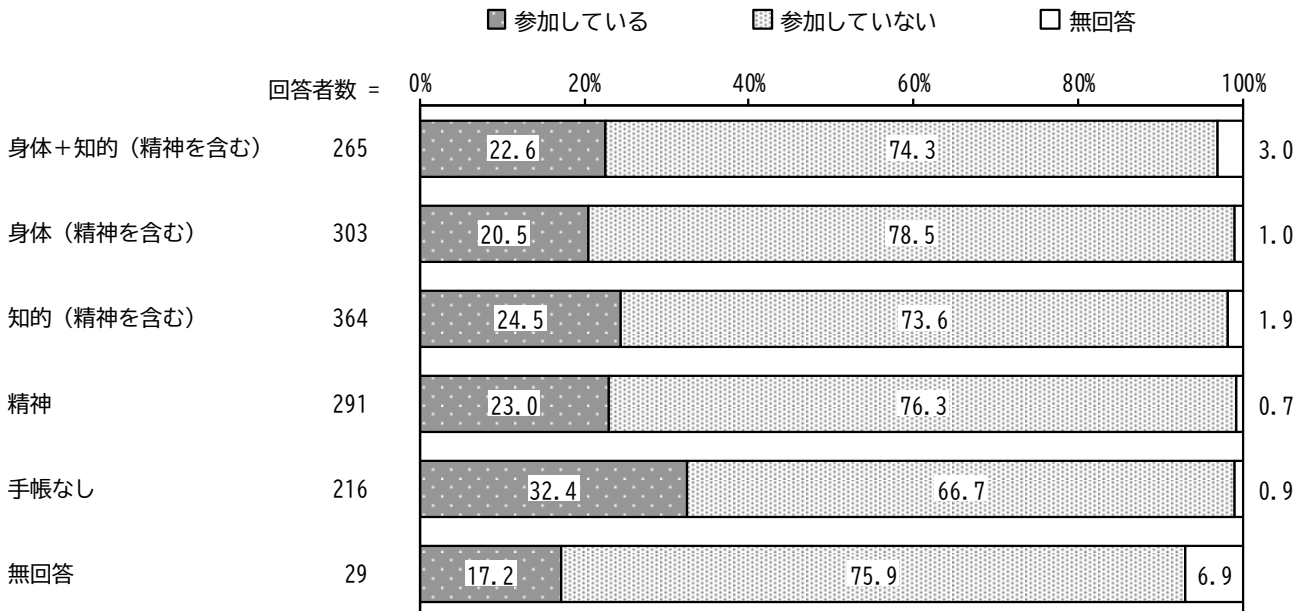
問 28 あなたは現在、趣味の活動や地域の活動に参加していますか。(○は1つだけ)

「参加している」の割合が24.0%、「参加していない」の割合が74.3%となっています。  
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 【障害種別】

障害種別にみると、手帳なしで「参加している」の割合が高くなっています。

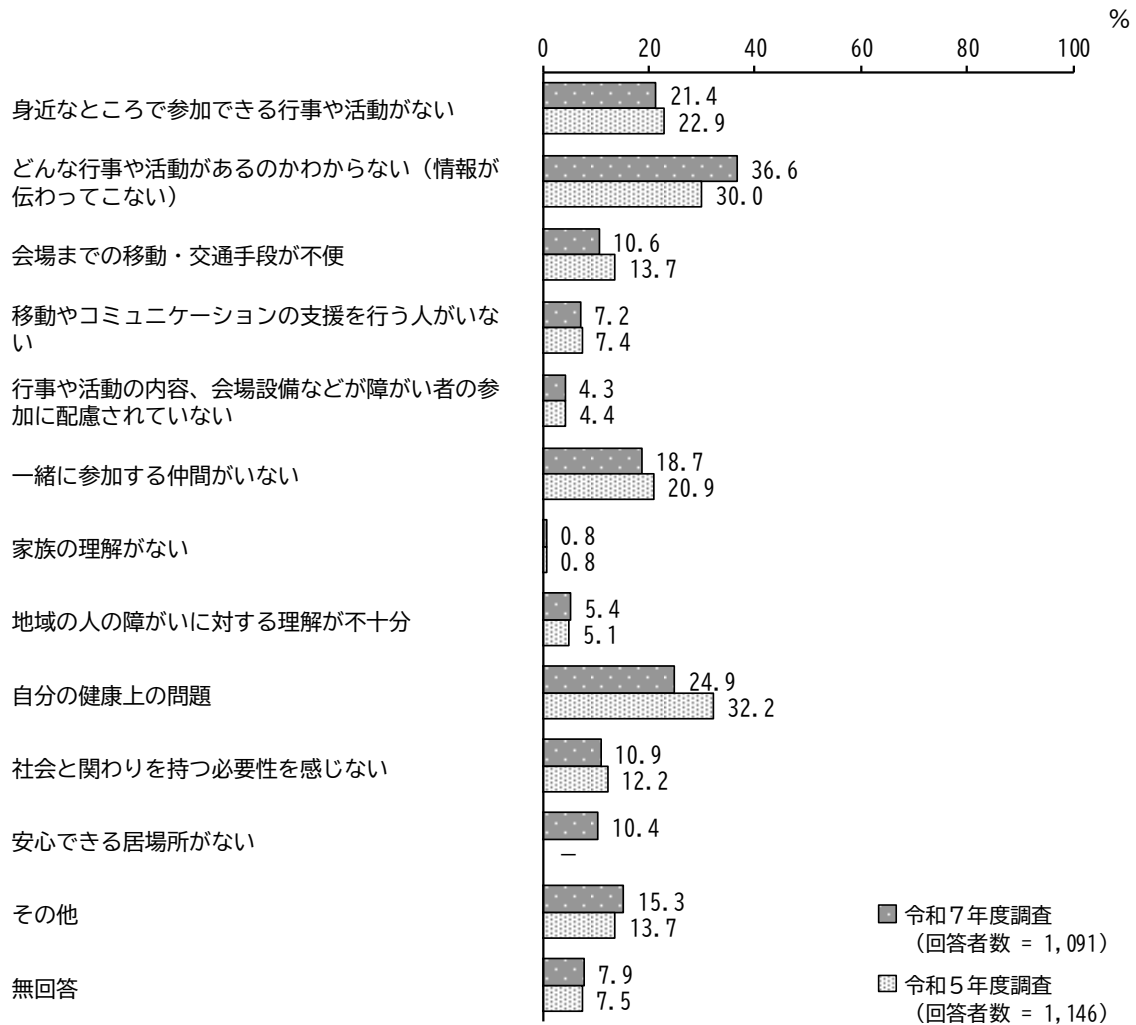


【問 28 で「参加していない」と回答した方にお聞きします。】

問 28-1 参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「どんな行事や活動があるのかわからない(情報が伝わってこない)」の割合が 36.6%と最も高く、次いで「自分の健康上の問題」の割合が 24.9%、「身近なところで参加できる行事や活動がない」の割合が 21.4%となっています。

令和 5 年度調査と比較すると、「どんな行事や活動があるのかわからない(情報が伝わってこない)」の割合が増加しています。一方、「自分の健康上の問題」の割合が減少しています。



※令和 5 年度調査では、「安心できる居場所がない」がありませんでした。

【障害種別】

障害種別にみると、知的（精神を含む）で「移動やコミュニケーションの支援を行う人がいない」、精神で「一緒に参加する仲間がいない」「社会と関わりを持つ必要性を感じない」「安心できる居場所がない」、身体（精神を含む）、精神で「自分の健康上の問題」の割合が高くなっています。

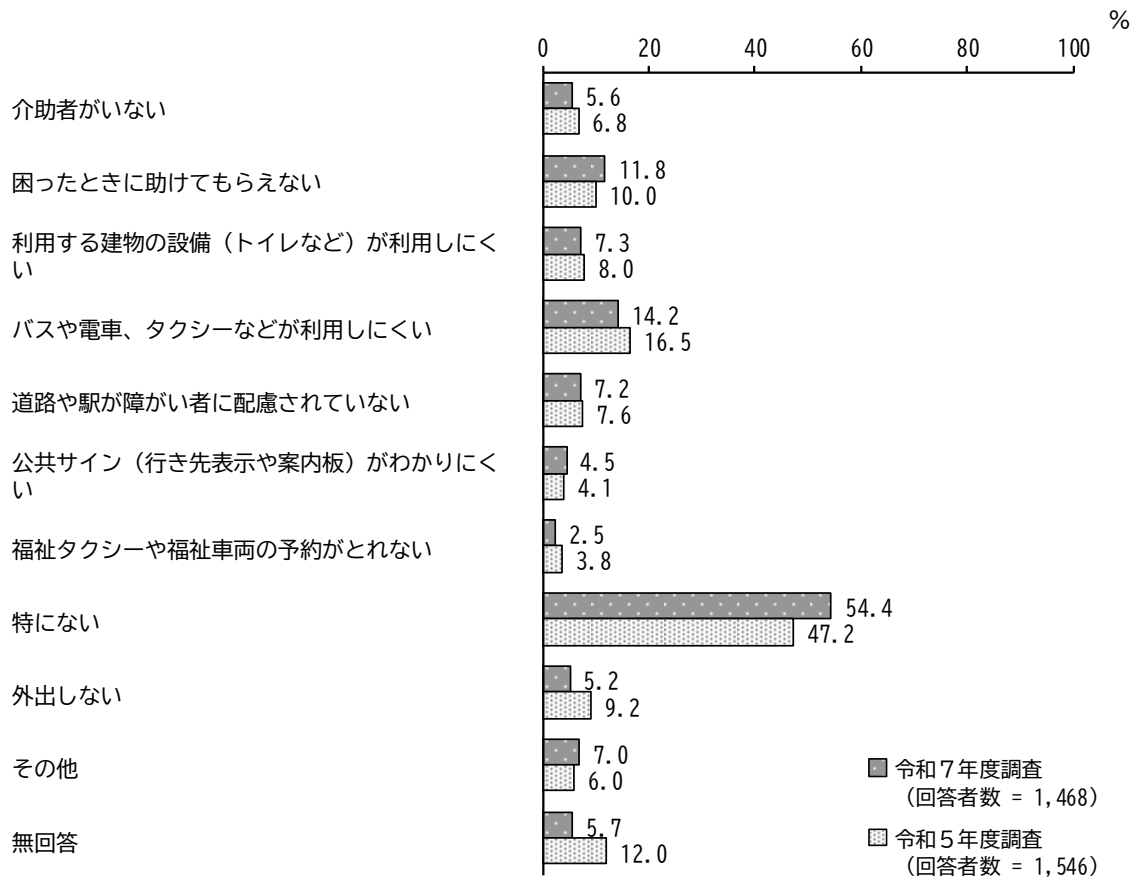
単位：％

区分	回答者数（件）	身近なところで参加できる行事や活動がない	どんな行事や活動があるのかわからない（情報が伝わってこない）	会場までの移動・交通手段が不便	移動やコミュニケーションの支援を行う人がいない	行事や活動の内容、会場設備などが障がい者の参加に配慮されていない	一緒に参加する仲間がいない	家族の理解がない	地域の人の障がいに対する理解が不十分	自分の健康上の問題	社会と関わりを持つ必要性を感じない	安心できる居場所がない	その他	無回答
全体	1,091	21.4	36.6	10.6	7.2	4.3	18.7	0.8	5.4	24.9	10.9	10.4	15.3	7.9
身体+知的（精神を含む）	197	19.8	34.0	11.2	8.1	5.6	16.8	1.5	5.1	26.9	9.6	10.2	12.7	12.2
身体（精神を含む）	238	18.9	34.9	15.1	4.6	4.6	14.7	0.4	5.9	34.9	8.8	2.9	14.7	5.9
知的（精神を含む）	268	23.1	39.6	8.2	12.3	7.5	17.9	1.1	9.0	14.9	9.0	12.3	14.6	9.3
精神	222	22.5	39.2	11.3	7.2	0.9	26.1	0.9	3.6	34.2	16.7	20.3	12.6	3.2
手帳なし	144	23.6	33.3	4.9	0.7	1.4	16.0	0.0	1.4	10.4	11.1	4.9	24.3	9.7
無回答	22	18.2	36.4	18.2	9.1	4.5	31.8	0.0	4.5	22.7	9.1	4.5	22.7	9.1

問 29 あなたが外出時にお困りのことがありますか。(〇はいくつでも)

「バスや電車、タクシーなどが利用しにくい」の割合が 14.2%と最も高く、次いで「困ったときに助けてもらえない」の割合が 11.8%となっています。

令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害種別】

障害種別にみると、知的（精神を含む）で「介助者がいない」「困ったときに助けてもらえない」、身体+知的（精神を含む）で「利用する建物の設備（トイレなど）が利用しにくい」、身体（精神を含む）で「バスや電車、タクシーなどが利用しにくい」「道路や駅が障がい者に配慮されていない」の割合が高くなっています。

単位：%

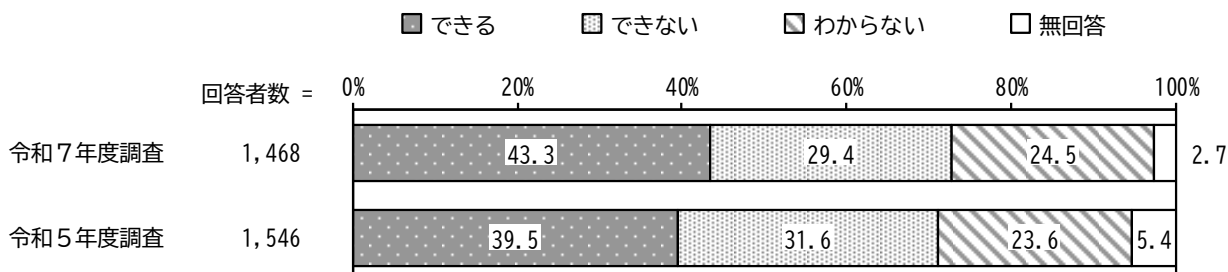
区分	回答者数（件）	介助者がいない	困ったときに助けてもらえない	利用する建物の設備（トイレなど）が利用しにくい	バスや電車、タクシーなどが利用しにくい	道路や駅が障がい者に配慮されていない	公共サイン（行き先表示や案内板）がわかりにくい	福祉タクシーや福祉車両の予約がとれない	特になし	外出しない	その他	無回答
全体	1,468	5.6	11.8	7.3	14.2	7.2	4.5	2.5	54.4	5.2	7.0	5.7
身体+知的（精神を含む）	265	6.4	10.6	12.5	17.4	10.2	5.7	4.2	44.5	6.4	8.3	9.1
身体（精神を含む）	303	5.0	9.9	11.2	20.1	15.5	4.6	2.0	49.2	5.0	6.9	5.3
知的（精神を含む）	364	10.7	17.3	6.0	11.3	6.0	6.0	3.8	50.5	3.8	8.0	7.7
精神	291	1.7	13.7	2.1	15.8	1.7	4.5	1.4	56.4	9.6	5.5	2.4
手帳なし	216	1.9	4.2	4.6	6.0	1.9	0.9	0.5	75.9	1.4	6.5	3.2
無回答	29	6.9	10.3	6.9	6.9	3.4	0.0	0.0	69.0	0.0	3.4	6.9

## 9 災害時の対応について

問 30 家族の不在または一人暮らしの場合で、地震や台風などの災害時に、あなたは一人で避難できますか。(○は1つだけ)

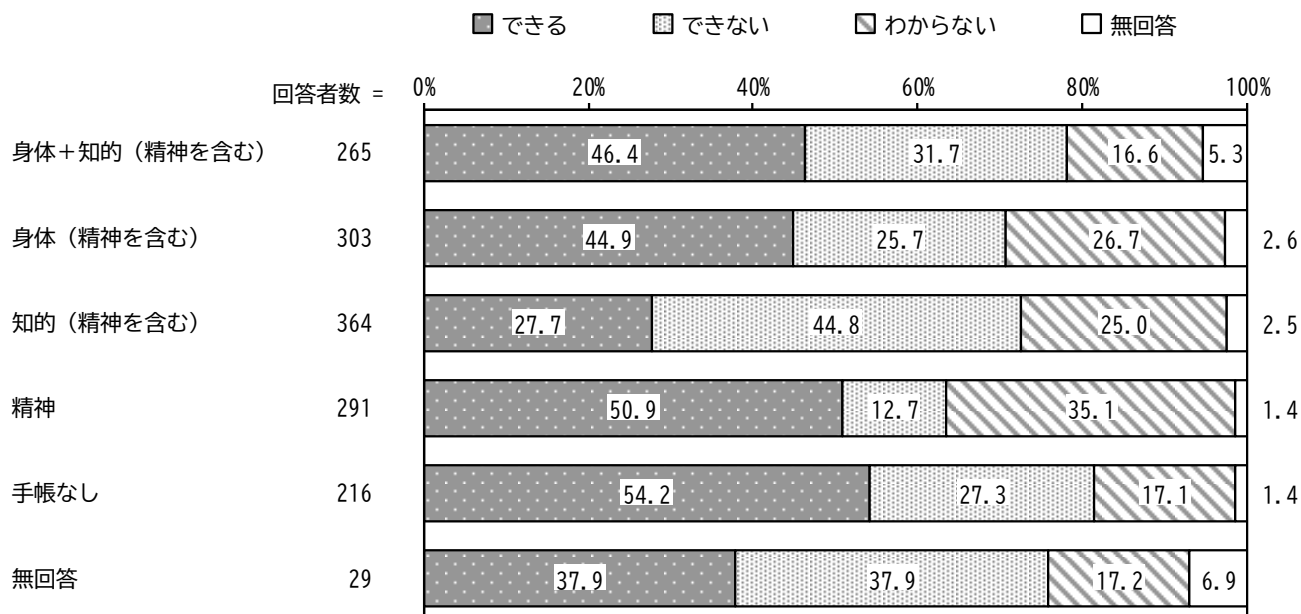
「できる」の割合が43.3%、「できない」の割合が29.4%となっています。

令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 【障害種別】

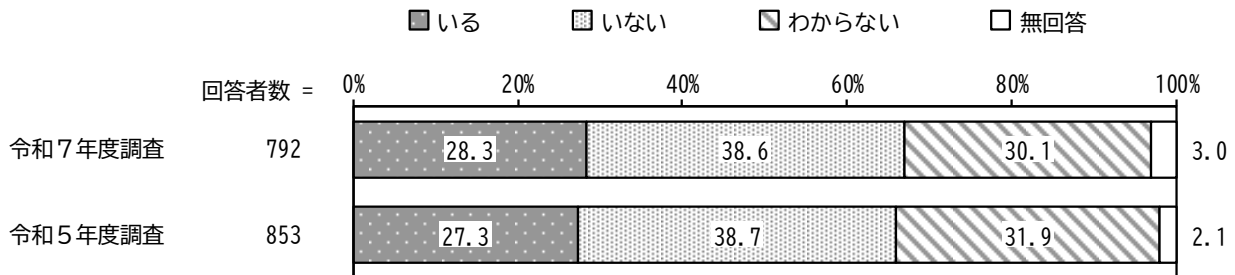
障害種別に見ると、手帳なしで「できる」、知的（精神を含む）で「できない」の割合が高くなっています。



【問 30 で「できない」、「わからない」とお答えの方にお聞きします。】

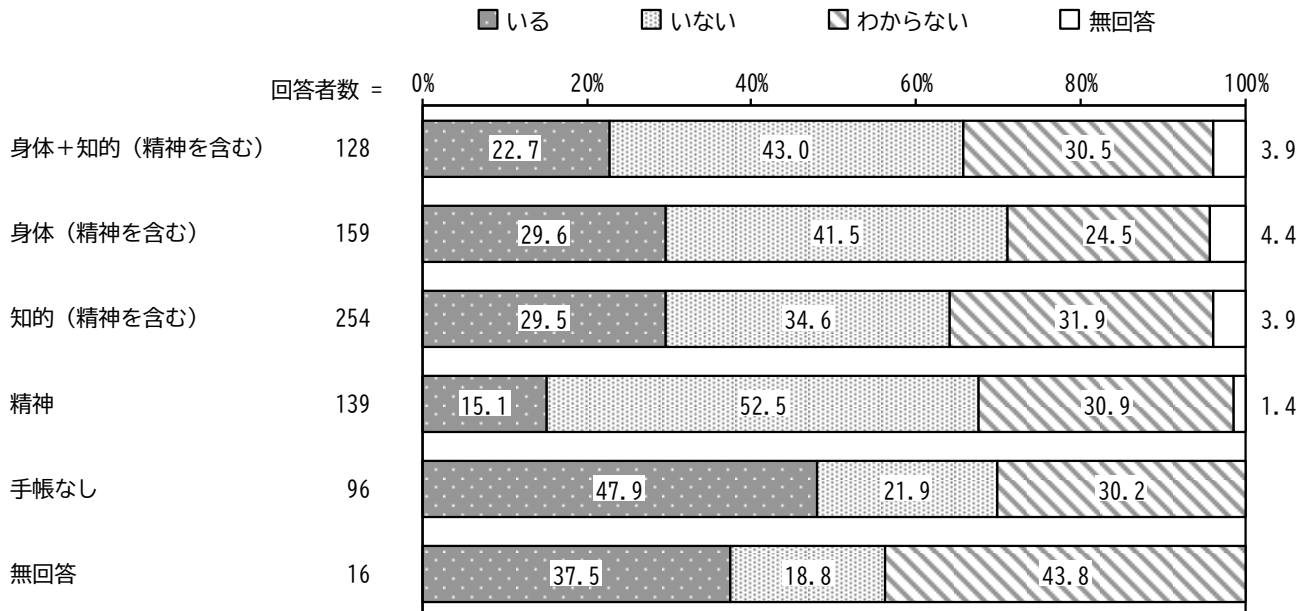
問 30-1 災害時にあなたを助けてくれる方はご近所にいますか。(○は1つだけ)

「いる」の割合が 28.3%、「いない」の割合が 38.6%となっています。  
 令和 5 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害種別】

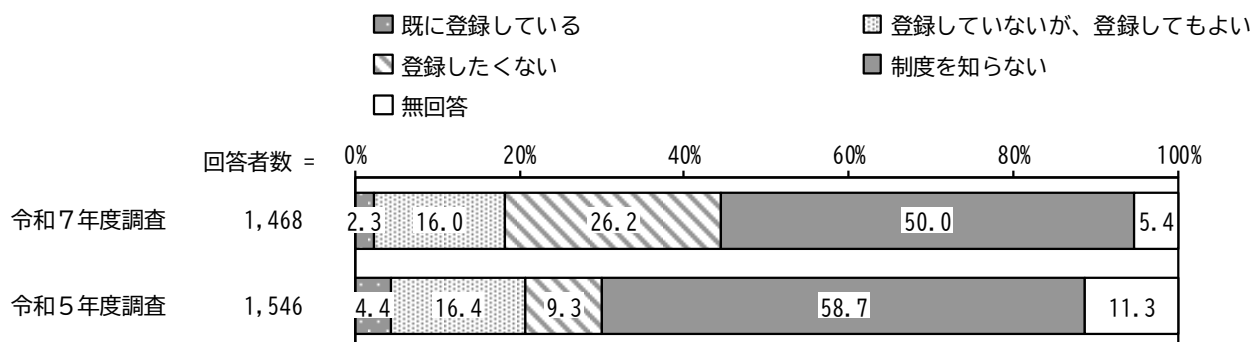
障害種別にみると、手帳なしで「いる」、精神で「いない」の割合が高くなっています。



問 31 あなたの「避難行動要支援者登録制度」の登録について、伺います。(○は1つだけ)

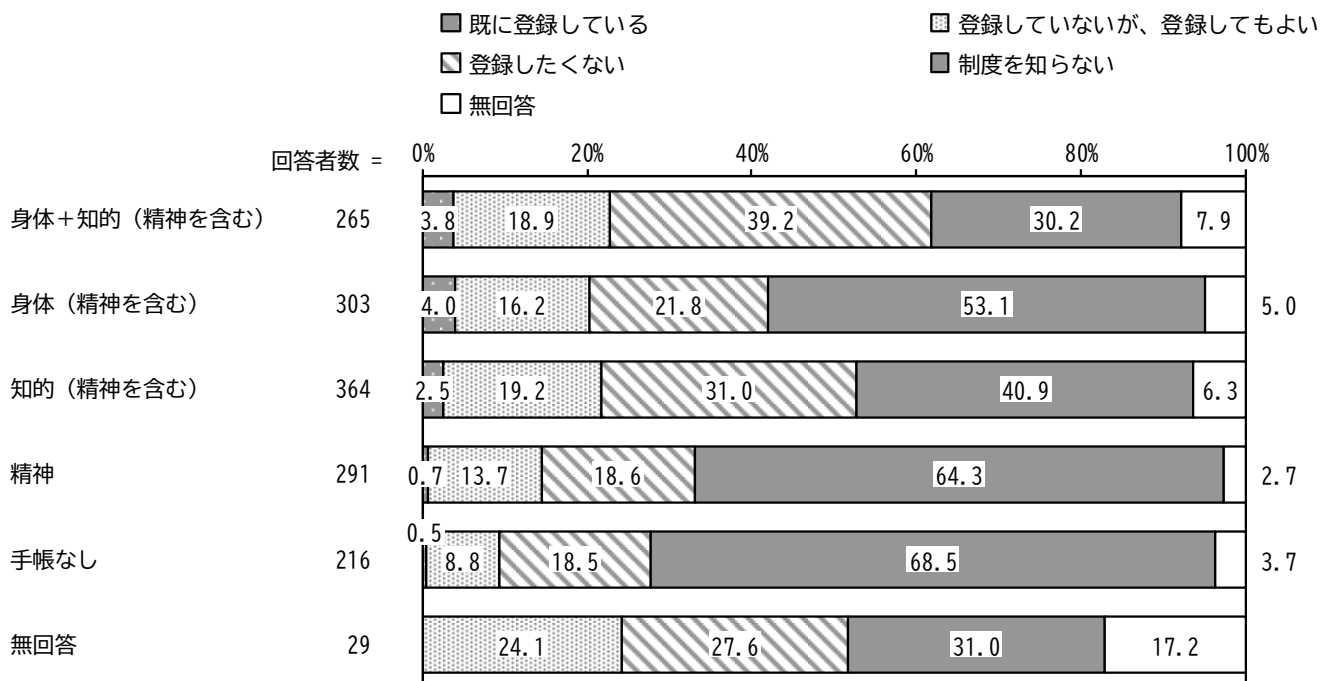
「制度を知らない」の割合が50.0%と最も高く、次いで「登録したくない」の割合が26.2%、「登録していないが、登録してもよい」の割合が16.0%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「登録したくない」の割合が増加しています。一方、「制度を知らない」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別に見ると、身体+知的（精神を含む）で「登録したくない」、手帳なしで「制度を知らない」の割合が高くなっています。

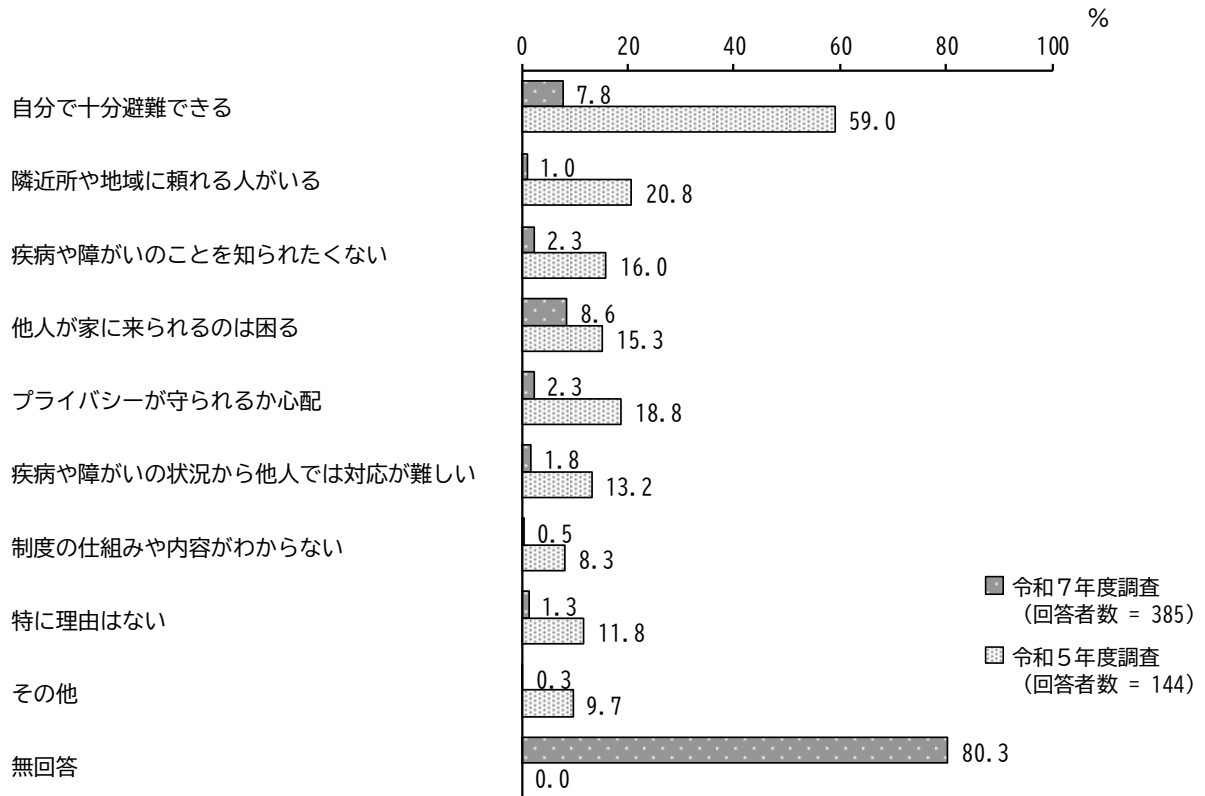


【問 31 で「登録したくない」と回答した方にお聞きします。】

問 31-1 登録したくない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「他人が家に来られるのは困る」の割合が 8.6%と最も高くなっています。

令和 5 年度調査と比較すると、「自分で十分避難できる」「隣近所や地域に頼れる人がいる」「疾病や障がいのことを知られたくない」「他人が家に来られるのは困る」「プライバシーが守られるか心配」「疾病や障がいの状況から他人では対応が難しい」「制度の仕組みや内容がわからない」の割合が減少しています。



【障害種別】

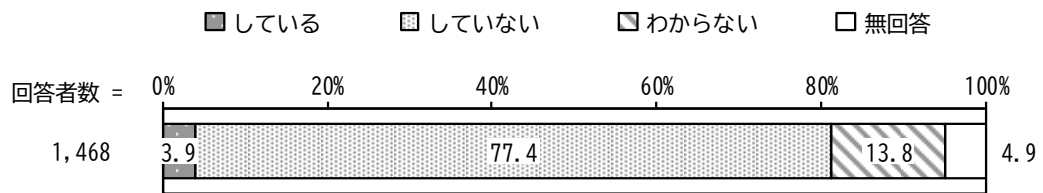
障害種別にみると、精神で「自分で十分避難できる」「疾病や障がいのことを知られたくない」「他人が家に来られるのは困る」「プライバシーが守られるか心配」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	自分で十分避難できる	隣近所や地域に頼れる人がいる	疾病や障がいのことを知られたくない	他人が家に来られるのは困る	プライバシーが守られるか心配	疾病や障がいの状況から他人では対応が難しい	制度の仕組みや内容がわからない	特に理由はない	その他	無回答
全体	385	7.8	1.0	2.3	8.6	2.3	1.8	0.5	1.3	0.3	80.3
身体+知的 (精神を含む)	104	1.0	0.0	1.0	4.8	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	94.2
身体 (精神を含む)	66	10.6	0.0	3.0	4.5	1.5	1.5	1.5	3.0	0.0	78.8
知的 (精神を含む)	113	0.9	0.9	0.0	12.4	1.8	3.5	0.9	1.8	0.0	82.3
精神	54	25.9	3.7	11.1	16.7	7.4	3.7	0.0	0.0	0.0	57.4
手帳なし	40	17.5	2.5	0.0	5.0	2.5	0.0	0.0	2.5	2.5	67.5
無回答	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

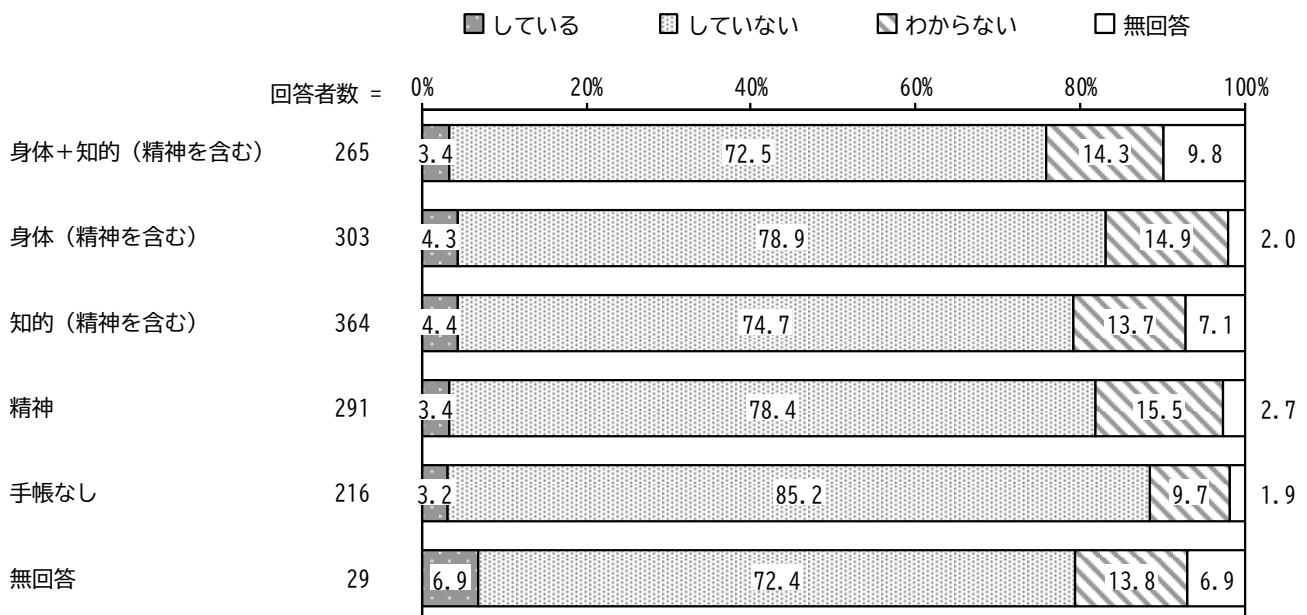
問 32 あなたは、個別避難計画を作成していますか（○は1つだけ）

「している」の割合が3.9%、「していない」の割合が77.4%となっています。



【障害種別】

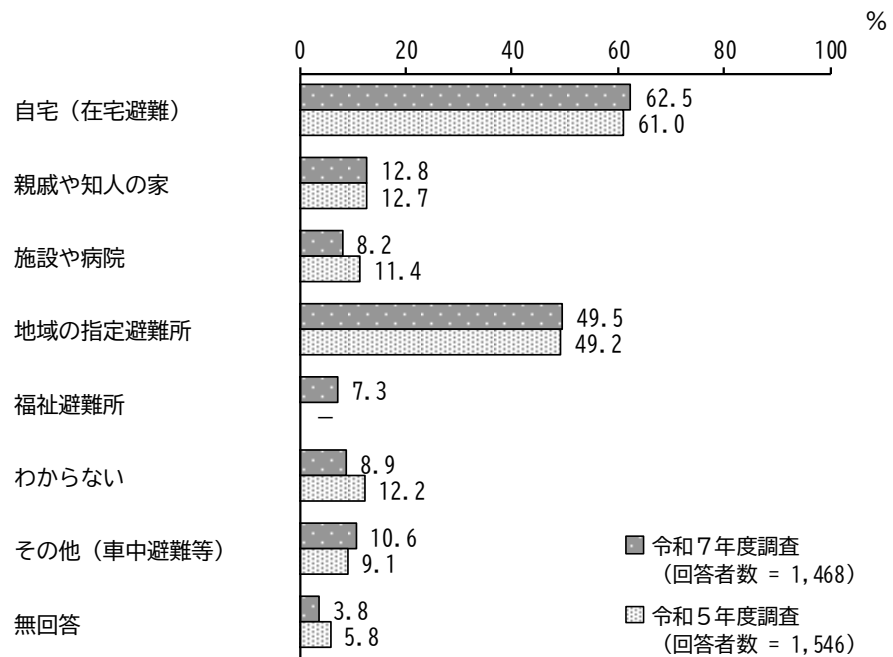
障害種別にみると、手帳なしで「していない」の割合が高くなっています。



問 33 災害時にあなたは、どこに避難を考えていますか。(〇はいくつでも)

「自宅（在宅避難）」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「地域の指定避難所」の割合が 49.5%、「親戚や知人の家」の割合が 12.8%となっています。

令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※令和5年度調査では、「地域の指定避難所」が「公的避難所」となっており、「福祉避難所」がありませんでした。

【障害種別】

障害種別にみると、精神、手帳なしで「自宅（在宅避難）」、手帳なしで「親戚や知人の家」「地域の指定避難所」、知的（精神を含む）で「福祉避難所」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	自宅 (在宅避難)	親戚や知人の家	施設や病院	地域の指定避難所	福祉避難所	わからない	その他 (車中避難等)	無回答
全体	1,468	62.5	12.8	8.2	49.5	7.3	8.9	10.6	3.8
身体+知的 (精神を含む)	265	60.4	11.3	10.2	43.8	10.6	7.2	10.9	4.2
身体 (精神を含む)	303	61.4	11.9	11.2	47.2	5.9	10.6	9.6	4.0
知的 (精神を含む)	364	57.7	11.3	6.9	43.4	12.9	10.4	12.1	6.0
精神	291	68.0	12.4	9.3	53.3	3.4	9.6	8.6	2.1
手帳なし	216	68.1	18.1	2.8	63.9	1.4	6.0	13.0	1.4
無回答	29	58.6	20.7	6.9	55.2	3.4	0.0	3.4	6.9

問 34 避難所に行った場合の、困りごと・不安なことはありますか（自由記述）。

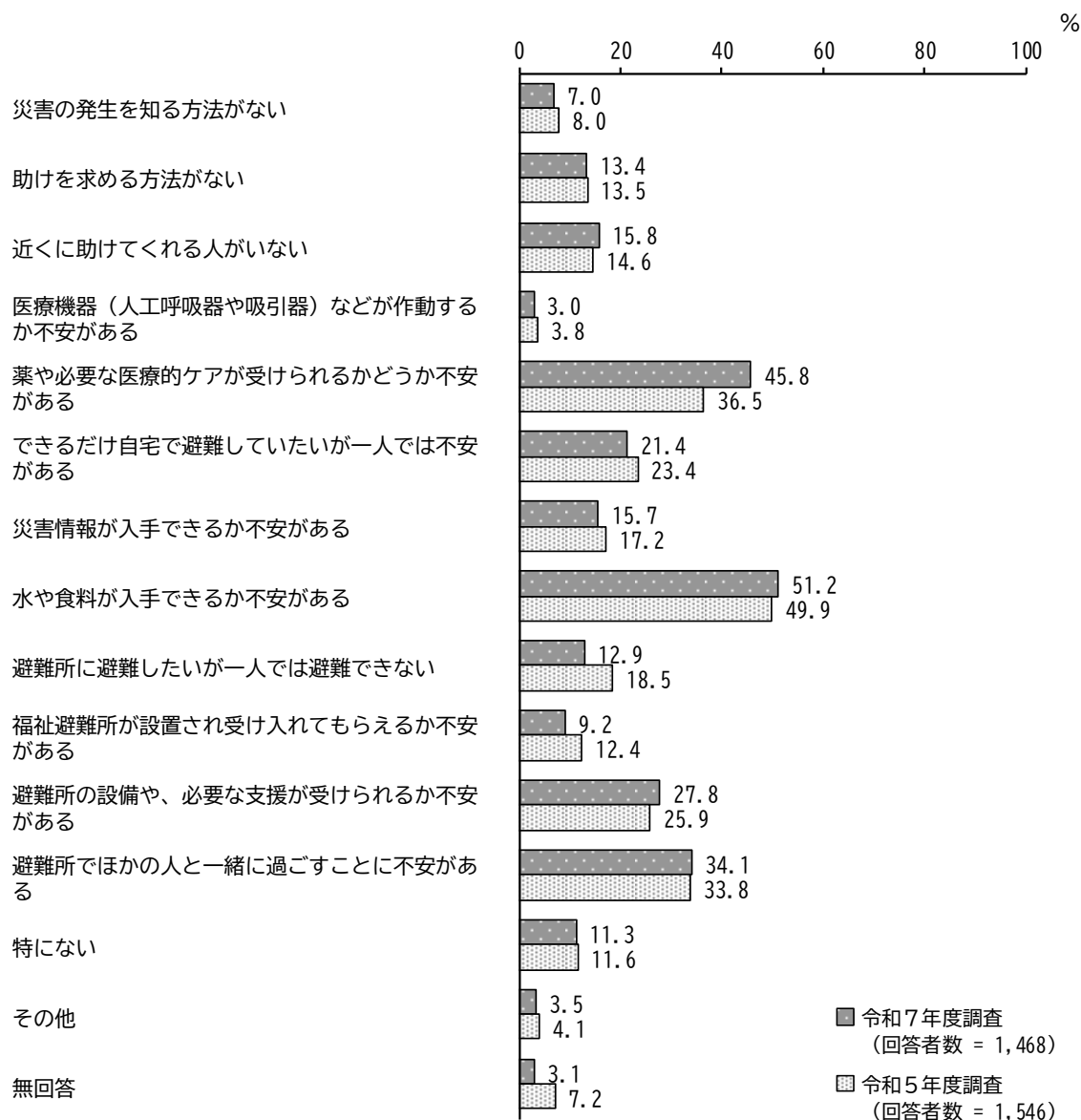
530 件の記述がありました。その中から、一部を紹介します。

- ・「痛み」という症状は他人から見えないため見た目が普通であることで助け合い等に参加できないことをサボっているというふうに取り扱われる事例が東日本大震災で同病の方が多く直面したようだ。
- ・いすがないとすわれない。手すりが必要。犬の世話ができなくなる。
- ・トイレ・床に座るのが大変なため、椅子があるかどうか。
- ・トイレが近い、他人の視線がこわい。大きな音がダメだから。
- ・プライバシーの保守。ライフラインの確保。
- ・まだオムツなので避難用に備えてはいるがおむつやお尻ふきが足りなくなると不安。
- ・子供の泣き声や男性の怒鳴り声等、トラウマが刺激されるような音が多くないか不安。
- ・病気や体調面に問題が生じたとき、医療が十分備わっているかどうか。
- ・※異性 1 人での避難所への避難は、あまりいい顔をされない（性犯罪を起こすのではないか等）話を聞いた事があるので、その点が不安。
- ・1 人だと確実にパニックに陥って鬱状態になってしまうこと。
- ・1 人では食事の準備ができない。アレルギーが多くそれを管理した食事が調達できないのではないかと不安。
- ・1 人の場所がない、音が苦手。
- ・2 日に 1 回透析を受けなければ、死んでしまう為避難所に行くのが正しいのかわかりません。
- ・いつも飲んでいる薬を持っていけるか、持って行った薬が無くならないか不安です。
- ・うるさいのが苦手。かんしゃくが出る時がある。
- ・お薬の在庫の管理(冷蔵庫で保管する注射があるので、避難所でどうできるか不安)
- ・コミュニケーションがとれないのでもし親がいなかった場合 生存できるのか不安である。
- ・ストーマなので装具が足りなくなったら・・・と不安になります。
- ・すべてのことが不安
- ・トイレ→すぐにかけて状態なので列ができていたら間に合わない。その事が心配で病気が悪化しそう。
- ・トイレがバリアフリーでない場合使用できない。床には座れないので、全く動きがとれない可能性がある。
- ・パニックになりやすいので(不安から)声掛けをして下さる方がいるか、1 人ではどうにも出来ない。
- ・ペット(猫)の世話。身体的に不自由。
- ・全介助必要なので、避難所で何日、どれだけ耐えられるか不安。
- ・他人と同じ空間で長時間すごせるか分からない。うるさくしてしまうので心配。
- ・多くの方が集中する場所は症状が悪化するのが不安です。
- ・聴覚過敏があるので、騒がしい場所(特に子供の声)で過ごすのは難しいと思う。

問 35 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。  
(〇はいくつでも)

「水や食料が入手できるか不安がある」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」の割合が 45.8%、「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」の割合が 34.1%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」の割合が増加しています。一方、「避難所に避難したいが一人では避難できない」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、知的（精神を含む）で「助けを求める方法がない」「避難所に避難したいが一人では避難できない」「福祉避難所が設置され受け入れてもらえるか不安がある」、精神で「近くに助けしてくれる人がいない」「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」「できるだけ自宅で避難していきたいが一人では不安がある」「水や食料が入手できるか不安がある」「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」の割合が高くなっています。

単位：％

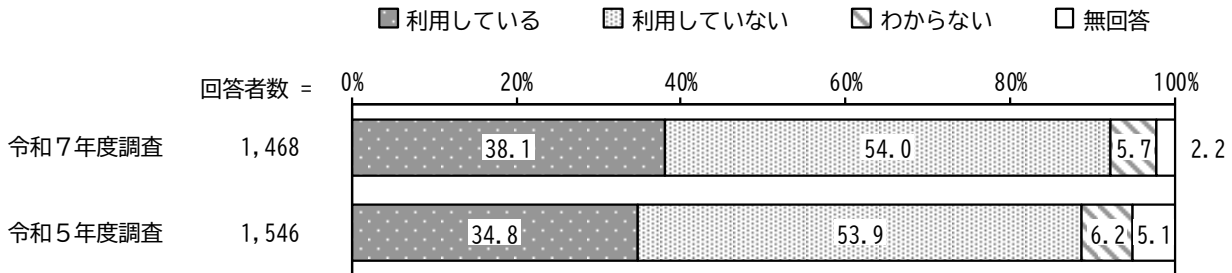
区分	回答者数 (件)	災害の発生を知る方法がない	助けを求める方法がない	近くに助けしてくれる人がいない	医療機器（人工呼吸器や吸引器）などが作動するか不安がある	薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある	できるだけ自宅避難したいが一人では不安がある	災害情報が入手できるか不安がある
全体	1,468	7.0	13.4	15.8	3.0	45.8	21.4	15.7
身体+知的（精神を含む）	265	4.5	10.6	14.7	5.3	48.7	20.0	14.3
身体（精神を含む）	303	5.6	12.2	14.5	6.6	50.5	20.5	14.2
知的（精神を含む）	364	11.3	22.0	19.0	1.1	34.3	25.0	18.7
精神	291	5.8	11.7	21.3	1.0	55.3	27.5	19.2
手帳なし	216	5.1	6.0	6.9	0.9	42.6	10.6	9.7
無回答	29	17.2	17.2	10.3	3.4	44.8	17.2	17.2

区分	水や食料が入手できるか不安がある	避難所に避難したいが一人では避難できない	福祉避難所が設置され受け入れてもらえるか不安がある	避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある	避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある	特になし	その他	無回答
全体	51.2	12.9	9.2	27.8	34.1	11.3	3.5	3.1
身体+知的（精神を含む）	53.2	15.1	9.4	30.9	22.6	8.7	3.8	5.7
身体（精神を含む）	49.5	12.2	7.9	27.7	21.1	12.2	4.0	2.0
知的（精神を含む）	52.5	21.7	14.8	29.7	42.3	9.6	3.8	4.9
精神	56.7	6.5	8.2	25.8	53.3	7.9	3.1	0.7
手帳なし	40.7	4.2	3.7	23.6	29.6	21.3	2.3	0.5
無回答	55.2	20.7	0.0	27.6	13.8	6.9	3.4	10.3

## 10 サービスの利用などについて

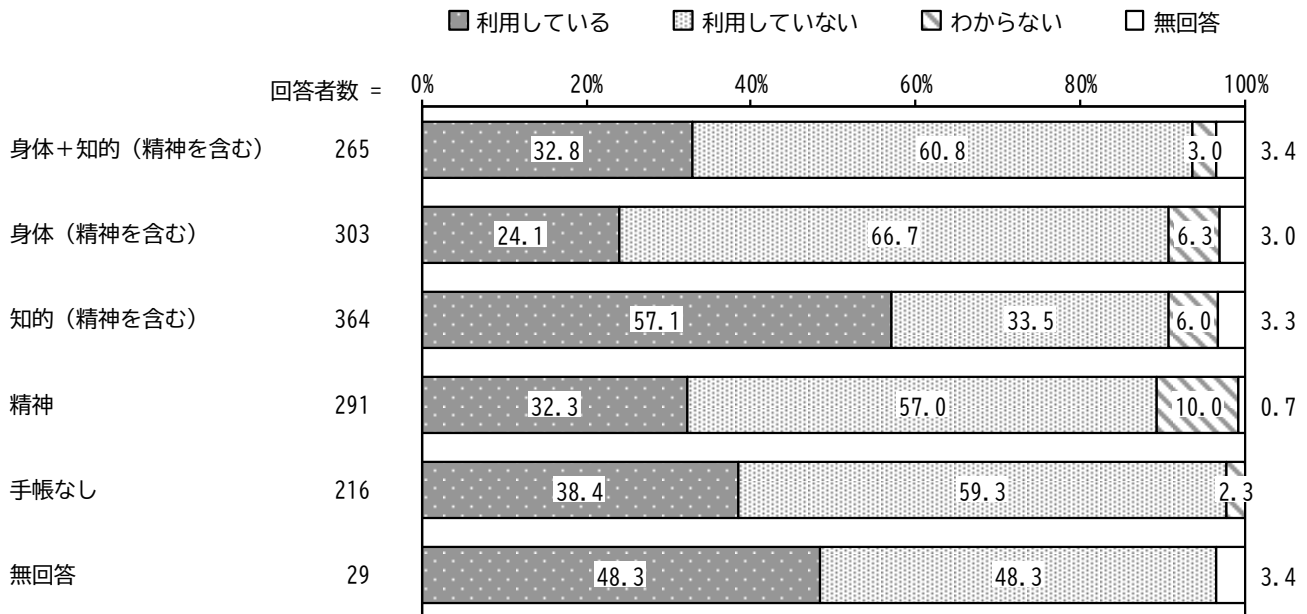
### 問 36 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(○は1つだけ)

「利用している」の割合が38.1%、「利用していない」の割合が54.0%となっています。  
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



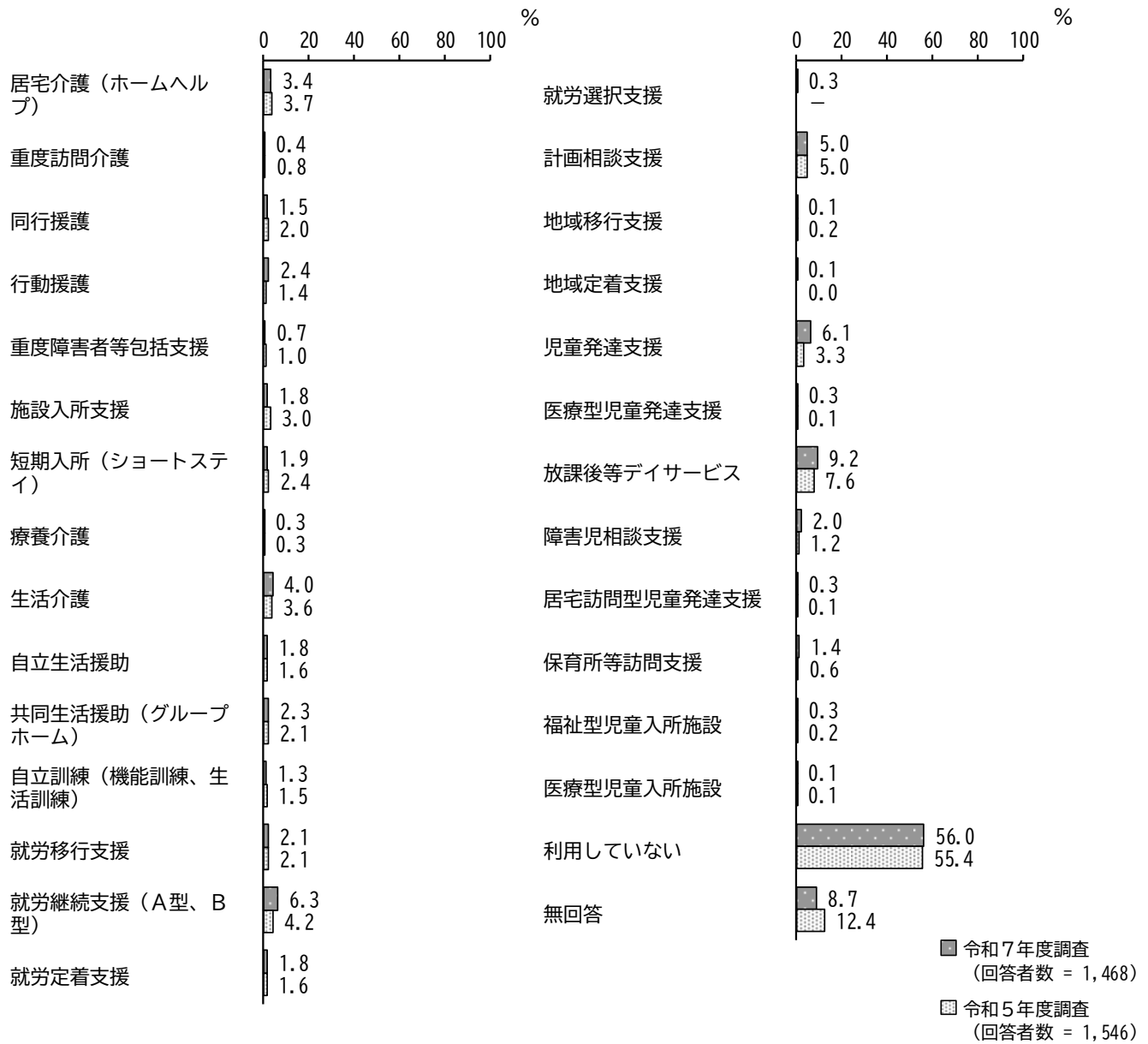
#### 【障害種別】

障害種別にみると、知的（精神を含む）で「利用している」、身体（精神を含む）で「利用していない」の割合が高くなっています。



問 37 あなたは次の障害福祉サービスを利用していますか。(〇はいくつでも)

「放課後等デイサービス」の割合が9.2%と最も高くなっています。  
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※令和5年度調査では、「就労選択支援」がありませんでした。

【障害種別】

障害種別にみると、知的（精神を含む）で「就労継続支援（A型、B型）」「計画相談支援」「放課後等デイサービス」、手帳なしで「児童発達支援」「保育所等訪問支援」の割合が高くなっています。

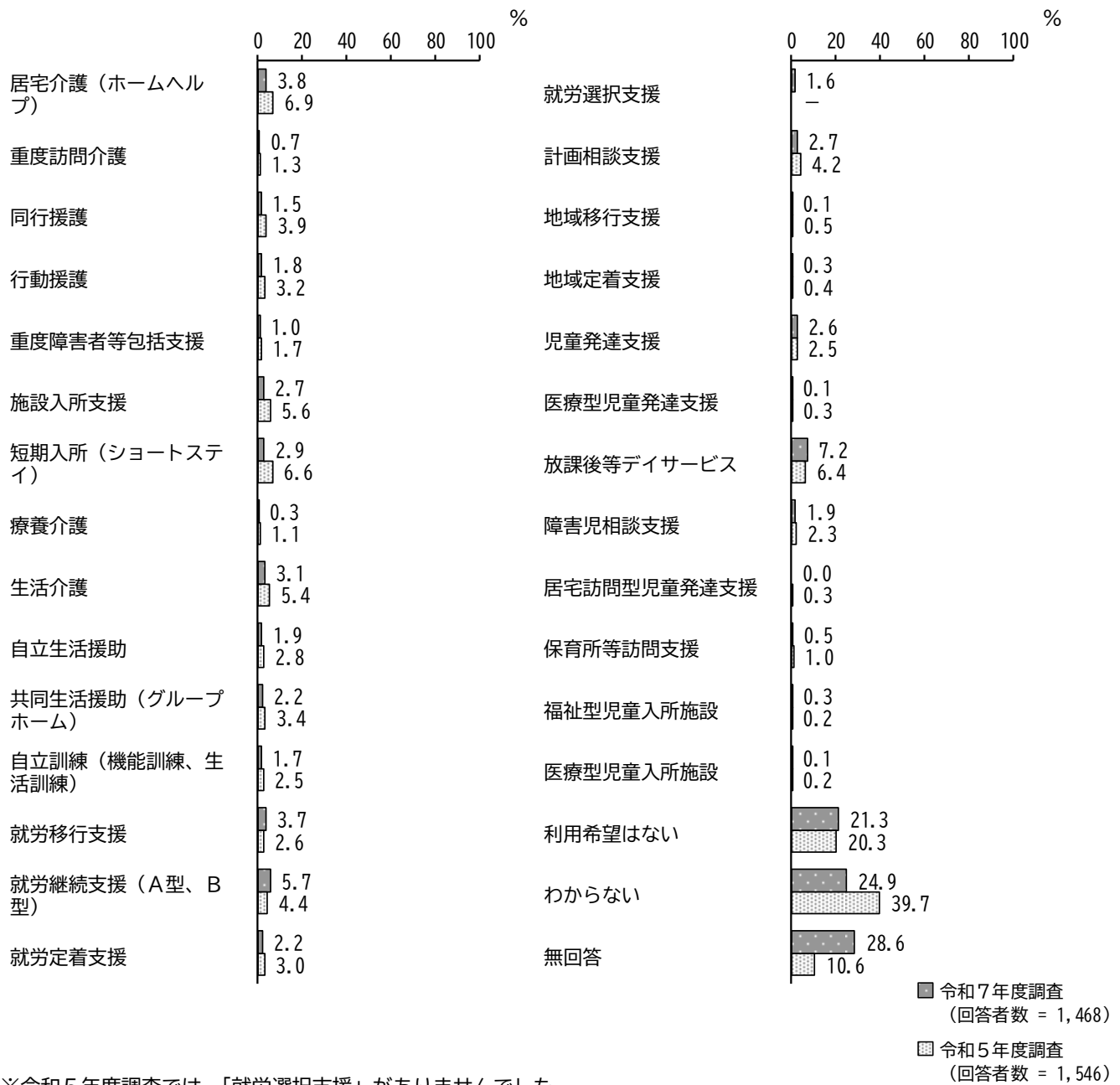
単位：％

区分	回答者数（件）	居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護	同行援護	行動援護	重度障害者等包括支援	施設入所支援	短期入所（ショートステイ）	療養介護	生活介護	自立生活援助	共同生活援助（グループホーム）	自立訓練（機能訓練、生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援（A型、B型）
全体	1,468	3.4	0.4	1.5	2.4	0.7	1.8	1.9	0.3	4.0	1.8	2.3	1.3	2.1	6.3
身体+知的（精神を含む）	265	5.7	1.1	3.4	1.9	1.1	2.3	3.8	0.0	6.4	3.8	4.5	1.1	0.8	4.5
身体（精神を含む）	303	6.3	0.7	2.3	1.7	2.3	2.3	1.7	0.7	2.0	1.0	0.3	2.3	0.7	2.3
知的（精神を含む）	364	1.9	0.0	1.1	6.6	0.0	3.3	3.0	0.3	8.2	0.8	5.5	0.5	3.0	12.6
精神	291	2.4	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	1.0	2.7	0.0	1.7	5.5	9.3
手帳なし	216	0.5	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.0	0.0	0.5
無回答	29	3.4	0.0	0.0	3.4	3.4	6.9	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0	6.9	0.0	0.0

区分	就労定着支援	就労選択支援	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	障害児相談支援	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	福祉型児童入所施設	医療型児童入所施設	利用していない	無回答
全体	1.8	0.3	5.0	0.1	0.1	6.1	0.3	9.2	2.0	0.3	1.4	0.3	0.1	56.0	8.7
身体+知的（精神を含む）	0.8	0.0	2.3	0.0	0.0	0.8	0.0	6.4	1.5	0.0	0.0	0.4	0.0	55.8	15.1
身体（精神を含む）	0.3	0.0	1.7	0.3	0.0	0.3	0.0	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	70.6	9.9
知的（精神を含む）	3.8	0.3	12.9	0.0	0.3	7.4	0.8	19.8	4.4	0.5	1.1	0.5	0.3	36.0	7.1
精神	3.1	0.7	2.4	0.0	0.0	0.3	0.0	2.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.3	66.0	6.5
手帳なし	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	23.6	0.0	15.3	1.4	0.5	6.5	0.9	0.0	58.3	2.8
無回答	0.0	3.4	3.4	0.0	0.0	24.1	3.4	6.9	3.4	6.9	10.3	0.0	0.0	37.9	24.1

問 38 現在の利用の有無に係らず、今後3年以内に、次の障害福祉サービスを利用したいですか。(〇はいくつでも)

「放課後等デイサービス」の割合が7.2%と最も高くなっています。  
令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※令和5年度調査では、「就労選択支援」がありませんでした。

【障害種別】

障害種別にみると、身体（精神を含む）で「居宅介護（ホームヘルプ）」、精神で「就労移行支援」「就労継続支援（A型、B型）」、手帳なしで「児童発達支援」「放課後等デイサービス」の割合が高くなっています。

単位：％

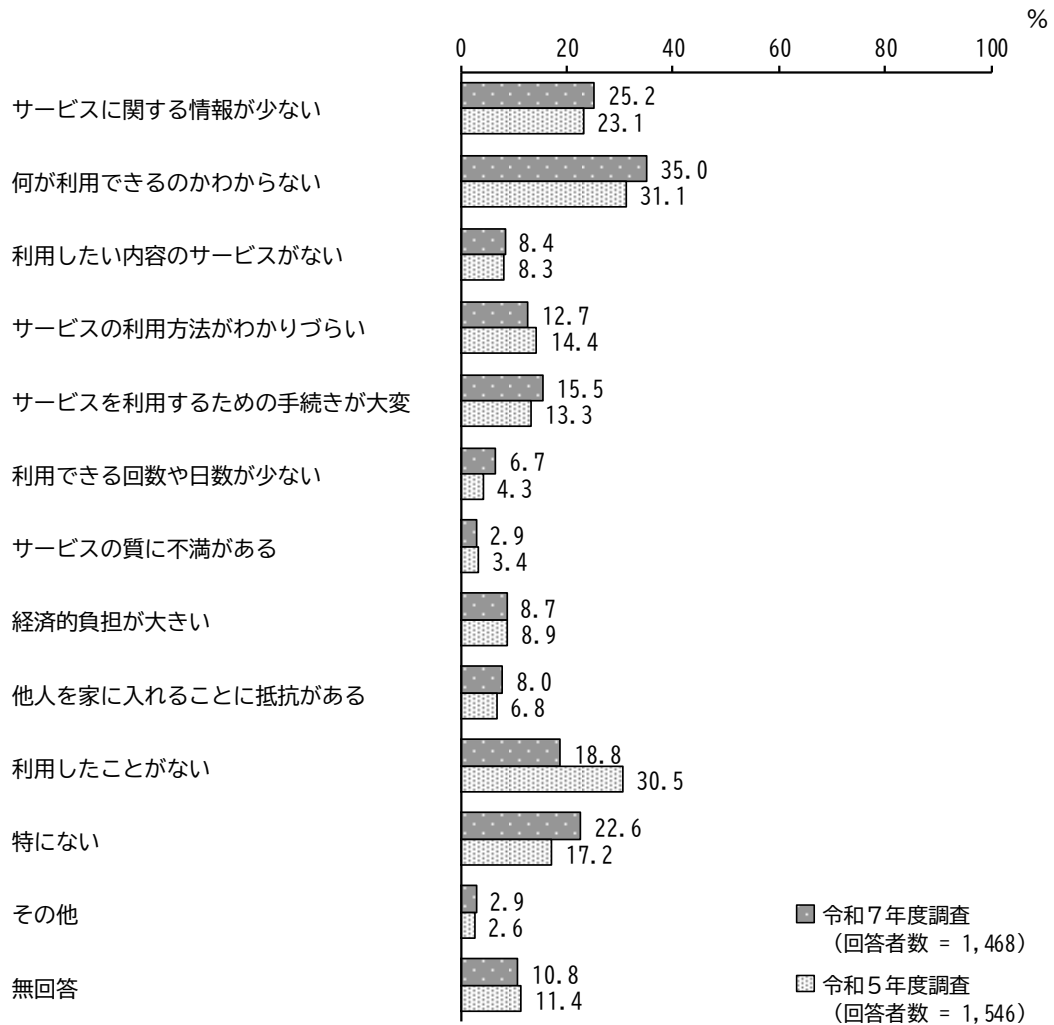
区分	回答者数（件）	居宅介護（ホームヘルプ）	重度訪問介護	同行援護	行動援護	支援 重度障害者等包括	施設入所支援	短期入所（シヨートステイ）	療養介護	生活介護	自立生活援助	共同生活援助（グループホーム）	自立訓練（機能訓練、生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援（A型、B型）	就労定着支援
全体	1,468	3.8	0.7	1.5	1.8	1.0	2.7	2.9	0.3	3.1	1.9	2.2	1.7	3.7	5.7	2.2
身体+知的（精神を含む）	265	3.4	1.9	1.1	0.8	1.1	3.8	3.4	0.4	4.2	1.9	1.5	1.5	0.4	2.6	1.9
身体（精神を含む）	303	9.9	1.3	3.0	0.7	3.0	2.3	1.7	0.0	3.3	2.6	0.3	3.0	2.0	2.6	0.7
知的（精神を含む）	364	1.9	0.3	2.2	5.8	0.5	5.5	7.1	0.8	4.9	1.4	6.0	1.4	4.9	7.4	1.9
精神	291	2.7	0.0	0.7	0.7	0.0	0.7	0.3	0.0	1.7	3.1	1.4	1.7	9.3	12.7	5.5
手帳なし	216	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.5	0.5	1.4	1.9	0.9
無回答	29	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0

区分	就労選択支援	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	児童発達支援	医療型児童発達支援	放課後等デイサービス	障害児相談支援	居宅訪問型児童発達支援	保育所等訪問支援	福祉型児童入所施設	医療型児童入所施設	利用希望はない	わからない	無回答
全体	1.6	2.7	0.1	0.3	2.6	0.1	7.2	1.9	0.0	0.5	0.3	0.1	21.3	24.9	28.6
身体+知的（精神を含む）	1.5	0.8	0.0	0.0	0.4	0.0	2.3	1.9	0.0	0.0	0.4	0.4	11.3	25.7	47.5
身体（精神を含む）	0.3	1.7	0.3	0.3	0.3	0.0	1.3	0.7	0.0	0.3	0.0	0.0	30.4	25.1	23.1
知的（精神を含む）	1.1	6.3	0.3	0.8	3.0	0.3	12.6	3.6	0.0	0.3	0.3	0.0	12.1	19.5	34.9
精神	3.8	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	23.4	33.3	16.8
手帳なし	0.9	0.9	0.0	0.0	11.6	0.5	19.4	2.8	0.0	2.3	0.9	0.0	36.1	21.8	14.4
無回答	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	3.4	0.0	3.4	0.0	0.0	3.4	24.1	58.6

問 39 障害福祉サービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことはありますか。(〇はいくつでも)

「何が利用できるのかわからない」の割合が 35.0%と最も高く、次いで「サービスに関する情報が少ない」の割合が 25.2%、「利用したことがない」の割合が 18.8%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「利用したことがない」の割合が減少しています。



【障害種別】

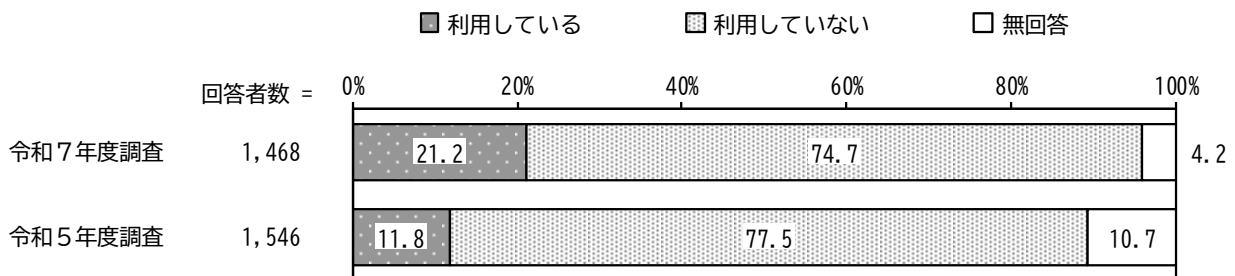
障害種別にみると、精神で「何が利用できるのかわからない」「サービスの利用方法がわかりづらい」「他人を家に入れることに抵抗がある」、知的（精神を含む）で「利用できる回数や日数が少ない」、手帳なしで「利用したことがない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	サービスに関する情報が少ない	何が利用できるのかわからない	利用したい内容のサービスがない	サービスの利用方法がわかりづらい	サービスの利用するための手続きが大変	利用できる回数や日数が少ない	サービスの内容に不満がある	経済的負担が大きい	他人を家に入れることに抵抗がある	利用したことがない	特になし	その他	無回答
全体	1,468	25.2	35.0	8.4	12.7	15.5	6.7	2.9	8.7	8.0	18.8	22.6	2.9	10.8
身体+知的 (精神を含む)	265	25.3	29.4	6.8	9.4	14.3	4.5	1.9	6.0	7.5	22.3	19.2	2.3	19.2
身体 (精神を含む)	303	20.1	34.0	8.9	10.2	9.9	5.3	2.3	6.9	5.3	21.1	25.4	2.3	9.9
知的 (精神を含む)	364	28.8	35.2	9.1	14.0	17.6	11.8	3.0	8.0	7.4	12.6	25.5	4.1	10.4
精神	291	29.6	42.3	7.2	18.9	19.6	5.5	5.5	12.7	14.8	15.1	17.9	2.4	7.2
手帳なし	216	19.0	32.9	10.2	7.9	15.7	3.7	1.4	10.6	5.6	26.9	24.1	3.2	5.6
無回答	29	34.5	37.9	10.3	24.1	17.2	10.3	0.0	3.4	0.0	17.2	24.1	0.0	20.7

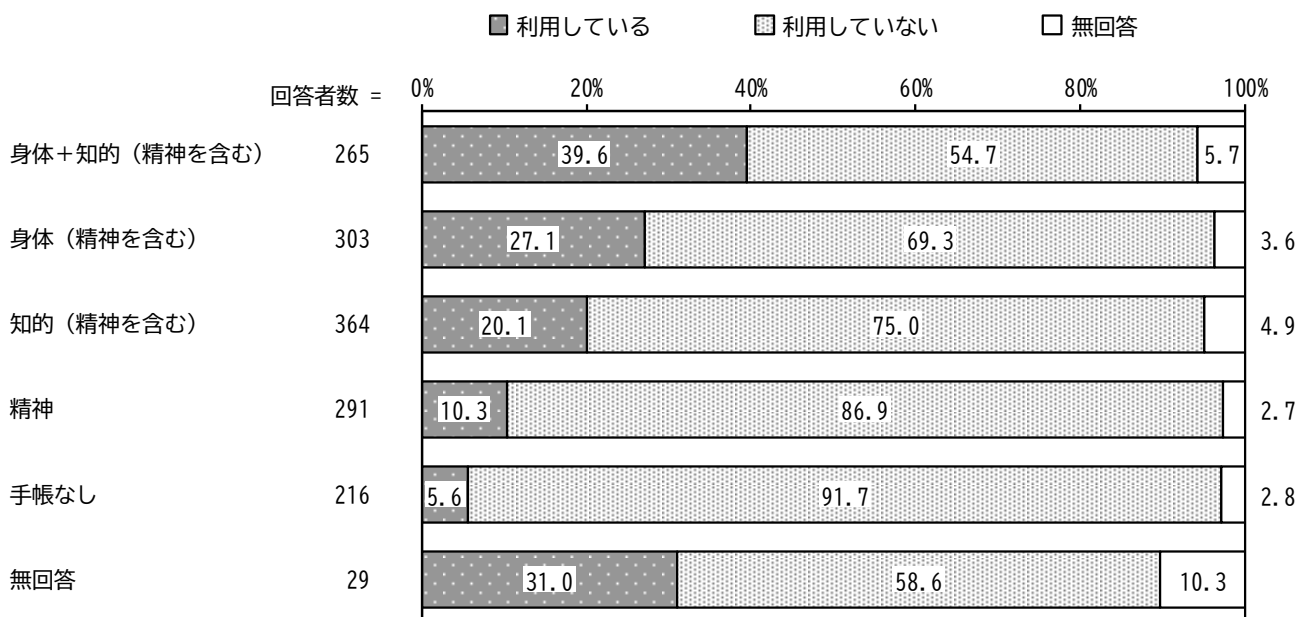
問 40 あなたは介護保険制度（介護予防・日常生活支援総合事業を含む）のサービスを利用していますか。（○は1つだけ）

「利用している」の割合が21.2%、「利用していない」の割合が74.7%となっています。  
 令和5年度調査と比較すると、「利用している」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体+知的（精神を含む）で「利用している」、手帳なしで「利用していない」の割合が高くなっています。

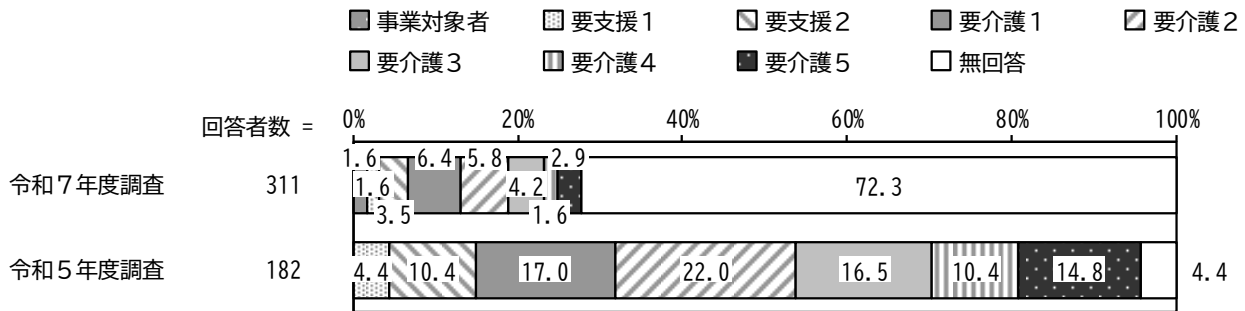


【問 40 で「利用している」とお答えの方にお聞きします。】

問 40-1 該当する要介護度はどれですか。(○は1つだけ)

「要介護1」の割合が6.4%と最も高くなっています。

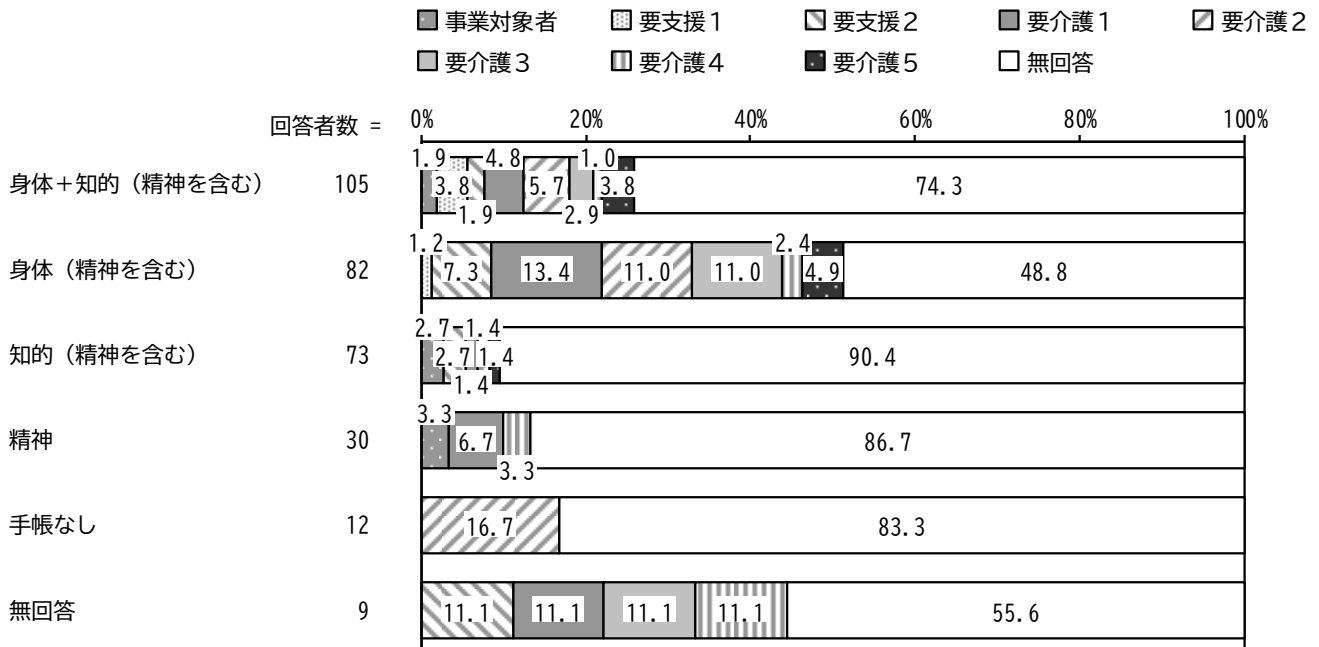
令和5年度調査と比較すると、「要支援2」「要介護1」「要介護2」「要介護3」「要介護4」「要介護5」の割合が減少しています。



※令和5年度調査では、「事業対象者」がありませんでした。

【障害種別】

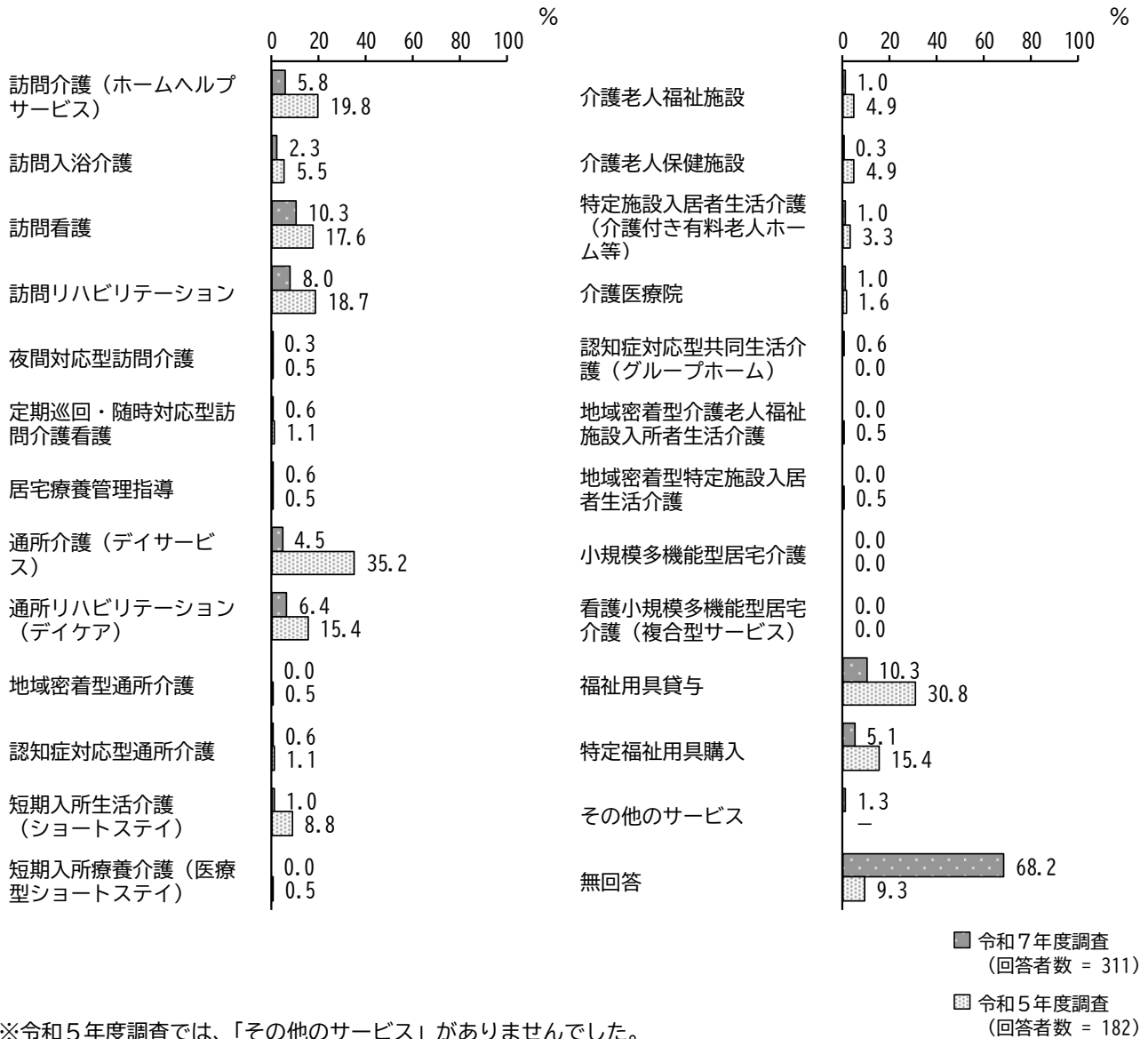
障害種別にみると、身体（精神を含む）で「要介護1」「要介護3」、手帳なしで「要介護2」の割合が高くなっています。



問 40-2 利用している介護保険サービスはどれですか。(〇はいくつでも)

「訪問看護」、「福祉用具貸与」の割合が10.3%と最も高くなっています。

令和5年度調査と比較すると、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」「訪問看護」「訪問リハビリテーション」「通所介護（デイサービス）」「通所リハビリテーション（デイケア）」「短期入所生活介護（ショートステイ）」「福祉用具貸与」「特定福祉用具購入」の割合が減少しています。



※令和5年度調査では、「その他のサービス」がありませんでした。

【障害種別】

障害種別にみると、身体（精神を含む）で「訪問介護（ホームヘルプサービス）」「訪問リハビリテーション」「福祉用具貸与」「特定福祉用具購入」、精神で「訪問看護」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	訪問介護（ホームヘルプサービス）	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	夜間対応型訪問介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	居宅療養管理指導	通所介護（デイサービス）	通所リハビリテーション（デイケア）	地域密着型通所介護	認知症対応型通所介護	短期入所生活介護（ショートステイ）	短期入所療養介護（医療型ショートステイ）
全 体	311	5.8	2.3	10.3	8.0	0.3	0.6	0.6	4.5	6.4	0.0	0.6	1.0	0.0
身体+知的（精神を含む）	105	4.8	3.8	10.5	4.8	0.0	1.0	1.0	5.7	8.6	0.0	1.0	0.0	0.0
身体（精神を含む）	82	12.2	3.7	12.2	18.3	1.2	1.2	1.2	8.5	9.8	0.0	0.0	2.4	0.0
知的（精神を含む）	73	1.4	0.0	2.7	1.4	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	1.4	1.4	0.0
精神	30	3.3	0.0	26.7	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	12	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0

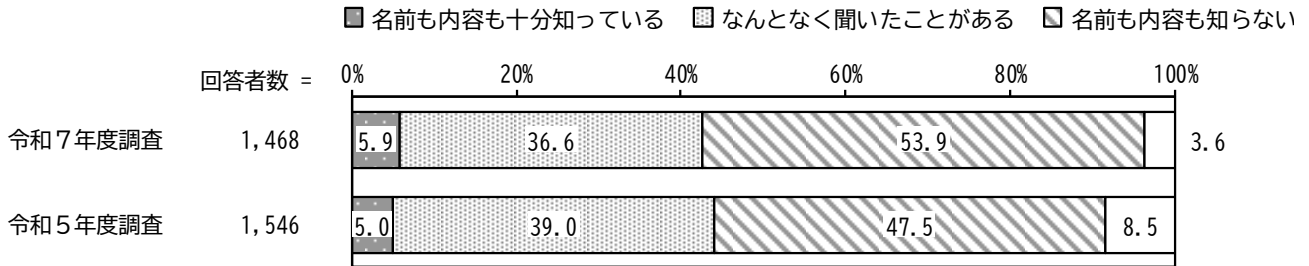
区分	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定施設入居者生活介護（介護付き有料老人ホーム等）	介護医療院	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	地域密着型特定施設入居者生活介護	小規模多機能型居宅介護	看護小規模多機能型居宅介護（複合型サービス）	福祉用具貸与	特定福祉用具購入	その他のサービス	無回答
全 体	1.0	0.3	1.0	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	10.3	5.1	1.3	68.2
身体+知的（精神を含む）	1.0	0.0	1.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5	3.8	1.9	69.5
身体（精神を含む）	2.4	1.2	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.0	11.0	2.4	47.6
知的（精神を含む）	0.0	0.0	1.4	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	2.7	0.0	84.9
精神	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.3	0.0	73.3
手帳なし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	66.7

## 11 権利擁護などについて

問 41 「障害者虐待防止法（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）」について知っていますか。（○は1つだけ）

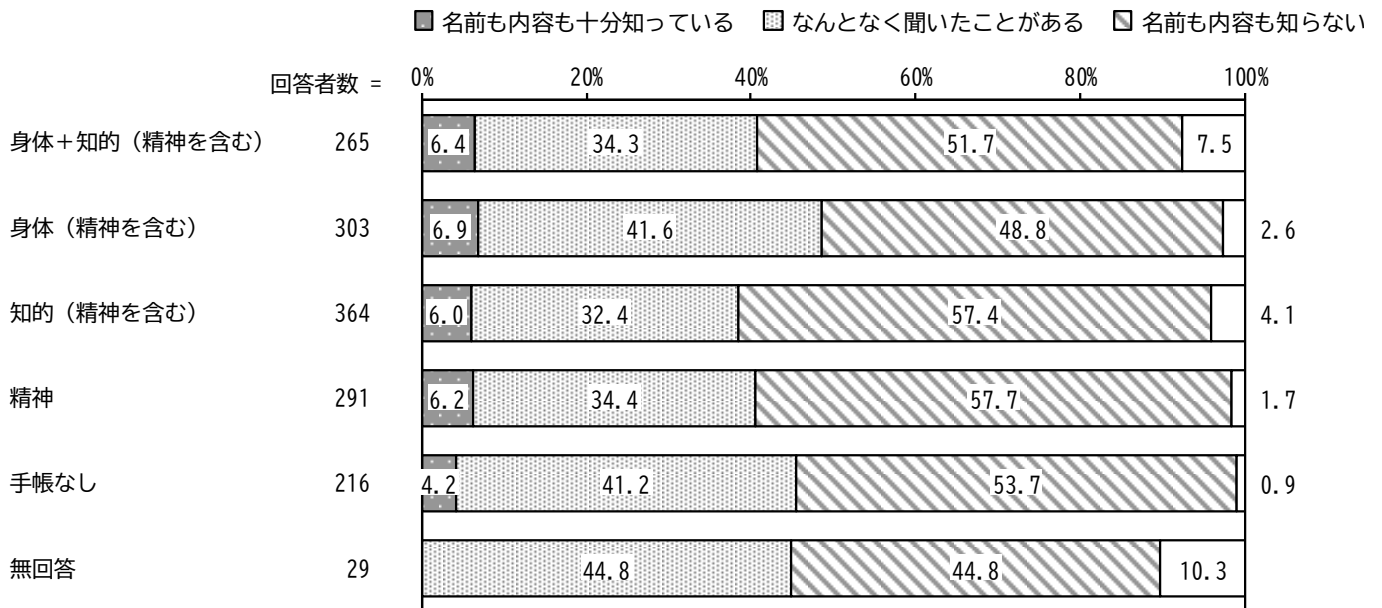
「名前も内容も十分知っている」の割合が5.9%、「なんとなく聞いたことがある」の割合が36.6%、「名前も内容も知らない」の割合が53.9%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「名前も内容も知らない」の割合が増加しています。



### 【障害種別】

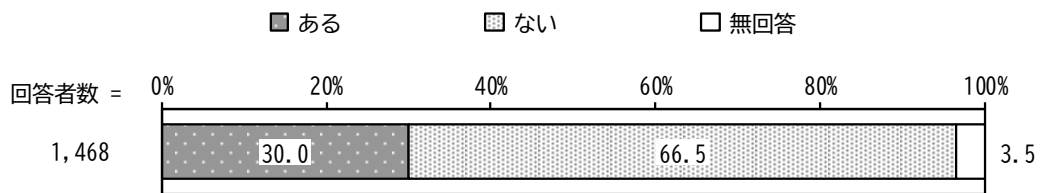
障害種別にみると、身体（精神を含む）で「なんとなく聞いたことがある」の割合が高く、「名前も内容も知らない」の割合が低くなっています。



問 42 差別を受けたと思ったこと、配慮がなくて困ったことについてお聞きします。

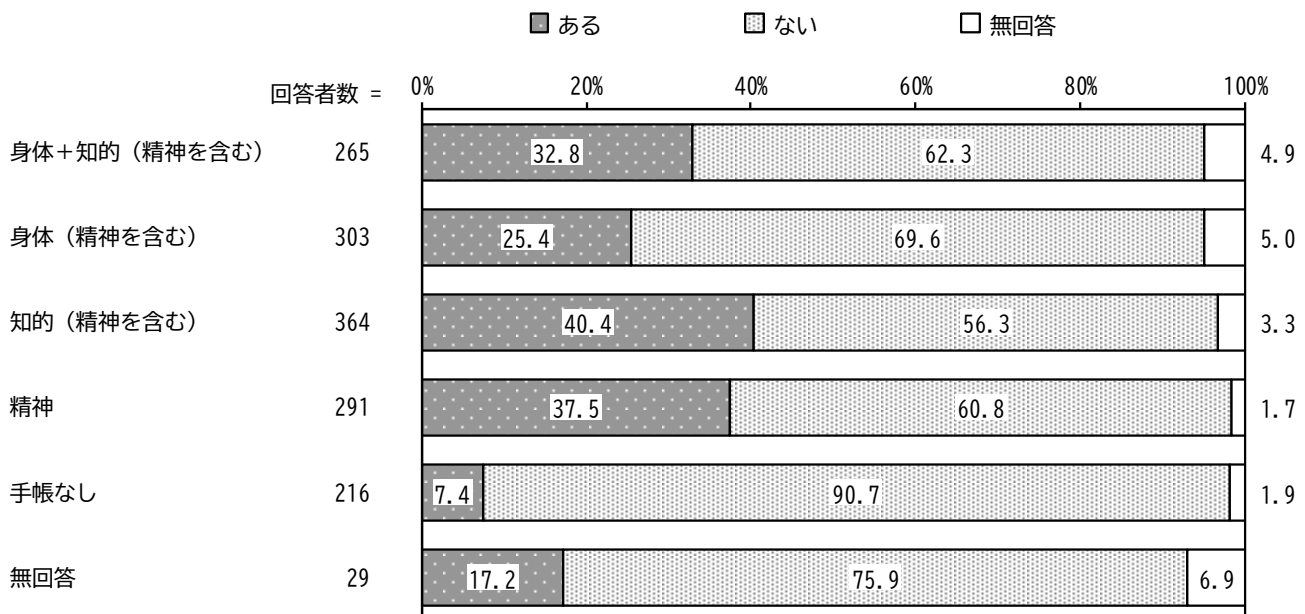
配慮がなくて困ったことがありますか。

「ある」の割合が 30.0%、「ない」の割合が 66.5%となっています。



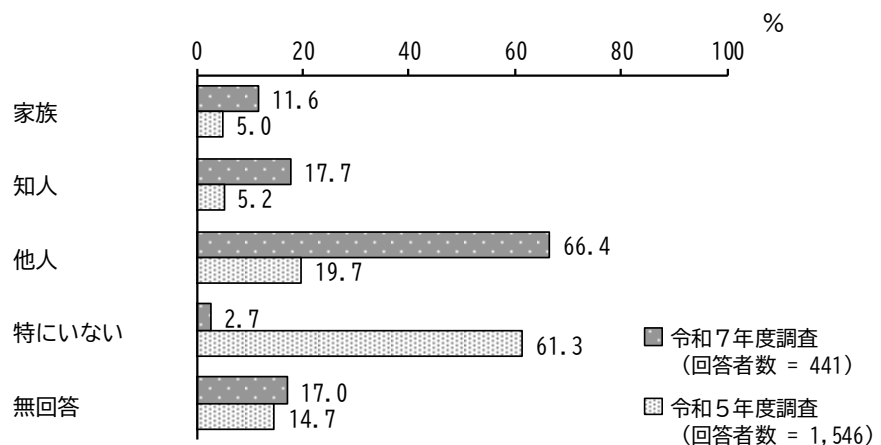
【障害種別】

障害種別にみると、知的（精神を含む）で「ある」、手帳なしで「ない」の割合が高くなっています。



誰から受けましたか（〇はいくつでも）

「家族」の割合が 11.6%、「知人」の割合が 17.7%、「他人」の割合が 66.4%となっています。令和 5 年度調査と比較すると、「家族」「知人」「他人」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別にみると、精神で「家族」、精神、手帳なしで「知人」、身体（精神を含む）で「他人」の割合が高くなっています。

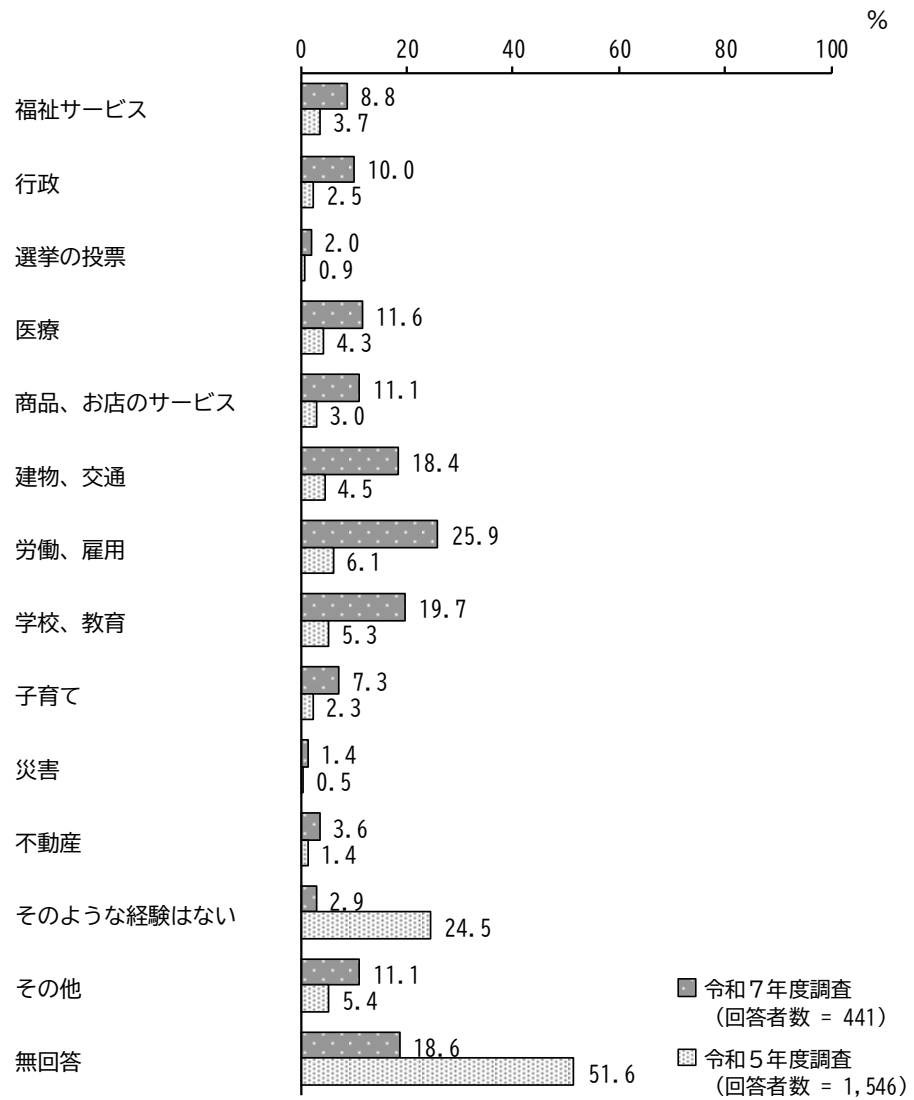
単位：％

区分	回答者数 (件)	家族	知人	他人	特 に い ない	無 回 答
全 体	441	11.6	17.7	66.4	2.7	17.0
身体+知的（精神を含む）	87	6.9	9.2	60.9	0.0	33.3
身体（精神を含む）	77	9.1	15.6	76.6	3.9	11.7
知的（精神を含む）	147	9.5	18.4	61.9	4.1	14.3
精神	109	19.3	23.9	71.6	1.8	10.1
手帳なし	16	12.5	25.0	56.3	6.3	18.8
無回答	5	20.0	20.0	60.0	0.0	40.0

どのようなことですか（〇はいくつでも）

「労働、雇用」の割合が25.9%と最も高く、次いで「学校、教育」の割合が19.7%、「建物、交通」の割合が18.4%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「福祉サービス」「行政」「医療」「商品、お店のサービス」「建物、交通」「労働、雇用」「学校、教育」の割合が増加しています。一方、「そのような経験はない」の割合が減少しています。



【障害種別】

障害種別にみると、身体（精神を含む）で「建物、交通」、精神で「労働、雇用」、手帳なしで「学校、教育」「子育て」の割合が高くなっています。

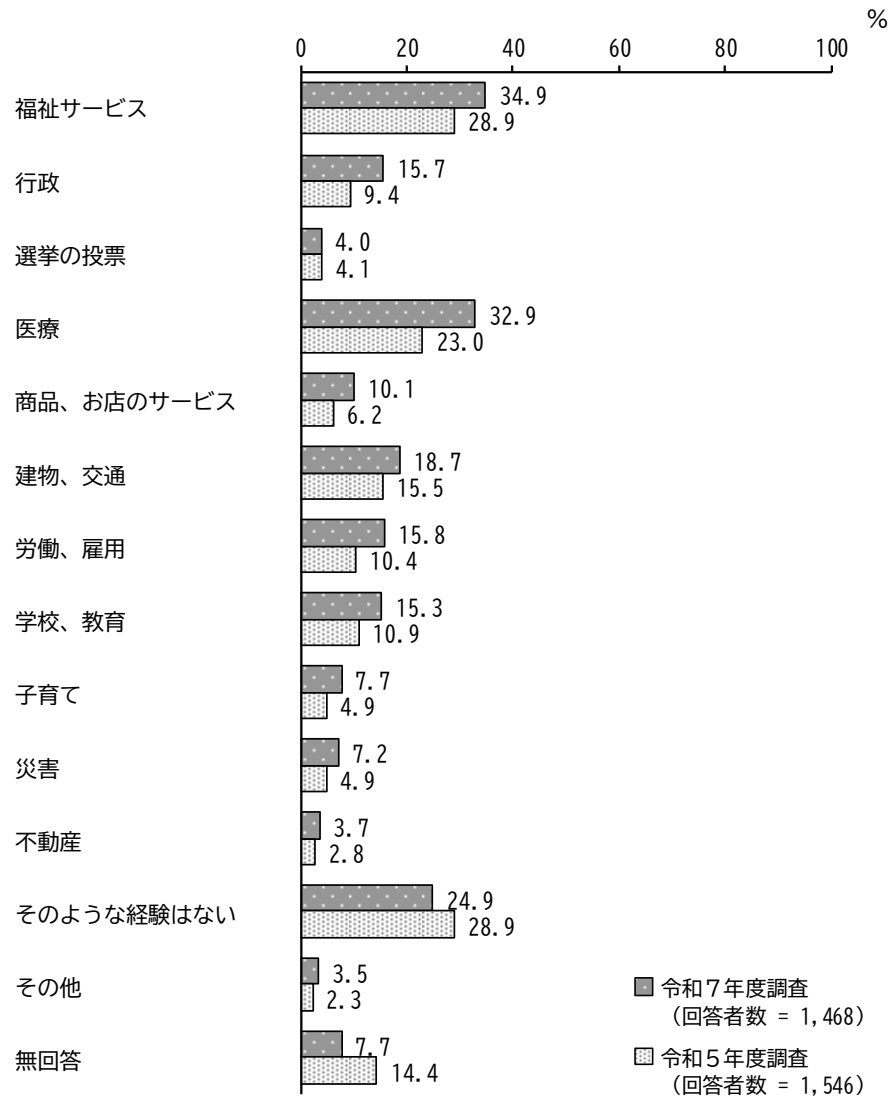
単位：％

区分	回答者数 (件)	福祉サービス	行政	選挙の投票	医療	商品、お店のサービス	建物、交通	労働、雇用	学校、教育	子育て	災害	不動産	そのような経験はない	その他	無回答
全体	441	8.8	10.0	2.0	11.6	11.1	18.4	25.9	19.7	7.3	1.4	3.6	2.9	11.1	18.6
身体+知的 (精神を含む)	87	9.2	4.6	2.3	13.8	11.5	20.7	16.1	10.3	1.1	1.1	3.4	2.3	10.3	29.9
身体 (精神を含む)	77	11.7	10.4	2.6	13.0	18.2	44.2	31.2	13.0	6.5	2.6	6.5	3.9	13.0	7.8
知的 (精神を含む)	147	8.8	10.9	2.7	11.6	11.6	10.9	17.7	27.2	9.5	1.4	2.7	2.7	11.6	21.1
精神	109	6.4	11.9	0.9	10.1	5.5	10.1	45.0	18.3	7.3	0.9	3.7	1.8	11.0	11.9
手帳なし	16	6.3	18.8	0.0	6.3	0.0	6.3	0.0	43.8	25.0	0.0	0.0	12.5	6.3	18.8
無回答	5	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0

問 43 あなたは、障がいのある人への配慮として良かったこと、配慮があって助かったこと、今後配慮してほしいことなどがありますか。どのようなことですか  
(〇はいくつでも)

「福祉サービス」の割合が 34.9%と最も高く、次いで「医療」の割合が 32.9%、「そのような経験はない」の割合が 24.9%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「福祉サービス」「行政」「医療」「労働、雇用」の割合が増加しています。



## 【障害種別】

障害種別にみると、身体（精神を含む）で「医療」「建物、交通」、精神で「労働、雇用」、知的（精神を含む）で「学校、教育」、手帳なしで「子育て」「そのような経験はない」の割合が高くなっています。

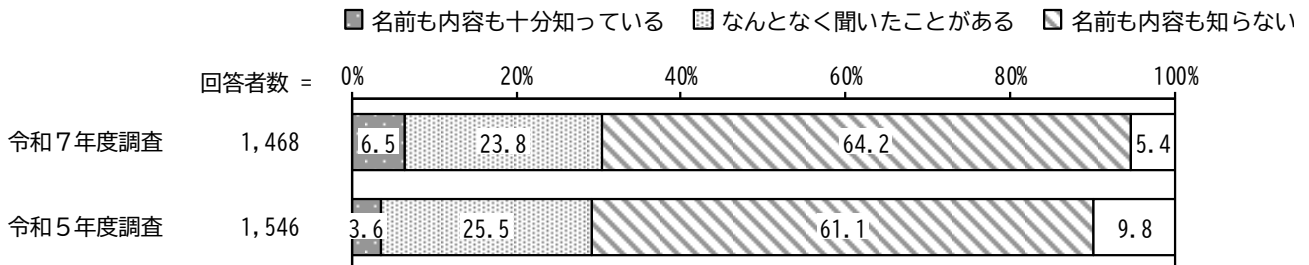
単位：％

区分	回答者数 (件)	福祉サービス	行政	選挙の投票	医療	商品、お店のサービス	建物、交通	労働、雇用	学校、教育	子育て	災害	不動産	そのような経験はない	その他	無回答
全体	1,468	34.9	15.7	4.0	32.9	10.1	18.7	15.8	15.3	7.7	7.2	3.7	24.9	3.5	7.7
身体+知的 (精神を含む)	265	29.1	12.1	5.3	33.6	10.6	20.4	11.7	7.2	3.8	4.5	3.4	24.9	5.3	13.6
身体 (精神を含む)	303	34.3	20.1	5.6	40.6	13.2	28.4	13.9	6.6	4.0	9.9	3.3	21.5	2.6	6.6
知的 (精神を含む)	364	38.7	13.7	4.1	26.6	9.1	15.4	16.5	28.3	9.3	6.6	3.0	22.5	3.3	8.8
精神	291	35.4	18.2	2.4	34.0	8.9	17.9	22.7	10.3	5.2	6.9	4.8	24.1	5.2	4.1
手帳なし	216	34.7	13.9	1.9	28.7	8.3	10.2	13.4	22.2	17.6	7.4	3.7	36.6	0.9	3.7
無回答	29	44.8	13.8	6.9	44.8	13.8	17.2	13.8	17.2	13.8	13.8	6.9	13.8	0.0	17.2

問 44 「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」について知っていますか。（○は1つだけ）

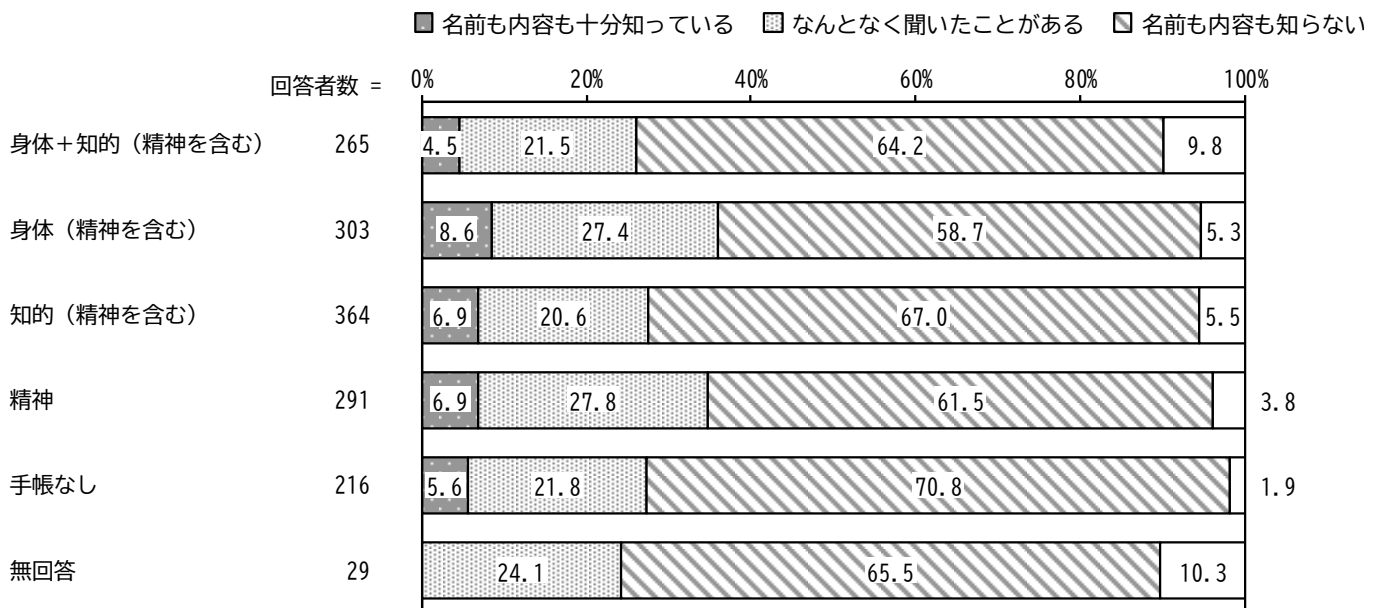
「名前も内容も十分知っている」の割合が6.5%、「なんとなく聞いたことがある」の割合が23.8%、「名前も内容も知らない」の割合が64.2%となっています。

令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害種別】

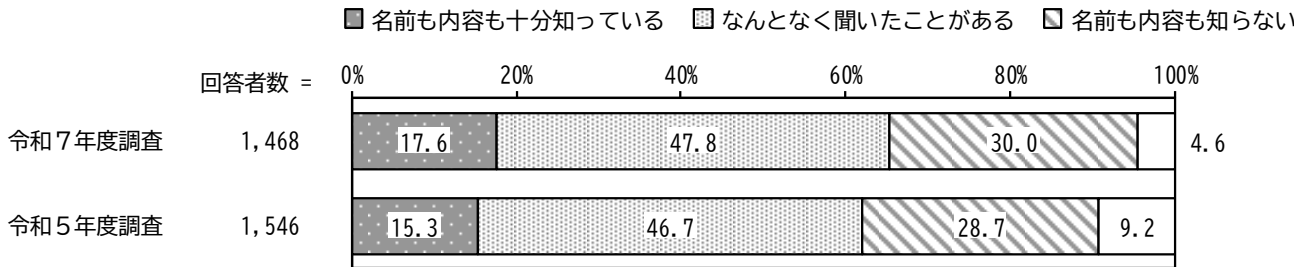
障害種別に見ると、手帳なしで「名前も内容も知らない」の割合が高くなっています。



問 45 成年後見制度について知っていますか。(○は1つだけ)

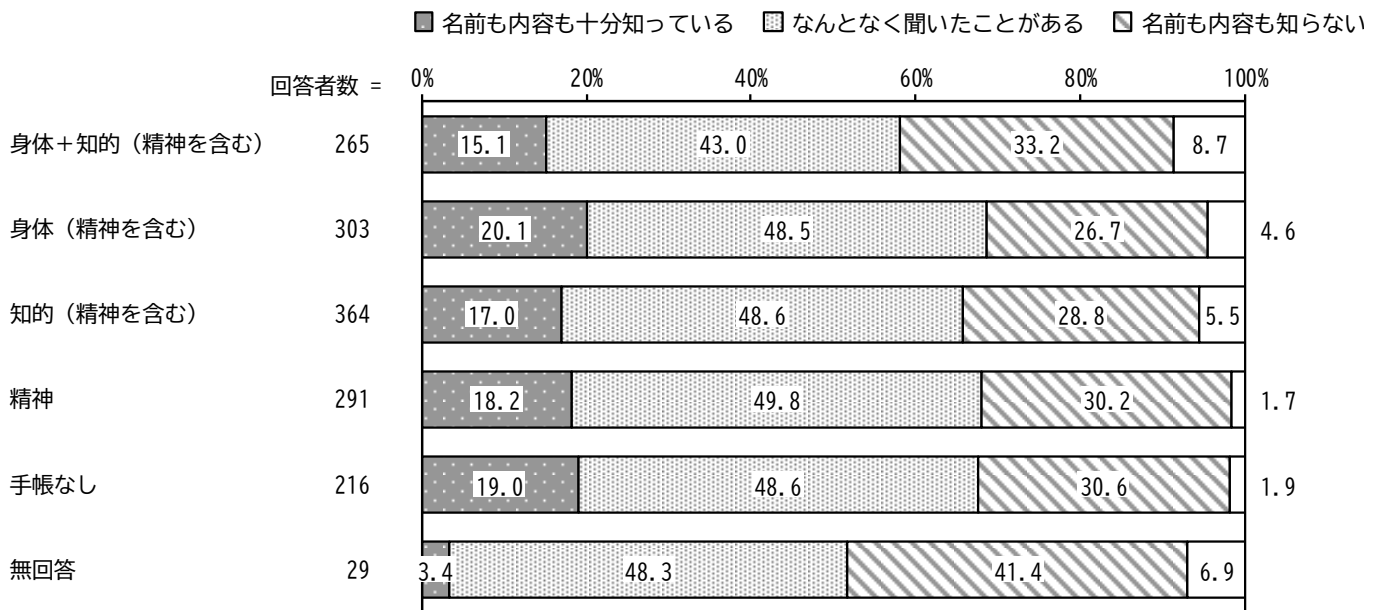
「名前も内容も十分知っている」の割合が17.6%、「なんとなく聞いたことがある」の割合が47.8%、「名前も内容も知らない」の割合が30.0%となっています。

令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【障害種別】

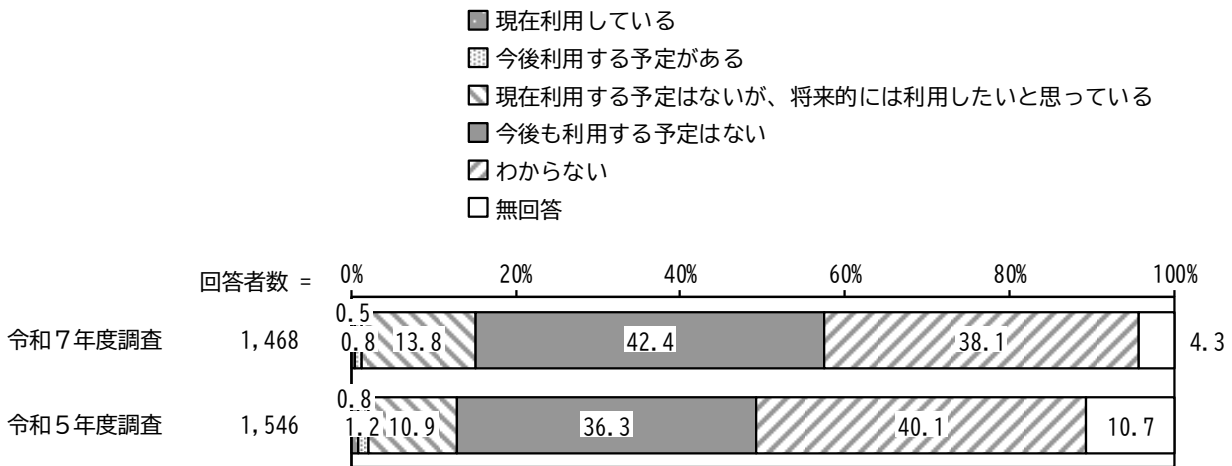
障害種別にみると、大きな差はみられません。



問 46 あなたは現在、成年後見制度を利用していますか。また今後、利用する予定はありますか。(○は1つだけ)

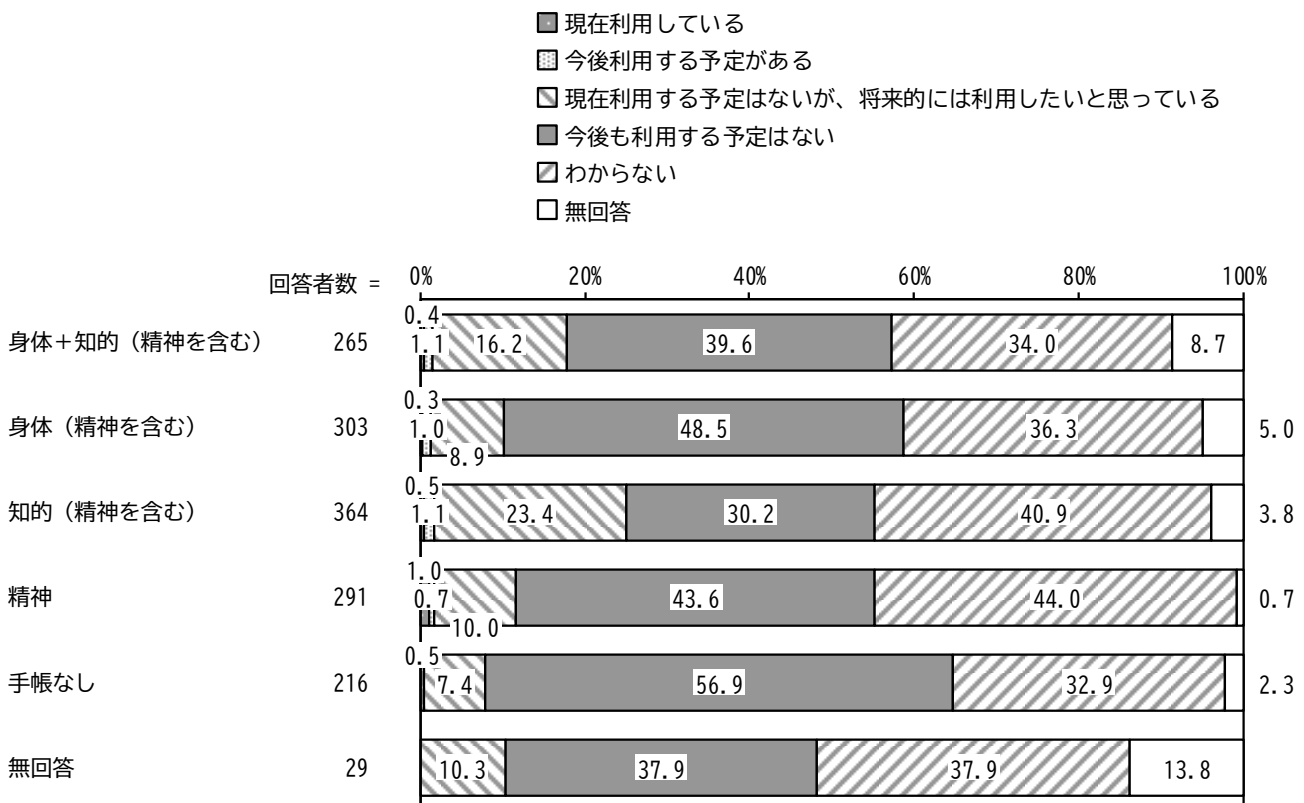
「今後も利用する予定はない」の割合が 42.4%と最も高く、次いで「現在利用する予定はないが、将来的には利用したいと思っている」の割合が 13.8%となっています。

令和5年度調査と比較すると、「今後も利用する予定はない」の割合が増加しています。



【障害種別】

障害種別に見ると、知的（精神を含む）で「現在利用する予定はないが、将来的には利用したいと思っている」、手帳なしで「今後も利用する予定はない」の割合が高くなっています。

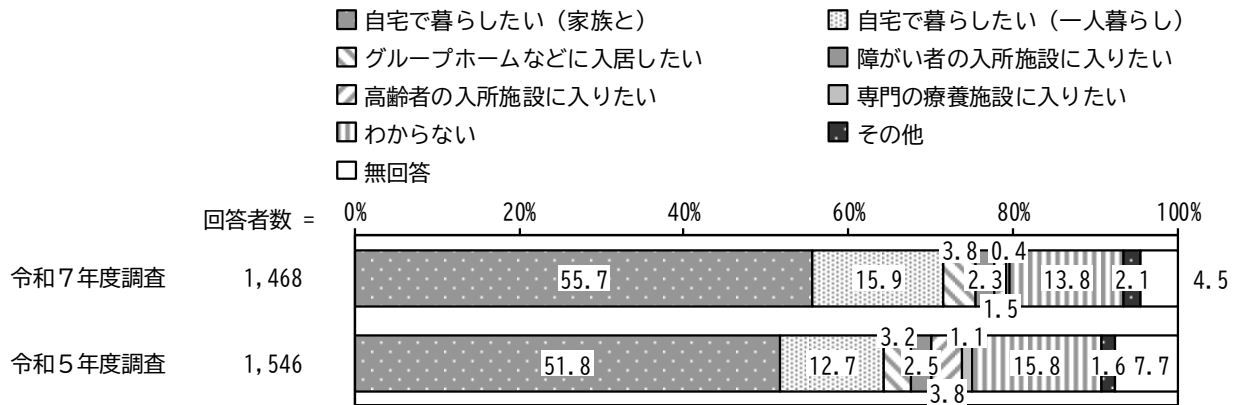


## 12 今後のことについて

問 47 あなたは、将来（概ね 10 年後）どのように暮らしたいと思いますか。  
（○は1つだけ）

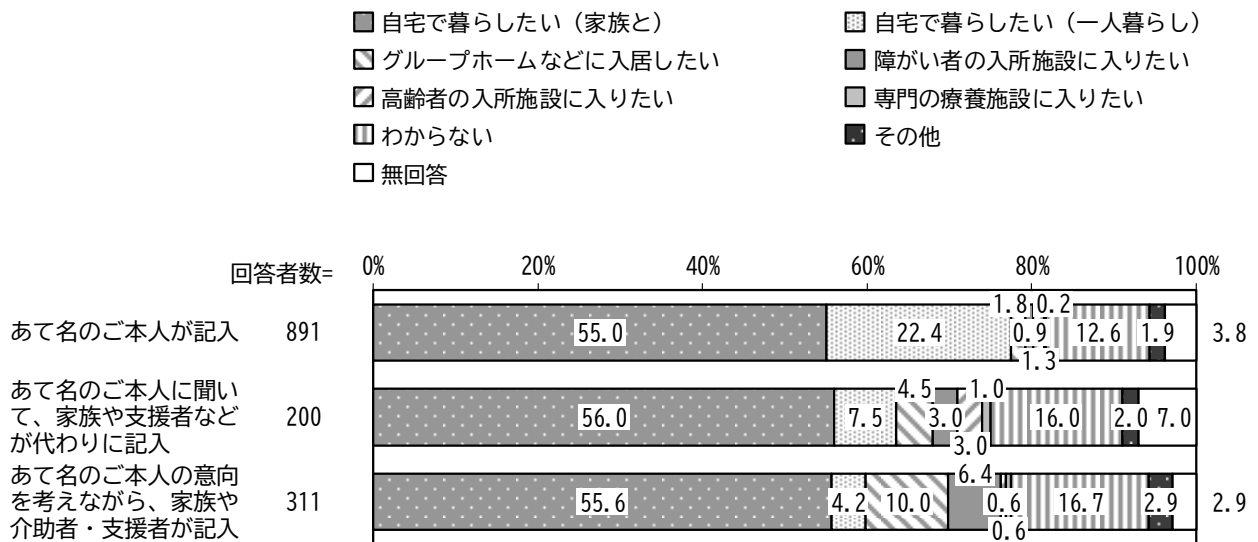
「自宅で暮らしたい（家族と）」の割合が 55.7%と最も高く、次いで「自宅で暮らしたい（一人暮らし）」の割合が 15.9%となっています。

令和 5 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



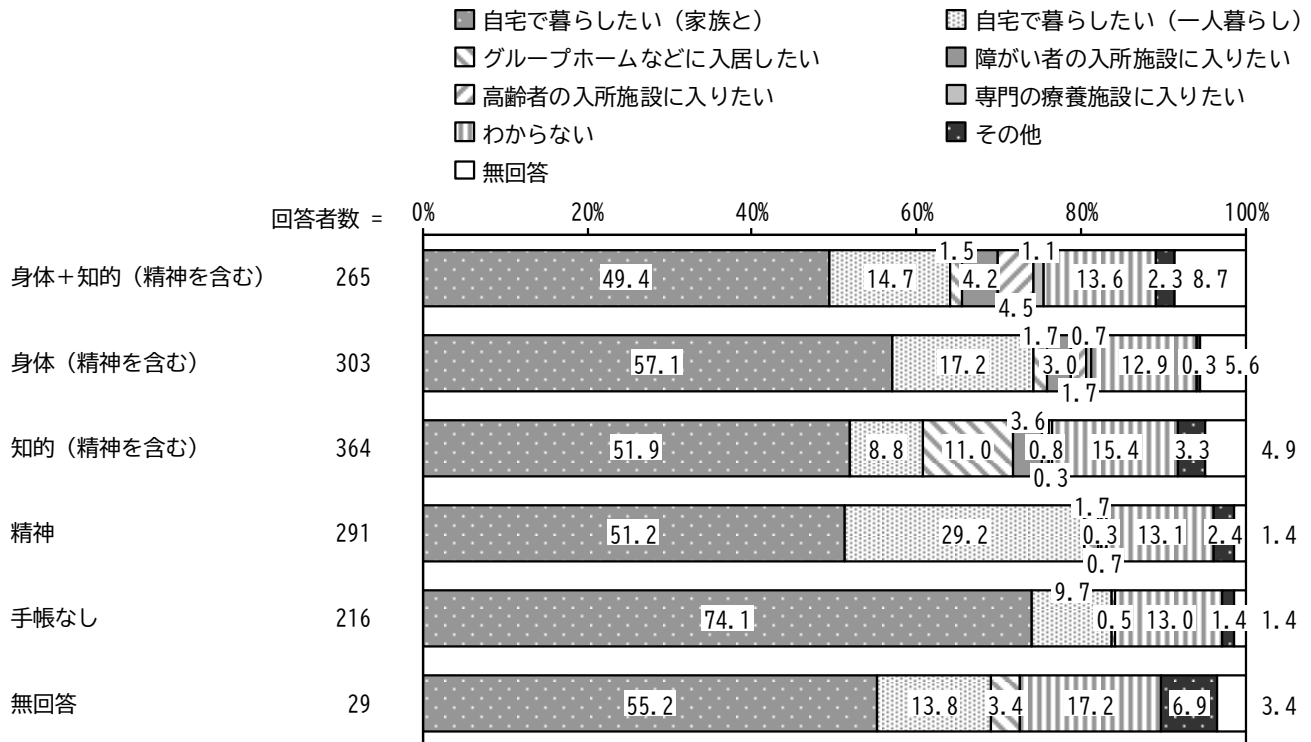
### 【回答者別】

回答者別にみると、あて名のご本人が記入で「自宅で暮らしたい（一人暮らし）」、あて名のご本人の意向を考えながら、家族や介助者・支援者が記入で「グループホームなどに入居したい」の割合が高くなっています。



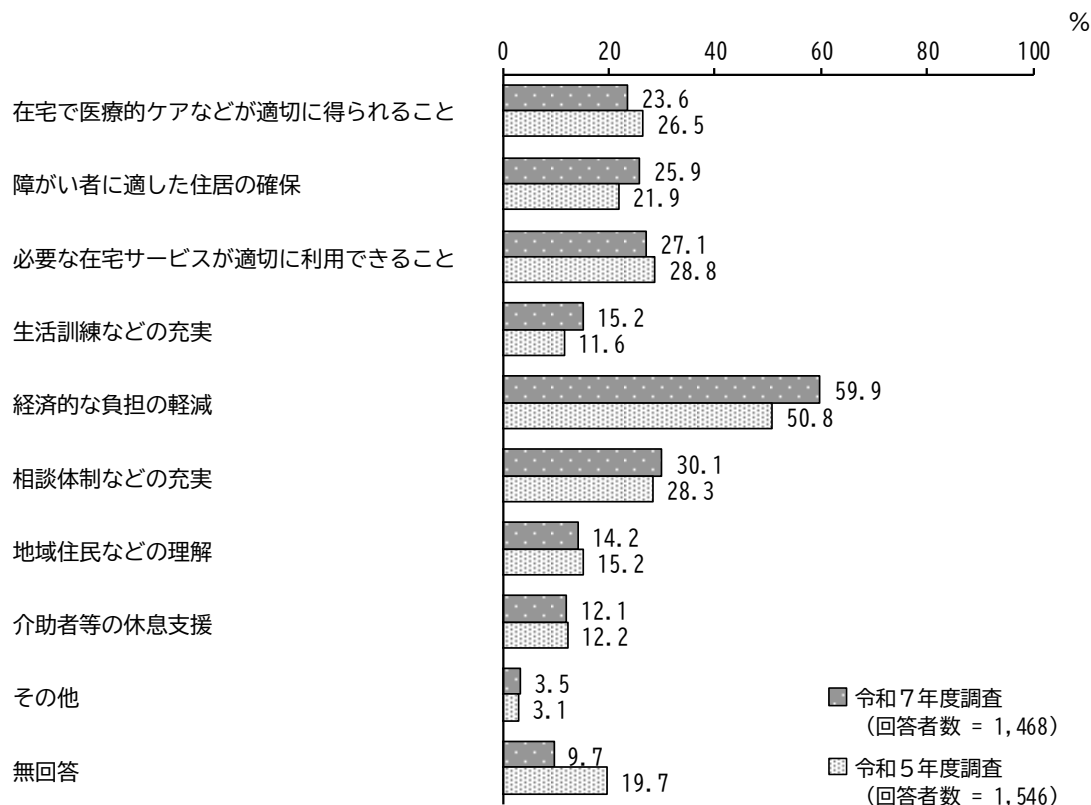
【障害種別】

障害種別にみると、手帳なしで「自宅で暮らしたい（家族と）」、精神で「自宅で暮らしたい（一人暮らし）」、知的（精神を含む）で「グループホームなどに入居したい」の割合が高くなっています。



問 48 あなたが将来にわたって地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

「経済的な負担の軽減」の割合が 59.9%と最も高く、次いで「相談体制などの充実」の割合が 30.1%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」の割合が 27.1%となっています。  
令和 5 年度調査と比較すると、「経済的な負担の軽減」の割合が増加しています。



【回答者別】

回答者別にみると、あて名のご本人の意向を考えながら、家族や介助者・支援者が記入で「障がい者に適した住居の確保」「生活訓練などの充実」「介助者等の休息支援」、あて名のご本人に聞いて、家族や支援者などが代わりに記入、あて名のご本人の意向を考えながら、家族や介助者・支援者が記入で「相談体制などの充実」「地域住民などの理解」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	在宅で医療的ケアなどが適切に得られること	障がい者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練などの充実	経済的な負担の軽減	相談体制などの充実	地域住民などの理解	介助者等の休息支援	その他	無回答
全体	1,468	23.6	25.9	27.1	15.2	59.9	30.1	14.2	12.1	3.5	9.7
あて名のご本人が記入	891	26.2	22.4	25.5	8.5	63.6	26.8	10.4	8.6	2.9	9.3
あて名のご本人に聞いて、家族や支援者などが代わりに記入	200	20.5	27.0	28.0	18.5	51.0	36.0	19.5	13.5	4.5	11.5
あて名のご本人の意向を考えながら、家族や介助者・支援者が記入	311	16.7	35.7	30.9	31.2	57.6	37.0	21.9	20.6	4.8	7.7

【障害種別】

障害種別にみると、身体+知的（精神を含む）、身体（精神を含む）で「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること」、知的（精神を含む）で「障がい者に適した住居の確保」「生活訓練などの充実」「地域住民などの理解」「介助者等の休息支援」、精神で「経済的な負担の軽減」「相談体制などの充実」の割合が高くなっています。

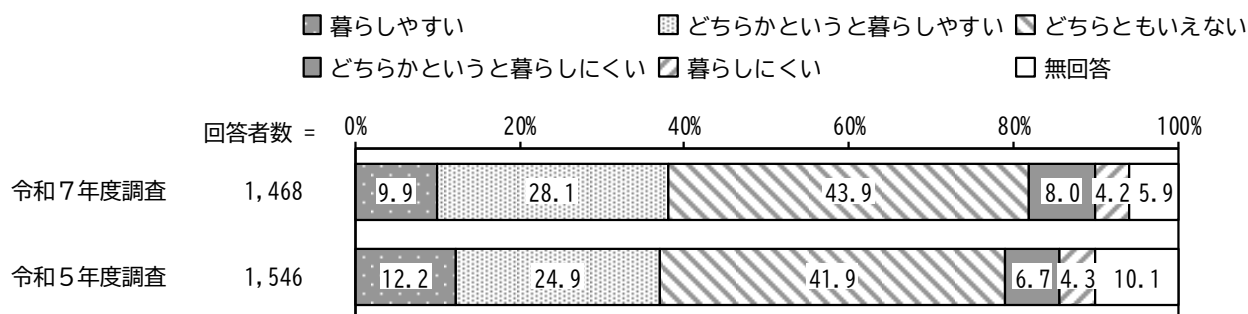
単位：％

区分	回答者数 (件)	在宅で医療的ケアなどが適切に得られること	障がい者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練などの充実	経済的な負担の軽減	相談体制などの充実	地域住民などの理解	介助者等の休息支援	その他	無回答
全 体	1,468	23.6	25.9	27.1	15.2	59.9	30.1	14.2	12.1	3.5	9.7
身体+知的（精神を含む）	265	29.8	24.9	28.7	8.3	50.2	26.0	9.8	10.2	2.6	17.0
身体（精神を含む）	303	32.0	26.4	32.0	9.2	58.7	21.1	10.2	11.9	4.0	7.6
知的（精神を含む）	364	14.0	36.0	28.3	25.0	58.8	33.8	24.2	17.9	4.4	9.6
精神	291	18.9	23.4	23.4	12.0	69.1	38.8	11.3	9.6	2.7	6.5
手帳なし	216	25.9	13.0	22.2	19.0	64.4	30.6	11.1	8.8	2.8	7.9
無回答	29	31.0	24.1	20.7	20.7	48.3	24.1	20.7	6.9	6.9	10.3

問 49 総合的に見て、現在の富士見市は障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。(○は1つだけ)

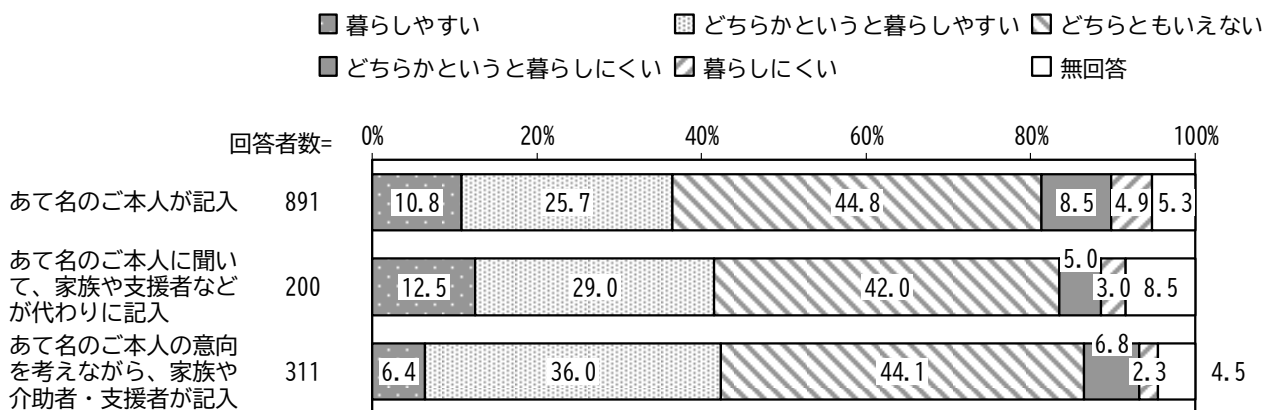
「暮らしやすい」「どちらかという暮らしやすい」を合わせた「暮らしやすい」の割合が 38.0%、「どちらかという暮らしにくい」「暮らしにくい」を合わせた「暮らしにくい」の割合が 12.2%となっています。

令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



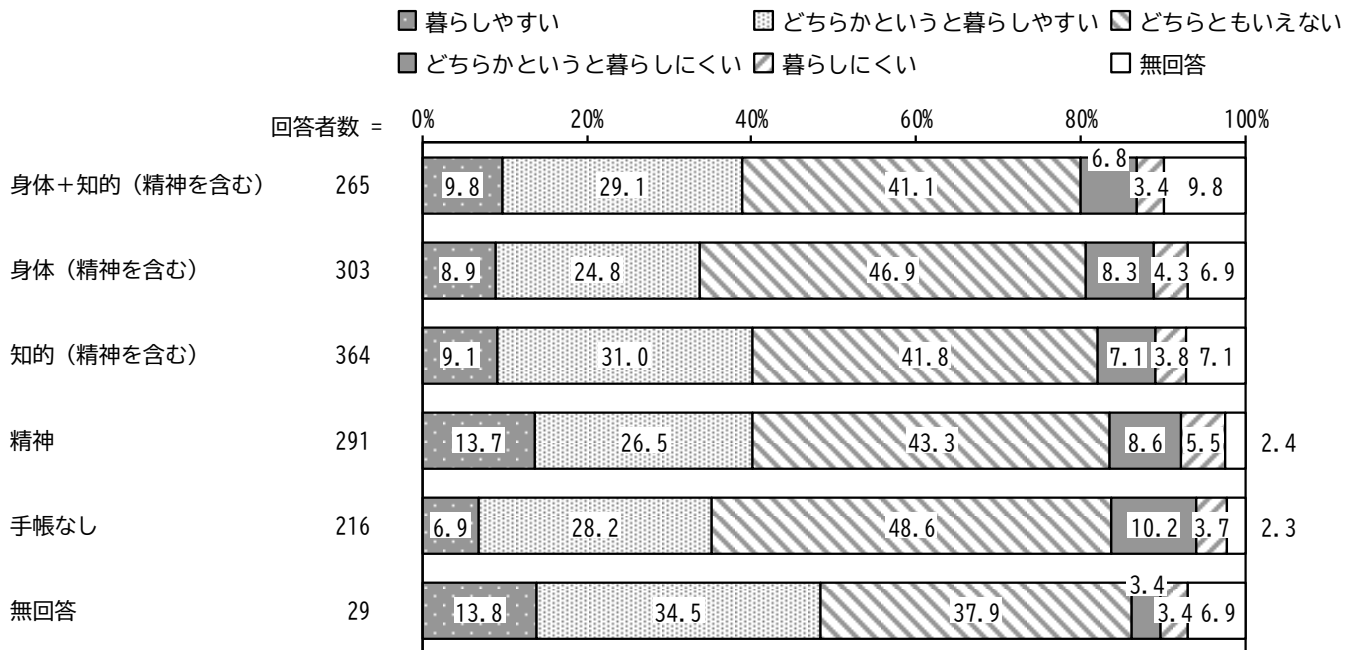
【回答者別】

回答者別にみると、あて名のご本人の意向を考えながら、家族や介助者・支援者が記入で「どちらかという暮らしやすい」の割合が高くなっています。



【障害種別】

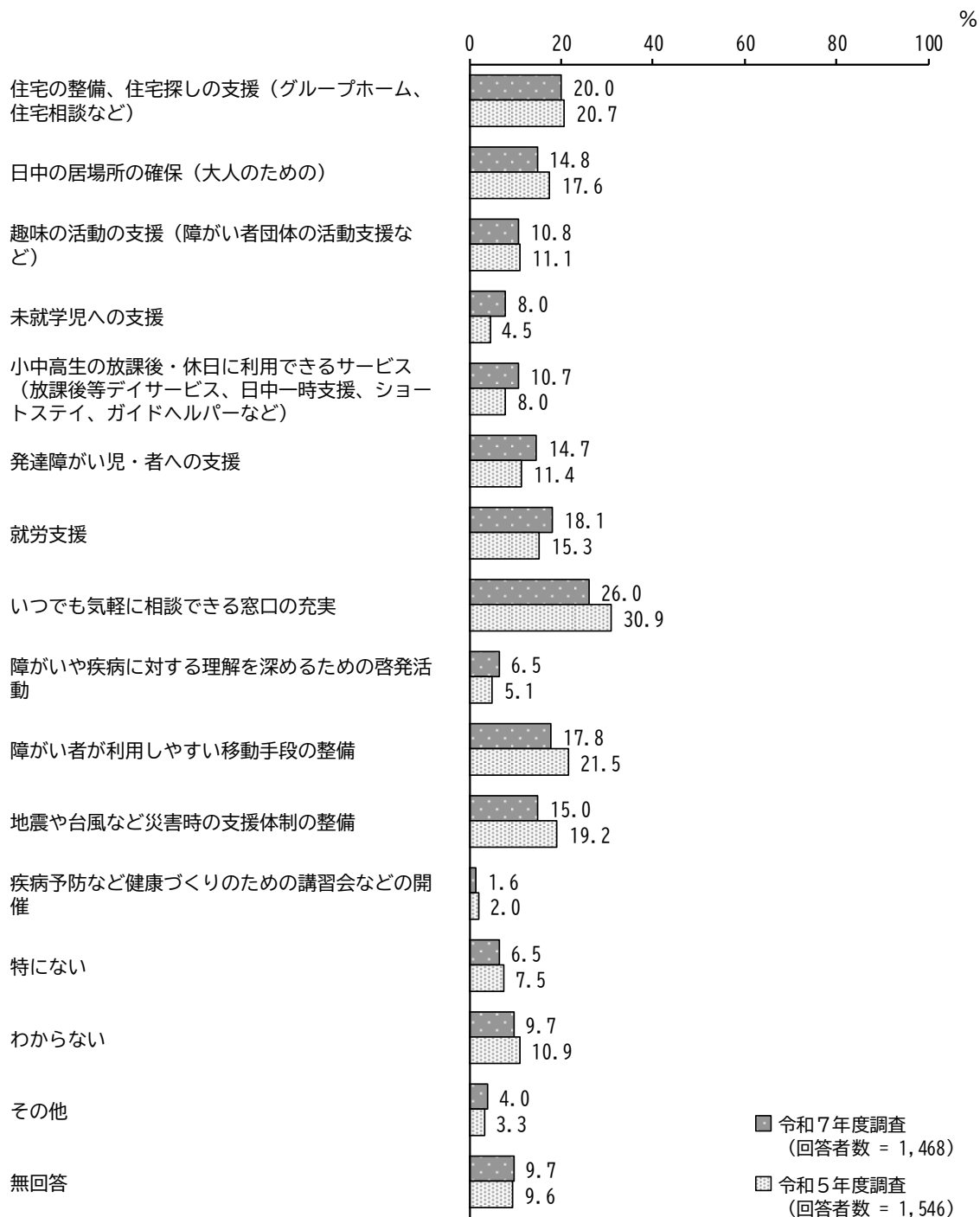
障害種別にみると、大きな差はみられません。



問 50 今後、富士見市の障がい福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(主なものを3つまでに○)

「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」の割合が 26.0%と最も高く、次いで「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」の割合が 20.0%、「就労支援」の割合が 18.1%となっています。

令和5年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【回答者別】

回答者別にみると、あて名のご本人の意向を考えながら、家族や介助者・支援者が記入で「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」「未就学児への支援」「小中高生の放課後・休日に利用できるサービス（放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど）」「発達障がい児・者への支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）	日中の居場所の確保（大人のための）	趣味の活動の支援（障がい者団体の活動支援など）	未就学児への支援	小中高生の放課後・休日に利用できるサービス（放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど）
全体	1,468	20.0	14.8	10.8	8.0	10.7
あて名のご本人が記入	891	18.3	14.1	11.4	3.9	3.5
あて名のご本人に聞いて、家族や支援者などが代わりに記入	200	21.5	15.5	13.5	11.5	16.5
あて名のご本人の意向を考えながら、家族や介助者・支援者が記入	311	25.7	17.0	8.7	18.6	29.9

区分	発達障がい児・者への支援	就労支援	いつでも気軽に相談できる窓口の充実	障がいや疾病に対する理解を深めるための啓発活動	障がい者が利用しやすい移動手段の整備	地震や台風など災害時の支援体制の整備
全体	14.7	18.1	26.0	6.5	17.8	15.0
あて名のご本人が記入	9.4	18.7	29.2	7.6	20.3	15.5
あて名のご本人に聞いて、家族や支援者などが代わりに記入	19.5	19.0	23.5	3.5	14.0	9.5
あて名のご本人の意向を考えながら、家族や介助者・支援者が記入	29.3	16.4	19.9	5.5	12.5	16.7

区分	疾病予防など健康づくりのための講習会などの開催	特になし	わからない	その他	無回答
全体	1.6	6.5	9.7	4.0	9.7
あて名のご本人が記入	1.8	8.4	11.1	4.9	8.0
あて名のご本人に聞いて、家族や支援者などが代わりに記入	1.0	5.0	9.0	2.5	10.5
あて名のご本人の意向を考えながら、家族や介助者・支援者が記入	0.6	2.3	5.1	1.3	10.9

【障害種別】

障害種別にみると、知的（精神を含む）で「住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）」、手帳なしで「未就学児への支援」「小中高生の放課後・休日に利用できるサービス（放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど）」「発達障がい児・者への支援」、精神で「就労支援」「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」、身体（精神を含む）で「障がい者が利用しやすい移動手段の整備」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）	日中の居場所の確保（大人のための）	趣味の活動の支援（障がい者団体の活動支援など）	未就学児への支援	小中高生の放課後・休日に利用できるサービス（放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど）
全体	1,468	20.0	14.8	10.8	8.0	10.7
身体+知的（精神を含む）	265	20.8	14.0	12.5	1.9	4.2
身体（精神を含む）	303	16.8	11.2	10.2	4.3	3.6
知的（精神を含む）	364	31.0	20.3	12.9	5.8	15.9
精神	291	16.5	17.9	12.0	5.2	4.1
手帳なし	216	10.6	6.9	4.6	27.3	28.2
無回答	29	13.8	17.2	10.3	13.8	13.8

区分	発達障がい児・者への支援	就労支援	いつでも気軽に相談できる窓口の充実	障がいや疾病に対する理解を深めるための啓発活動	障がい者が利用しやすい移動手段の整備	地震や台風など災害時の支援体制の整備
全体	14.7	18.1	26.0	6.5	17.8	15.0
身体+知的（精神を含む）	4.9	13.6	26.0	4.5	20.4	17.4
身体（精神を含む）	4.6	9.9	23.8	6.9	30.7	17.8
知的（精神を含む）	19.8	20.1	20.9	5.5	11.3	16.2
精神	18.9	28.9	36.4	8.6	14.8	13.4
手帳なし	25.9	16.7	23.1	6.0	11.6	8.8
無回答	20.7	20.7	27.6	13.8	17.2	10.3

区分	疾病予防など健康づくりのための講習会などの開催	特になし	わからない	その他	無回答
全体	1.6	6.5	9.7	4.0	9.7
身体+知的（精神を含む）	1.9	5.7	11.3	2.3	16.2
身体（精神を含む）	1.3	9.9	12.2	5.0	7.3
知的（精神を含む）	1.1	4.4	7.7	3.0	12.1
精神	1.4	6.5	8.9	4.5	5.5
手帳なし	2.3	6.5	9.7	5.6	6.0
無回答	3.4	3.4	3.4	3.4	17.2

最後に、市の障がい福祉にご意見・ご要望がございましたらお書きください。

227 件の記述がありました。その中から、一部を紹介します。

- ・「痛み」という症状は他人から見えないため見た目が普通であることで助け合い等に参加できないことをサボっているというふうに取り扱われる事例が東日本大震災で同病の方が多く直面したようだ。

#### (1) 理解と交流の促進について

- 「害」を「がい」にすればイメージがマシになるとはどういうことだろう?音できいたら同じなのに。そもそもそのような区別をして認定を受けないとサービスが受けられず、その認定を受けるためにハードルが高いため、“サービス”の割には気軽に利用できるものではない。サービスがあることは市役所に行けばわかるし、ホームページには書いてある。しかしその存在が認識されていないのであればそのサービスは存在しているといえるだろうか?サービスの中には人々がおりこのような有用なアンケートを作成した人々がいてそれを集計しこれを読むあなたがいる。しかし「サービス」の一言でそれらはシステムに置き換わりあなたやその内部で働く人々は見えなくなってしまう。インターネット版では集計もすぐに AI が行うようになるだろう。イメージやシステムより実際の人間のことを観る必要がある。
- 「障がい福祉課」の名称を「共生社会推進課(志木市のように)に変更したらどうかな、(郵便物の差出人が、障がい福祉課だと印象がよくないので・・・)と思います。
- 教育機関、教育関係の窓口との連携を密に行ってほしい。特別支援学級に通っているのに、担任教員の障がいへの知識、理解があまりにも乏しく(無く)、家族がいくら自宅で当人に対し配慮、考慮、フォローしていても学校での苦しさやストレスが多く、親までも疲弊してしまっている。子を見ていて、個々人への配慮ができていない。何年たっても何も変わらない。親だけが学校へ何度もお願いかけ合って、相談して、それでもまたふり出しに戻る。特に自傷行為のような緊急性の高いものに関して教員が何もわからない、どうしていいかわからないでは話になりません。先生に障がいに関する指導を行ってほしい。療育とは、配慮とは何かを教えてあげて下さい。
- 「福祉課の職員」=「知識が豊富」ではないのが現状。知識と共に対応力がある人も多くはない。また、最後まで話を聞かずに相手側が話し始める事もある。迷惑をかけている身で言うのもとてもおこがましいかもしれないが、どうか安心できる対応をしてもらえる様になってくれると嬉しい。
- 市職員が障害者がおかれた状況によりそうとできない人ばかりで人権意識を疑う発言が多く行くたび精神的に疲弊する。余裕のない人ばかり。DX や人数を増やす等対策をしてほしい。しわよせは市民に向く。
- もっと、話し方を、丁寧に、わかりやすく、話した、くぎって、会話して欲しい、そうしてもらえると、聞き取りやすい。
- 軽度知的は重度、中度とくらべて、ふつうに出来そうに見えるのでコミュニケーションが取れますし支援がなくても、ふつうに働ける人が多いので、知的障がいの中ではストレスが多く、働きにくさ生きづらさを感じている人が多いです。また、軽度やグレーゾーンは身内・家ぞくから理解されにくく受けいれてもらえないと感じる人が多いと思います。(私がそうです)。「バカ」という言葉が理解できてしまわなければ良かったのに。と思いながら生きてきました。悩みや意思があっても、言語化できないので本音をうちあけられない人が多いと思います。障害年金に該当しなかったり、保育園にあずけられなかったりと、軽度知的なのに建常者と同じ生活レベルを求められてストレスを感じます。でも助けてが言えないです。言語化ができないからこそ見落とされています。

軽度やグレーゾーンの人にこそ支援をて厚くするべきだと思います。

- 障がいとは生まれながらのものとは不幸なことに障がい者になってしまう人生なかばで誰でもなる可能性があることがある。誰でもなる可能性があるということなど理解されるようなとりくみが子供の頃からあると良いと思う。
- 精神障害者について多くの人に知ってもらいたい理解や相談できる支援をする場所を増やしてもらいたい。
- 病気がある人同士の交流会などがあると良いと思いました。

## (2) 相談・情報提供・権利擁護の充実について

- 障がいによって受けられる情報をもっと責極的に教えて欲しい、こちらから聞かないと何も教えてくれないのではなく。
- 受給者証を取得する時、どこにも受け入れしてもらえず、私、(親)の精神的にも限界でした。そんな中、支援員を間に入れると取得するまで時間がかかると言われ、最初はセルフプランにしましたが、預け先は自分で調べて、自分で見つけるのが大変でした。セルフプランだとしても、もう少し手伝って欲しかった。ネットには情報があると言え、右も左も全く分からないし、とても不安なのです。
- 市役所の窓口で相談に行った時、くわしいことはネットに出ているのでせめて、どのように困っているのか聞くなりして欲しかった。みて下さいの一言で終わられた。医師もそういう認識があり、他にも同じような思いをした方がいると思うので、患者や保護者からききますと返答がありました。あたると色々教えてくれるけど、そうでない人にあたるとどのような対応をされるとするのが仕事だと思う。結局、困って主治医に相談すると、市役所の良い人に窓口であるなら、サービスにつなげる、つなげる方法、手順などだけでも説明し、そう思われないような対応をして欲しいと願います。
- 市役所の福祉課の対応として、そもそも事務的かつ冷淡な対応をされる事が多いです。ただの担当者ですし多忙な事は理解しますが、障害者に本質的に寄り添う姿勢が欠落していると思います。現行制度の不具合や対象者の困り事を、規則だから無理、と言う様な向き合わない姿勢は非常に残念です。またその姿勢は、障害者の本質的に自立やサポートのための行動や行為に感じられません。担当者は多忙だし、そもそも役務の範囲外なのかな？まあ残念です。
- 自分の困っている事を話して、支援サービスにつなげてくれる相談員がいてくれたらうれしい。一度グループホームについてききに行ったが、結局、どれも自分にはハードルが高くて(探したり、手続をしたり)できないと思った。家族にたまってないか?と言われて、相談する気力もなえた。重度でないと使えるサービスも、助けてくれる制度もないのだと失望し、今だに、自宅から出ることができず、モラハラパワハラを受けながら、通院している。気や体力の無い人が家を探したり、様々な手続きでするのは難しい、相談できる人、サポートしてくれる人がいるとありがたいです。(両親は、無理解無関心でサポートは望めない状況です、家族がいれば、自宅があるなら大丈夫とう家族関係ばかりではないので)
- 手帳は申請したものの、どんな場面で使えるのかそして、受けられるサービスがわからないので、イマイチ使いこなせていません。市の便利帳のような、「しおり」があつたらいいと思うし、私は40代なのですが、私のライフスタイルだと、どんなサービスを受けられるのか、今一度でも良いので、30分でも15分でも、詳しい方との相談など出向くカタチでも構いませんので、対面希望の時間があるとより良く暮らせるのか、と感じます。特に、税について、控除、免除等のことを教えて頂けると大変助かります。

- 障害に気づくまでにとても時間がかかります。その後障害を受け入れるまでにとても時間がかかります。この時点ですでに大きく成長してしまう人も少なくないと思います。せめてこの後、どのような支援を受けながら生活できるのか、支援施設の見つけ方、探し方については簡単に負担なく、スムーズに行えるようぜひ整備してもらいたい。支える家族も疲弊しています。そのフォローも必ず行える人材確保をお願いします。
- 精神障害の支援がもっと沢山有ると良い。精神障害の専門の人などと話せる機会があると良い。家族会など有ったらもっと分かる形で知りたい。わたしは親がいるから手続きとかこういう紙をもらったとき、説明してくれる人がいて理解できる。もっと簡単になってほしい、むずかしい。親が説明してこういうのも費用かかるけど、一人だとなにもできないしわからない、支援員のこともわからない親が死んだらわたしも死ぬしかない、それとわたしが悪いが漢字がむずかしい、
- 窓口がパーテーションとマスクで、話が伝わりにくく、大声が話さないといけなくて、個人情報周りや後ろの待ち合い席に聞こえてしまってるか心配でした。困っているわけじゃなく個室でもないのととても嫌な気持ちになりました。あとは色々な役害があると思います。いつ引き継ぎや連携が取れていなくて何度も同じ事を話さないといけないのが疲れてしまいます。
- 富士見市役所の障がい福祉課でしか、手帳や自立支援更新が出来ないのがとても不便です。出張所などでもできるようにしてほしいです。

### (3) 安心して暮らせるまちづくりについて

- 市役所管内が狭くて車いす移動が非常に不便。2F などすれちがいさえできない。どうにかしてほしい。
- 市内に数ヶ所車椅子での通行ができなくなる場所やあったり、ガードレールや歩道ポールの為、車道を通らざるえない場所もあります。又、歩いている人はわからない少しの段差もたくさんあり、大変です。公共施設の障害者用駐車スペースが少ないです。
- バスの少なさ。そのため、家族がつれていくことがふえる。ガードレールも少なく。ADHD(注意)の為何度もとびだし事故にあいそうになったり、事故にあったりと不安です。学校、保育園、幼稚園の近くにはほしいと思います。病気とわかってからも、その前をとつぜん飛び出すため、小学校低学年までは日々不安でした。
- 市内循環バスの本数が少ない。
- 循環バスの本数が減らされて困っている。どの時間帯にも最低1便は運行してほしい。
- 針ヶ谷、関沢方面に循環バス走らせて下さい。今、走ってるバスも本数を増して下さい。
- ハード面の整備がものすごくおこなわれている。福祉課というより市全体としての道路だけしか整備されておらず、道路は・・・市役所からつるせ、後手に回っている感がある。何に対しても、対応が遅く、遅れている市だと思う。
- 道の整備したほうがいい。
- 難病は、見た目普通でわかりにくい人が多くいると思います。ヘルプマークは、ありがたいと思っています。まだまだ、世間で知ってもらっていないカテゴリーですし、理解してもらおうのもまた、時間がかかると思います。道路の整備をして欲しいです。かん水、かん没、もヒドいですし、狭い歩道をチャリをとばして走っていたり、とっさによけられないので怖いです。
- 災害がおきた時、家が壊れてしまうかも知れません。そういう非常時に一人だと不安なので男手で相談に乗ってもらったり力を借して頂きたいです。

### (4) 保健・医療サービスの充実について

- ストマに関して、給付券を受け、利用しているが、2月に利用者になったため、装具や、補助品の高騰で、以前より、自己負担が増えている。また、利用券の利用日指定内では、足がでる場合が多く買い控えをしないといけない事がある。申請と同様に、半年間で融通が利く様な運用を可能にしてほしい。
- 現在において医療費や重度障害給付金などは所得制限が設けられているが、重い障害を持っているながらも対象外になって全く助成や給付金を受けられないのはさすがにきつと感じる節がある。そのため所得制限を引き上げるか、または所得制限による助成給付金対象外となった人に限った手当金の新設など救済があるとさらに良くなると思います。(他市への差別化にもなります)
- 私は子どもの頃、病気になり難病の医療費助成を受けていますが、一生治らない同じ状態が永続し、薬で死ぬまでコントロールしていかなければならない病気なので、毎年の更新申請手続きがとても辛いです。例えば医師が永続する病気だと診断書を書いた患者は5年に1回の手続きとかになれば少しは気持ちが救われます。
- 私見ですが全体的に満足はしております。ただし、重度心身障害者医療費助成制度の収入限度額を撤廃して収入に関係なく助成していただくと救われます。
- 市外に通院している為、大規模災害が起きた場合の薬の確保の不安をいつもかかえています。ストレスに特に弱い病気の為、安心できるサポートをしていただきたいです。早急をお願いします。
- 私は、長年健康増進センターへ来る車でマンモグラフィの検査をしていたのですが、昨年車の検査の先生に手術した背骨に不具合が生じるから検査できないと言われ、その時は無理を言って検査してもらいましたが他でどこで検査してもらえば分からず、増進センターへ12回、電話して分かりました。障害者には最初から、書面で選択できるようにして欲しかった。
- 障害者年金への手続きがもっとスムーズに出来れば良いと思う。
- 生まれつきの障がいなのに、なぜ何度も障がい年金の申請しなければいけないのか、もっと簡単に申請できるようにしてほしい。病院もどこに行っても診断書をもらえば申請の仕方を、教えてくれる機関があればいいなど、教えてくれる機関が必要です!
- 病院の受入れサービスを改定してほしい。
- 不登校などにならない為もあり、病院に通院しているのに放課後の時間、休日に担当医が不足していて、学校を休んで受診しなければなりません。毎日のリズムが崩れるので、休まず受診する事がとても大変です。

#### (5) 福祉サービスの充実について

- 行動援護サービスがもっと使える。グループホームの拡充を望み、取れない事があるので、事業所や人員確保、収容のショートステイを増やして下さい。
- 自宅で過ごすのが難しくなった時、パニック・自傷・他害行為がある為、民間経営のグループホームを考えているのですが、我が子にはグループホームでは受け入れてもらうのが厳しいと思っています。なので「グループホームなないろハピネス」のように障害が重かったり、強度行動障害があっても安心して暮らせるようなグループホームが出来てくれたらいいなと思います。サービスを受けさせてもらってるんだから当然だ!!と思いつつも年度始めの更新手続きは、変更がある時とか何年かごととかになつたりしないかなと思ったりもします。
- 大人の、就労後のディサービスをやってほしい、又は、移動支援の時間を、増やしてほしいし、使える範囲を広げて、通勤にも使える、支援がしてほしい。いつもお世話になっています。ありがとうございます。
- 18才以上の放デイのようなサービスをぜひつくってほしいです

○①行動援護サービスを利用しているが、提供している事業所の選択の余地がなく、前もってわかっている予定なら入れてもらえるが、急に用事ができた時などは結局家族で調整しないと難しい。市として行動援護従事者の育成に全力で取り組んでもらいたい。②夜間や長時間の外出等でオムツを使用しているが、オムツ代の支給をしてほしい。③区分6、療育手帳所持がグループホームに入所しようと思っても、実際受け入れてくれるホームはない。(現実に断われた)民間業者でも悪徳業者が多く、安心して預けられるところがない。重度障害者の住まいの問題は緊急の課題である。家族が共倒れしてしまう前に1日でも早く取り組んでほしい。④障がい福祉課の職員の中で、研修等をしっかり行なって家族、支援者に寄りそう姿勢で勤務に励んでほしい。職員の中でもサービスの知識に詳しい人とそうでない人、気持ちに寄りそうことなく事務的に仕事をする人もいる。障がい福祉課の職員として適任な人選を行なってほしい。

○ショートステイに行ける場所がたくさんあるといいと思う。親がいなくなったあとの安心してくらしに行ける場所がたくさんあればいいと思う、グループホームや入所施設など。

○どんなに障害が重くても富士見市の障害施設に入所できるといいなと思います。

○これまで就労移行支援を利用したことがあるが、仕事を続けることが難しく、退職して現在は家で休んでいます。私のように就労に関するサポートが必要な人へのサービスを充足させてほしいと考えています。

○学生では、放課後デイサービスを利用できていますが、就労する時期がきて、日中、労働後の、預かりサービスの場所に預けられると良いのですが、これから進められることを願っています。

○重度の障害で両手足が不自由でも、介護保険制度のしほりを受けて、助けてもらえる支援サービスが減少。何でも自分でやらなくてはいけない生活環境になってしまいヘルパーは、週1回家事援助の調理だけで、食材をカットして頂くだけのサービスしかうけられなくなり、もっと病状を考えると、手厚いサービスがあったらいいと思っています。握力もなく、ペットボトルをあけるだけでもひと苦労なのに、家族を支えていく母親としては、サービスが満足して受けられなくなってしまっているので、とても残念だし、不自由な人にしかわからない、わかってももらえないストレスがあります。弱者にやさしい富士見市にしてほしいです。

## (6) 障がい児支援の充実について

○県が決める事ですが、収入によって、手当がもらえないのが、残念です。障害者放課後デイサービスを探しているから、人数が定員いっぱいになっている。放課後デイサービスの送迎を市のバス等で送迎できるサービスがあるといいと思います。

○みずほ学園と公立保育所と児童発達支援を利用しています。どちらも親身になって支援下さり大変感謝しています。ただし親がひとりしか動けずきょうだい児に負担をかけています。(サービス)が兄弟にも支援がいき届く(例えば親が同伴しなくても利用であると有り難いです。また、働きながらの療育通いは限界があり、この先小学校進学にも不安が残ります。専門にひとりついて下さったら大変有難いです。まわりのお子さんにも先生方が大変ご苦労されていますが、子どもが個々に成長して、加配もできれば子どもひとりにつきひとりつけて欲しいです。負担をわけてしまっているのではないかと申し訳なく思います。療育手帳の取得の管轄が見相なのは分かるのですがもう少し近くであるとありがたいです。障がいのある子どもを遊べて兄弟を楽しめる施設があると嬉しいです。

○受給者証を取得する時、どこにも(保育園・幼稚園)受け入れしてもらえず、親の精神的にも限界でした。そんな中、支援員を間に入れると取得するまで時間がかかると言われ、最初はセルフプランにしましたが、預け先は自分で調べて、自分で見つけるのが大変でした。セルフプランだとして

も、もう少し手伝って欲しかったです。(市役所のホームページ一覧があることや、子供の特性と合いそうな学校・学校の手催)などは相談したかったです。取得する時、ネットには情報があると言え、右も左も全く分からないし、とても不安なのです。

- 現在共働きのため経済的に安定していますが。以前から何度も訴えています。重度知的障害(子供)のオムツの負担軽減、オムツの負担が大きいです。そして、現在は学校と、放デイを使用し、共働きの可能ですが卒業後作業所等へ通うことになると今まで通り仕事ができなくなります。家を出る時間もおそくなり、帰りは早く帰宅になるため仕事をしている介護者(親)はどのようにしているのか、考えてしまいます。情報も少ないため、どのようなサービスを使って、今までの生活を維持していけばよいか知りたい。
- グレーゾーンの子だったり、知的障害のない、わからない自分の子供がどれくらい支援が受けられるかが子供の親は色々悩み事も多々あり、将来がとても不安です。もっと近くに支援する事業所がいっぱいあっても時期が遅れて入れない人もその子達の支援する場所、相談などふやして頂きたいです。
- 学校に行きたくない(不登校)場合の支援が中途半端だと思う。学習支援センターがふじみ野に移転して不便になった。学習したいと思っている子は、支援センターに行けるかもしれないけど、学習もしたくない、やる気にもなれない、友達もいない場合、居場所はどこにあるのですか？
- 共働きの親が働き続けられるよう支援を充実してほしい。支援学校のバス停への送迎も、福祉サービス事業者では空きが少なく、毎日は利用できず、ファミサポは小学生の間のみと言われる。福祉サービスでまかなえないのであれば、ファミサポ事業と連携する等して、障害児は支援学校在学中はファミサポを利用できるようにする等、かけあってほしいです。健常児とは違い、特別な対応がないと仕事を続けられないので、柔軟な対応をしてほしいです。
- 児童発達支援サービスは保育園と違って利用時間が短く、その日は仕事ができない。もう少し仕事ができるくらいの時間預かってほしい。
- 放課後デイサービスが少ないと思います。共働きの障害児を高学年になっても自宅へ下校させることはできません。学童を放デイを利用しても、施設が少なく毎日は通えず、時間も短めです。経済的にも厳しい。市外の放デイが充実していても、市外で利用できない放デイを増やしたり、市外への利用提供ができるといいと思います。
- 放課後デイサービスを利用させていただいており、大変助かっています。施設ごとに利用できる児童の規定が厳しくなり、安全に対する配慮に感謝する一方で、空き枠が少なくなり利用したい日数利用できない状態にあります。相談支援員に相談し、サービスを紹介していただいたりしていますが、親が「どのような施設やサービスがあるか、空きはあるのか」など自分で調べることができるwebサービスなどがあると便利に感じます。また、次年度より通常級の予定のため、支援級のような市内での交流、行事への参加などを学校で体験することができません。通常級の児童も参加できるような特性のある子供たち向けの行事などがあると嬉しく思います。

#### (7) 社会参加支援の充実について

- いろいろなグループホームがたくさんあれば良い。日中の活動が楽しくできる通所施設があれば良いと思う。
- ふらぽーと富士見の野外ステージやフリススペースで各地のおもてなし武将隊の演舞が見たい。難波田城におもてなし武将隊を作してほしい。
- 各障がい者に、キャッシュレスで生活検討をしてほしい。肢体不自由から精神までの各障がい上の補助を与えるという事を、県から補助金が出るとしても、それは何%ですか？例えば、肢体不自由

者が車を修理する、又は、新調する時、車は主に知的障がい者に向けたもの、と言うのなら、いたしかたない。しかし、この支援策は、主に肢体不自由者に向けたもの、その支援者に、一律の効果を投ずる支援策など、まず無い。

○私は精神疾患があり、長い事働いていません働きたい気持ちはあるものの、客観的に見ると疾患があるように見えないという点で少し苦労しています。「自分に何が出来るのか」「具体的に何から始めればいいのか」初歩的なところから進めずにいるので、もう少し気軽に社会との関わりが持てたらいいなと思います。

○私は難病ですが、社会との関わりが持てたらいいなと思います。

○私は昨年9月の大学卒業後、富士見市障害者施策推進協議会の委員として、社会福祉協議会の「あいサポート」当事者メッセンジャーとして活動してまいりました。現在も市内で障害福祉の普及啓発に関わっておりますが、まだ定職には就けていない状況です。私は富士見市で生まれ育ち、大学在学中の事故により生死をさまよう経験をしましたが、その後も安心して生活をする事ができたのは、富士見市の支えがあったからこそだと感じております。その恩返しとして、今度は私が市の一員として福祉に貢献したいと強く願っています。つきましては、富士見市において会計後、任用職員の障害者雇用枠をご検討いただけないでしょうか。当事者としての経験を活かし、市の福祉施策に真摯に携わりたいと考えております。何卒、ご検討のほどよろしくお願いいたします。

○自閉スペクトラムを持っているが、将来普通の大人になれるように努力させなければならないと思っている。障がいを持っていても普通に苦労しないような富士見市に少しでも近づければと考えている。

○就販ができて、続けられている事に感謝です。ありがとうございます

○障害年金は助かっています。今後は作業所に行って、社会貢献のおてつだいをしたいと思います。

## (2) 関係団体

### 1. 貴団体について

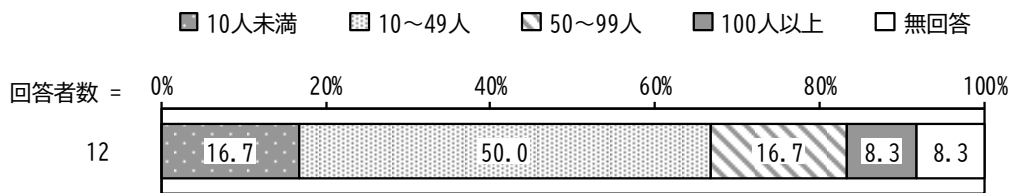
① 貴団体の活動内容について、可能な範囲でご記入ください。(実施している取り組みなどについての関連資料の添付でも結構です)

意見なし

② 構成員の状況（令和7年9月1日現在）

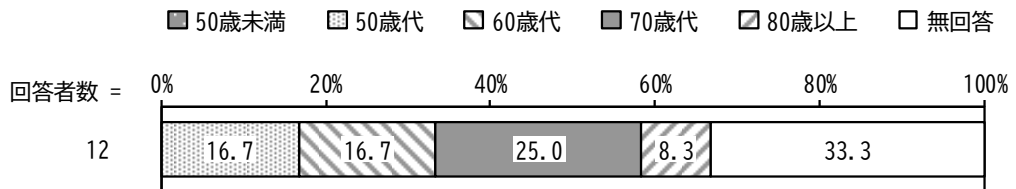
#### 構成員（人）

「10～49人」の割合が50.0%と最も高く、次いで「10人未満」、「50～99人」の割合が16.7%となっています。



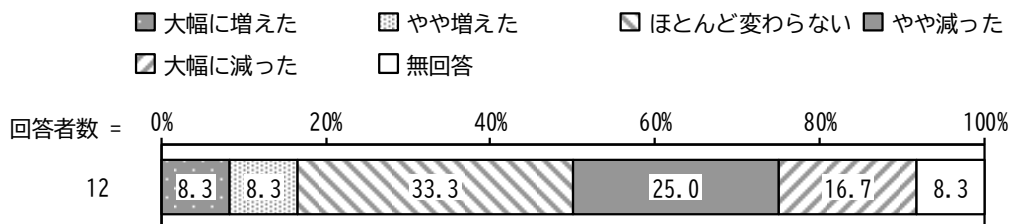
#### 構成員の平均年齢（歳）

「70歳代」の割合が25.0%と最も高く、次いで「50歳代」、「60歳代」の割合が16.7%となっています。



③ おおよそ3年前に比べ、構成員の人数に変化はありましたか。（あてはまるもの1つに○）

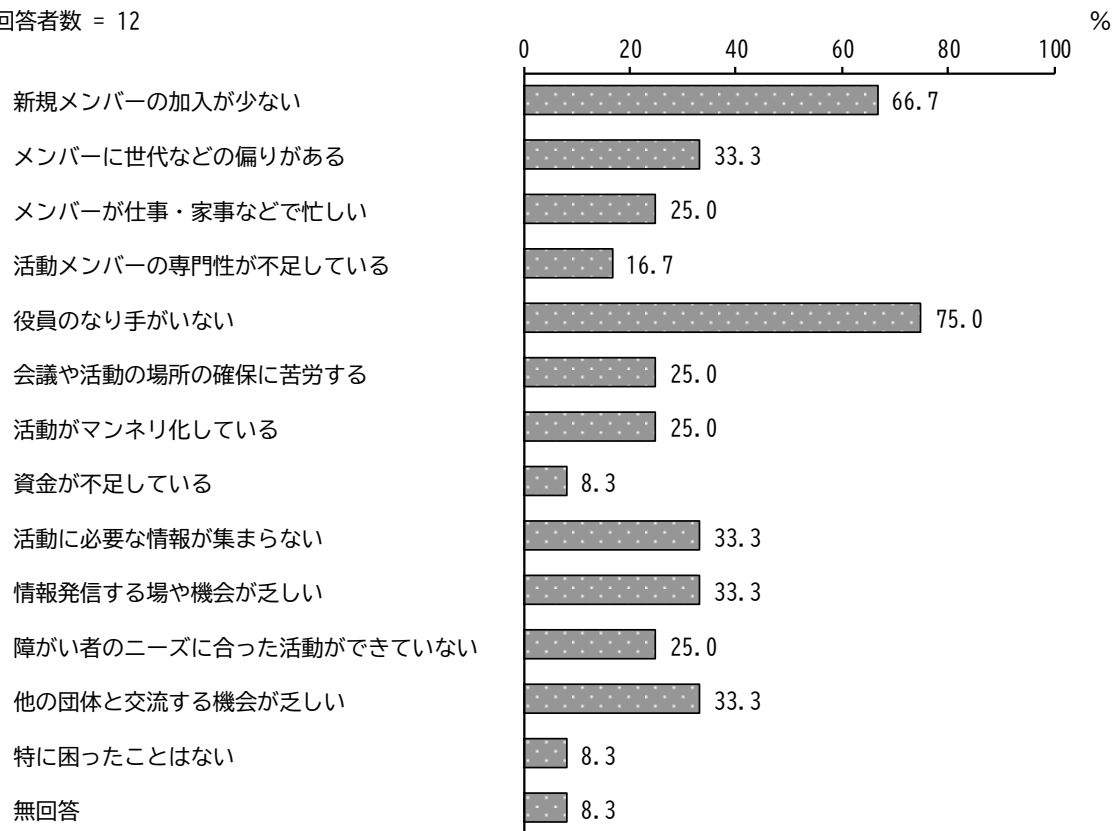
「大幅に増えた」「やや増えた」を合わせた“増えた”の割合が16.6%、「やや減った」「大幅に減った」を合わせた“減った”の割合が41.7%となっています。



#### ④ 現在の活動上の課題（あてはまるものすべてに○）

「役員のなり手がいない」の割合が75.0%と最も高く、次いで「新規メンバーの加入が少ない」の割合が66.7%、「メンバーに世代などの偏りがある」、「活動に必要な情報が集まらない」、「情報発信する場や機会が乏しい」、「他の団体と交流する機会が乏しい」の割合が33.3%となっています。

回答者数 = 12



#### 【その他】

- ・ 障害の程度が重度化した。ヘルパーの確保が難しい
- ・ 会員がもっと増えればいいと思う。会員の若返りを希望
- ・ 来年度より収入源の自動販売機が不許可になり、収入はゼロになる。ただし、コロナで活動停滞していたため、貯金があり数年は活動できる。活動が特定の会員のみで、負担が大きく、活動が難しい。福祉会存続息の喪失
- ・ 点字利用者の情報（氏名、住所など）が私たちのグループにはわからないので、活動の広がりが無い。
- ・ 高齢者が多く、メンバーになっているが、参加できなくなっている。役員のなり手がいないので、会を続けることが大変である。
- ・ 会員が高齢で退会したり、若い会員が仕事との両立が難しいために退会したり、会員数が減少している。利用者数も減少している。何とか利用者数を増やしたい。
- ・ 手話言語の理解を広める中、手話を教える講師が足りない。

⑤ 今後の活動で、市民や行政に知ってほしい取り組みなどがあれば自由にご記入ください。(地域との交流、他団体との連携についてなど)

- ・行政にもっと障がいの特性を学んでほしい。もっと現場を見てほしい。
- ・以前は他の会員が協力し合っていたことが、高齢者と役員不足で思うようにできません。これを補うためには、ボランティア団体と交流が必要と思いますができていないのが実情です。私自身は、すでに24年行っています。引退したいのが実情です。
- ・視覚障害の方が窓口にいらした際に、「きつつき」という点字のボランティアグループがあることを伝えてほしい。
- ・読書が困難になってきた方に、かたりべの活動を知っていただきたい。

## 2. 障がい者へのサービス提供について

- ① 市全体をみたときに、不足していると思われるサービスや支援はどのようなものでしょうか。
  - ・移動手段の不便さ（タクシーを利用したくてもなかなかつかまらない）
  - ・①タクシー券の不足。迎車料金がかかり、金銭的負担が大きい。②同行援護の時間の不足③スマホ本体への補助（日常生活用具の拡充）④操作方法の研修（教えてほしい）⑤公共のDX化に伴い、それに対応する職員の配置。⑥道路の路肩整備
  - ・障害者団体の運営支援サービス
  - ・公的機関だけでなく、一般の店での視覚情報提供や対応（コミュニケーションボード、筆談、身振りなど）
  - ・ガイドヘルパーが不足。情報を聞く機器は高額なものが多い。IT技術の進歩は素晴らしい。が使いこなすことは大変。市が主催して講習会を開催しては。
  
- ② 地域での福祉サービス基盤の整備、サービス利用の支援、サービスの質の向上に向けた要望やご意見を記入ください。
  - ・視覚障がいの施策等に関することにおいて、当会には情報が入ってこない。他視覚障がい者団体と同様に情報がほしい。
  - ・生活支援相談員の研修の充実（それぞれの障がい特性を正しく知ってほしい）
  - ・市のHPに手話リンクの導入があってもよいのではないか。
  
- ③ その他、障がい福祉サービスや地域生活支援事業に関して感じることをご記入ください。
  - ・サービスの利用については、世帯収入の算定ではなく、本人負担（本人収入）の算定にしてほしい。障がい者支援の事業所においては、ガイドヘルパーの確保に努めてほしい。
  - ・あいサポーター研修。広報の手話を楽しもうのコーナー 続けてほしい。
  - ・IT技術の進歩は素晴らしいが、ついていくのは大変です。利用者さんも高齢になり利用中止になる方が増えてきました。新しい利用者さんもなかなか増えず利用者さんが減ってきています。音訳の勉強をしても聞いてくれる利用者さんが少ないのが残念です。障がい福祉課・高齢者福祉課と連携して、困っている方に情報をお届けしたいと思っています。

## 3. 今後の障がい福祉施策に求めるものについて（自由記述）

障がい者を取り巻く現状や身近で感じている課題、富士見市に希望することなど、ご自由にお書きください。

※すべてに記入する必要はありません。特に気になることについてご記入ください。

- ① 市民意識の醸成（啓発活動等）
  - ・あいサポ研修に直接、当事者が参加し、話をすることがとても有効であり、理解促進には不可欠である。あいサポを通じて他の障がい者との交流もできる。
  - ・更なる共生社会の推進を図ってほしい。
  - ・精神障害は理解が難しいので、理解促進をお願いします。
  
- ② 福祉教育や交流活動の推進
  - ・現状で満足
  - ・幼い時からの直接的なふれあいや交流が大切。障がい者自らが出かけていくことが重要。
  - ・統合失調症は10代～20代ごろから発病するので、親など病気のことを早くから理解することが大切。
  - ・小学校での車いす体験やアイマスクの歩行体験などを行うことはとても有意義なことと思います。

### ③ 地域福祉活動の推進

- ・夏休みのボランティア体験などは、有意義の時間になる。

### ④ 権利擁護の推進及び地域共生社会の実現に向けた取り組み

- ・高齢になっても、障害福祉サービスを変わりなく使用できるといい（法律で決まっているというのはいわゆるわかるけど）
- ・本人が障がい受容ができていない面もあるが、障がい者にみられたくないという気持ちがある人が多くいる。その裏には差別を受けるのではないかという不安がある。
- ・差別の解消は難しい。ひとりひとりの意識を変えることが大変

### ⑤ 障がいの早期発見と早期療育

- ・直接子どもに関わる職員には、発達相談をしっかり学んでほしい。職員1人への負担が大きくならないよう、教職員、支援員等の充実を。
- ・どんな病気でも早期発見

### ⑥ 障がいに応じた療育の充実

- ・小さいころから積極的に関わっていくことが大事。

### ⑦ 特別支援教育等の充実

- ・以前より、充実している
- ・インクルーシブ教育をすすめるのであれば、体制の充実が必要
- ・インクルーシブ教育の充実。地域にはいろんな人がいて当たり前という意識を低年齢から持てるようになるとうい。
- ・特別支援教育とわけてしまうことが問題。障がい者と触れ合うことがなくしてしまったと感じている。インクルーシブ教育、どれだけ理解され、広まっているのでしょうかい。

### ⑧ 医療的ケアが必要な障がい児・者への支援

- ・ケアする側への支援も必要だと思う

### ⑨ 障がいのある人への就労の支援

- ・埼玉県（県庁）においては（富士見市ももし対象者がいたら）点字受験を認めてほしい。

### ⑩ スポーツ・文化芸術活動の支援

- ・障がい者も参加しやすい環境整備をしてほしい
- ・盲人卓球など、視覚障害者も参加できるスポーツを身近なところで行ってほしい。
- ・ボッチャ体験等は身近で気軽に参加でき、良いと思う。

### ⑪ 障がいの原因となる傷病の予防と治療

意見なし

⑫ 障がい福祉サービスの充実

- ・移動支援者の人数が少ない。そのため、希望の日に移動支援を頼めない。
- ・視覚障がいの特性を理解したヘルパーの充実と確保
- ・昼間の居場所がほしいです。グループホーム、精神障害者は入るところが少ない。

⑬ 生活の安定のための支援

- ・現金給付を希望
- ・在宅心身障害者手当の増額

⑭ 相談支援体制の充実

- ・相談をどこにしているのか、わかりにくい
- ・地区のケースワーカーが今年是谁なのか知りたい。以前は担当が変わるとあいさつに来てくれた。担当CWと話をしたい。
- ・公的機関の連携が図られるとよいと思う。
- ・困りごとがあったら「ここに行けば相談できる」窓口を作ってほしい。

⑮ 情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実

- ・インターネットを活用していない（できない。怖さ、難しさもある。）読み上げの保障がほしい。（手紙等を送るならTELで読み上げてほしい）
- ・点字の広報が欲しい（鶴ヶ島はある）
- ・最近普及している「手話リンク」を富士見市も導入してほしい。ICTの活用も導入しつつ、FAX等既存の対応も続けてほしい。

⑯ 福祉人材の確保

- ・点訳者を増やしてほしい。

⑰ 生活しやすいまちづくり

- ・代筆等があって便利になった。ケアマネが頑張ってくれている。市の職員も対応がよくなった。
- ・ピアザの盲導鈴の反応する範囲を広げてほしい。（今は正面に行かないとならない）。ふじみ野駅からふじみ野交流センターまで点字ブロックをつけてほしい。現状ではふじみ野小までしかない。鶴瀬西口交番にスロープが欲しい。
- ・市の事業とは無関係ですが、エスカレーターの2列乗りが気兼ねなくできるようになってほしい。

⑱ 防犯・防災対策

- ・固定電話がないと緊急通報システムが使えない。（最近、固定電話を持っていない人が多い）。見えの保障がないと自宅を出ることができない。
- ・精神障害者は大勢の人が集まるのは難しい。別に部屋があるといいと思います。

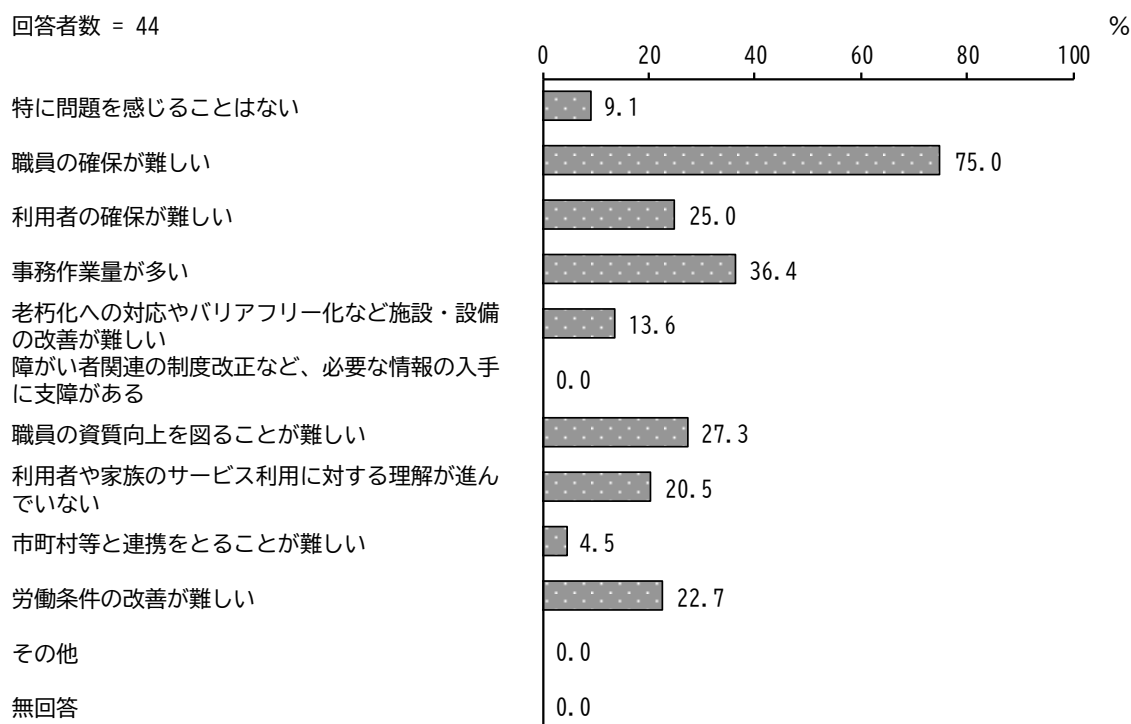
### (3) 事業所

#### 1 サービスの提供について

問1 円滑な事業運営を進めていく上で、問題を感じることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「職員の確保が難しい」の割合が75.0%と最も高く、次いで「事務作業量が多い」の割合が36.4%、「職員の資質向上を図ることが難しい」の割合が27.3%となっています。

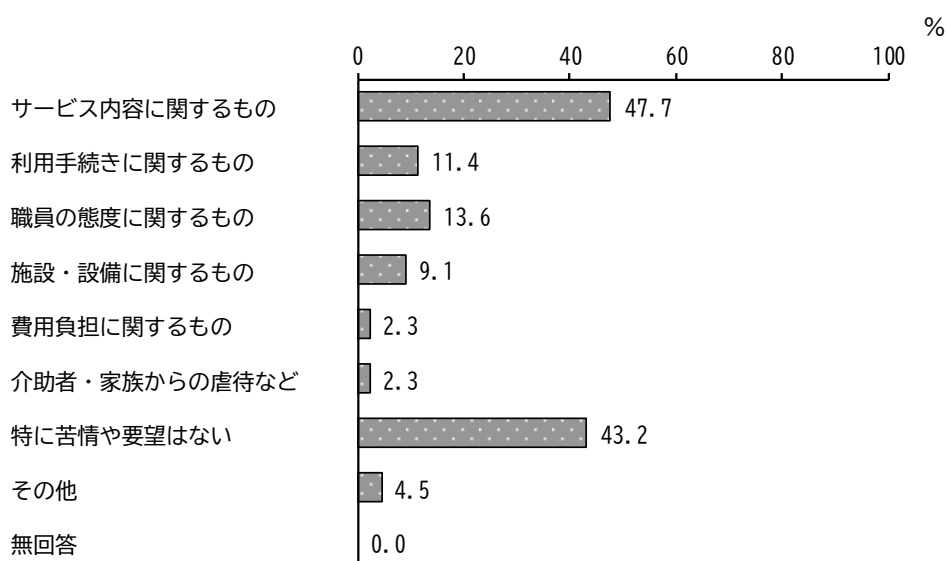
回答者数 = 44



問2 利用者や家族からあげられるサービス事業所への苦情・要望はどのようなものが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

「サービス内容に関するもの」の割合が47.7%と最も高く、次いで「職員の態度に関するもの」の割合が13.6%、「利用手続きに関するもの」の割合が11.4%となっています。

回答者数 = 44



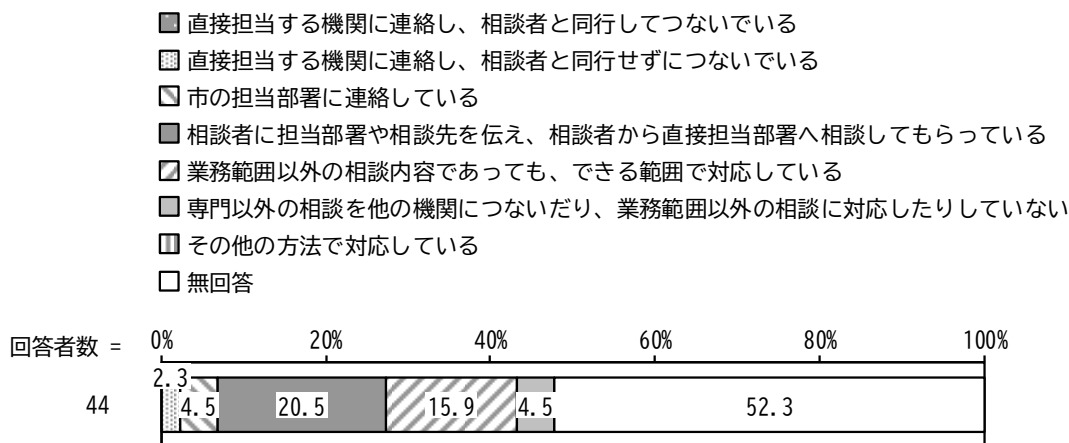
## 2 相談支援体制・連携状況について

### 問3 貴事業所への相談について、どのような内容が多いですか。

- ・同行援護に関する依頼
- ・重度障害者の支援体制について
- ・ご家族からの受け入れ可否について
- ・同居家族がいる世帯での共有部の掃除
- ・計画通りにサービス提供をすることへの不満（その日に急に欲しいことがあっても頼めないなど）
- ・苦情はそれほどありません。相談は通院や送迎が多い。1対1の原則なので、断らざるを得ない。
- ・送迎の有無について
- ・お子さんの発達について
- ・くらしの場に関すること
- ・サービスに関すること
- ・親亡きあとに関すること
- ・送迎時間の変更、臨時利用の追加ができるか。（早く迎えに来てほしい、遅く送ってほしい）
- ・連絡帳を記入して、日中の様子を詳しく教えてほしい。
- ・多いということではありませんが、通院は当事業所でやらないのかといった話が出ます。
- ・移動支援事業についての問い合わせがあります。月～金は施設を利用して、土日に移動支援で外出利用したい。土日の職員の確保が難しいため、お断りすることが多い。
- ・幼稚園・保育園の対応についての相談が多い。先生たちの対応の仕方への不満などが多数あるが、こちらからは児童の様子などを伺い、対応していくくらいしか現状できていません。
- ・子どもの発達、子育てについて
- ・親からの相談が多い。学校と家庭での困り事に関する相談。
- ・就労の分野だけでなく、生活面も含めた将来についての相談が増えてきました。
- ・ご家族様の高齢化により、書類の書き方がわからない。必要な書類が市役所から届いたかどうかわからない。
- ・お子様とのかかわり方について
- ・児発、放デイの利用の仕方について、手続きの流れなど
- ・入居者家族・保護者が動けなくなってからの心配、外出や衣類等の購入について、支援員への要求・希望、入居者以外の保護者・ゆいの里への入所希望相談。
- ・支援方法や活動内容の質問や職員資質、向上ができてきているのかなど。職員間の連携が取れているか。利用保護者からの質問がほとんどです。
- ・家族の仕事等の都合や介護負担軽減のため、短時間でも預かってほしい。
- ・高等部卒業後、放デイを利用していた時間帯に預かってほしい。
- ・同行支援をご希望で、ご利用者様本人から電話が入ることがある。（新規）
- ・障害が重い方が事業所を使えない。
- ・新規事業の相談や利用日数の調整
- ・卒業後の預け先

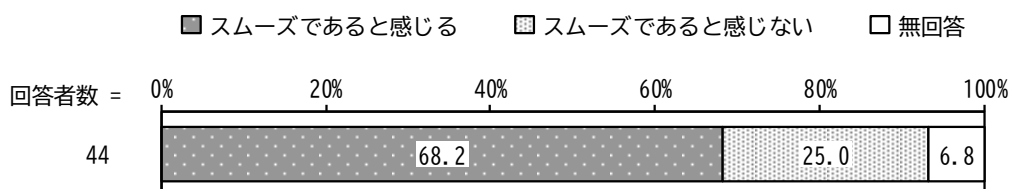
問4 専門分野以外の相談に対する対応について、貴事業所ではどのように対応していますか。

「相談者に担当部署や相談先を伝え、相談者から直接担当部署へ相談してもらっている」の割合が20.5%と最も高く、次いで「業務範囲以外の相談内容であっても、できる範囲で対応している」の割合が15.9%となっています。



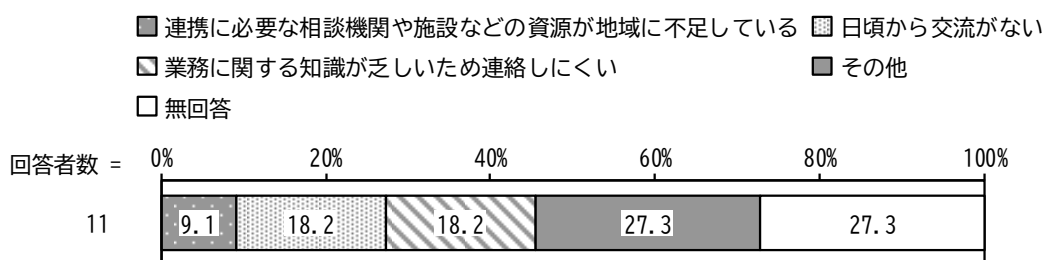
問5 他の相談機関・施設への連携はスムーズに行われていますか。

「スムーズであると感じる」の割合が68.2%、「スムーズであると感じない」の割合が25.0%となっています。



問6 問5で「スムーズであると感じない」と回答した方におたずねします。そう感じない理由はどのようなものですか。

「連携に必要な相談機関や施設などの資源が地域に不足している」の割合が9.1%、「日頃から交流がない」、「業務に関する知識が乏しいため連絡しにくい」の割合が18.2%となっています。



問7 貴事業所において、複数分野の課題を抱えるケースについて対応した経験があればご記入ください。

- ・透析患者に対する医療連携や介護保険無受給者（高齢者）に対する同行援護の調整を行ったが、本来は介護保険が優先されると思うが、障がいの方で全面的な支援になってしまっている。
- ・頸椎損傷における四肢麻痺の利用者。入浴介助と緊急時の対応を担う上で、訪問看護との連携をしっかりと行って、自宅から独り暮らしへと移行し、自立へと前進できた。
- ・外国人と障がい
- ・家庭問題と障がい
- ・家庭環境に課題がある方への支援
- ・就労分野以外では、保護者の高齢化による影響を考慮し、利用者の就労以外の生活全体を再構築するために関係機関と協議するケースがありました。また、そういったケースが少しずつ増えてきている印象です。
- ・難病のため、障害福祉と介護保険との併用にてサービスを利用し、旦那様からネグレクトにより離婚し生活保護を受けて入居に至ったが、入居後も元旦那様とのトラブル（苦情・金銭問題）が絶えなかった。
- ・利用者が入院し手術するなどの判断が保護者と施設と医師で違う場面や、高齢者の利用者の今後が高齢者施設か知的障がい者の入所施設か医師・施設・家族・本人で意見に相違がある場面。
- ・後見人の相談や通院、入院調整や退院支援など。

### 3 市の障がい福祉施策について

問8 市全体をみたときに、不足していると思われるサービスや支援はどのようなものでしょうか。また、それらのサービスや支援が足りていない原因は何だと思われますか。

- ・ 居宅介護（家事援助、通院同行）（ヘルパー不足）
- ・ ヘルパー不足（人手不足、サービスが行き届いていない。使いたいのに使えない）
- ・ 重度訪問に該当しない居宅介護における寝たきりの利用者の夜間から深夜の支援やサービス（富士見市周辺にて、夜間、深夜帯に稼働している訪問介護事業所がほぼ無い。）
- ・ 朝の送迎サービス（相乗りできない。1対1、車が足りない）
- ・ 通院同行（時間が読めないので受けられない。）
- ・ 連携のための会（ZOOM等オンラインでの情報交換の場）
- ・ 最重度知的障害者が暮らせるくらしの場（グループホームは退去を迫られた等の入居できない話はよく聞きます。市内の各GHにどれだけ最重度知的障害者が入居しているか調査してほしい。）
- ・ 行動援護等の在宅支援サービス（利用したけど提供できる事業所がないと、複数の人から聞きました。）
- ・ 言葉の遅れ、コミュニケーションの難しさ。集団活動の苦手さ。就学先について
- ・ 相談支援事業（包括的なサービスの連携が必要と感じます。）
- ・ 同行援護の事業所（市外の事業所に入っている）
- ・ 相談支援事業（相談支援員さんが児童の割合に対し、かなり少ないように感じています。）
- ・ 発達に課題のある子ども保育園のように長時間預かってもらえるサービス（発達に課題のある子を長時間受入れるためには人材が必要だが、人材は不足している。）
- ・ 移動支援、ヘルパー、相談支援、日中一時（相談があっても受け入れ先が見つからない。作業所終了後の障害者の方の支援、知的が重い方の受け入れ先）
- ・ 不足しているとは感じていません。（強いて言えば、移動支援サービスがもっと増えていくと、就労の機会を得られる可能性も増えるのではと感じます。）
- ・ 移動支援（移動支援の事業所が少ない。）
- ・ 相談支援事業所（施設利用希望者さんが、なかなか受給者証をつくれず、施設を利用できない）
- ・ 入所施設で利用できるサービス（家族が高齢になり帰省・外出が困難な利用者の楽しみを増やしていきたいため）
- ・ 計画相談支援事業所、週末に使える福祉サービス（10年以上前から課題で行政に訴えはしているが全く解決ができていない。）
- ・ 行動援護等の個別支援（慢性的な人で（ヘルパー）不足、研修費の負担が大きい。）
- ・ 大人の方の日中一時支援（報酬が安価で不採算事業（場所、人員等））
- ・ 大人の日中一時、移動援護対応の事業所、朝のヘルパー（場所やサービスがない。人件費と単価のバランス、人材の確保）
- ・ 相談支援事業所、就労支援員（必要だと感じている利用者に相談支援専門員をつけたくても、空きがないといわれてしまう。相談支援専門員の人数が足りていないのは報酬や待遇面、一人で抱える人数の多さ等以前から言われているが、改善等はできていない。就労支援員はもっと手厚く支援できないだろうか。）

問9 福祉サービス基盤の整備、サービス利用の支援、サービスの質の向上に向けたご要望、ご意見がございましたら、ご記入ください。

- ・相談の依頼があっても、居宅介護サービスのヘルパーが不足しており、サービスにつなげられないことが多い。
- ・家族同居の場合、65歳未満の利用者には、介護保険におけるデイサービスのよう、家族へのレスパイトにつながるサービスが圧倒的に少なく、家族のストレス増につながっている。
- ・情報交換の場の設定を多く行うと、課題や今後の方向性が明確になるのではと思う。
- ・重層的支援体制の強化（委託ではなく行政として行ってほしい）
- ・市独自（地域の実情にあわせた）の人材確保施策。人材の確保はサービスの質の向上につながります。
- ・福祉事務所向けの事業所研修会（交流会、勉強会）を定期的に企画していただくと、事業所同士のつながりができると思う。
- ・事業所間（他法人、他社）での情報旧友を函ることが支援の質の向上につながると感じています。
- ・サービス利用の支援が必要だと思います。利用者が障害福祉サービスの情報や内容が理解できていない。同行援護では、担当者により支給量に差があり、声の大きい利用者にはたくさん支給されているように感じます。必要な方に必要な支給をお願いします。
- ・1児童に対し、必ず1相談員の方がついてくださると、保護者の事務手続きや困り事の的確なアドバイスや単独で動き（保護者）、幼稚園などと話がこじれることがないと思われます。
- ・保護者の高齢化に伴う本人を取り巻く環境が変化している方が増えています。現状を把握するということで、障害を持った方の保護者が高齢化している割合をデータとしてみれるものがあるとよいと感じました。
- ・児発、放デイを利用したい人のために、スムーズに受給者証を発行してほしい。日数を増やしたり、継続の手続きに時間がかかっているため、事業所の利用が遅くなる。
- ・人手不足から支援・サービスの質の向上などの研修になかなか職員を送り出せないため、行政から強制力のある研修があると参加しやすい。
- ・福祉とどの分野にも言えることだが、人員が絶望的に不足している。いまは老人福祉や保育士、看護師に国が人員不足に危機感を抱いているが、障がい分野も同等だと思う。
- ・処遇改善ではなく、基本報酬の単位アップでなければ、安定した事業運営は難しい。また、制度のみに頼らず、行政が対応策を打たないと、近い未来、行動援護ヘルパー及び事業所はなくなってしまうと危機感があります。
- ・預かり場所の提供や補助
- ・相談できるところが増えてほしい。もっと周知をしてほしい。保護者からどこに相談していいのかわからない。将来が不安との声が多い。
- ・市の主導での福祉サービス事業所会議や勉強会等を開催。

## 4 今後の障がい福祉施策に求めるものについて

問 10 障がい児者を取り巻く現状や身近で感じている課題、富士見市に希望することなど、ご自由にお書きください。  
※すべてに記入する必要はありません。特に気になることについてご記入ください。

### ① 市民意識の醸成（啓発活動等）

- ・ イベント等に積極的に参加しておりますが、理解にはつながっていない。
- ・ 障害者に対してのふれあい、地域交流の場を積極的に促進してほしい。
- ・ 改めて啓発することで、新たな差別を生むことになりかねないと思う。駅、公共交通機関、歩道など外出先でも安心して利用できるインフラの整備こそが重要だと考える。
- ・ 市民の知的障害者への理解促進は力を入れてほしい。
- ・ 市民フォーラムをもっと増やしてほしい。障がいの方の理解を深める場づくりをしてほしい。
- ・ あいサポートの講習会には、何度か参加させていただきましたが、このような活動がもっと増えると、みなさんがより身近に感じていただけたと思います。
- ・ 見た目では障がいがあるのかわかりづらい方への理解はまだまだかと思っています。
- ・ ネット社会になり、障がい理解や情報を得る手段はよくなっている。しかし、人（障がい児者）と人のコミュニケーションは減っているように思います。
- ・ あいサポート等の活動を学校関係に広げたり、もう少し市民の目に触れるよう工夫したりできるとよいと思います。

### ② 福祉教育や交流活動の推進

- ・ 幼少期の障害教育については、その保護者及び教育者の理解とスタンスが重要だと考える。
- ・ 幼児期における障がいへの理解は成人期の就労につながるため、人材確保の面からも強化してほしい。
- ・ 交流を望む保護者の偏りも、グレーゾーンのお子さんを持つ保護者は他人に今の現状を知られたくないというお話がよく出ます。
- ・ 保育園や学校で少しでも課題のある子は、集団からはじかれてしまうように感じる。
- ・ 障がい児者を持つ家族様へのサポートや障がい児と一緒に過ごす仲間（クラスメイトなど）に対しての障がいへの理解促進や学びの機会は定期的に必要だと感じます。
- ・ 発達障害児者のケアについて、幼少期から療育等の充実がさらに深まるといいと思います。就労支援を利用される方の中には、SSTが足りない、あるいは欠如していると感じる方が増えている印象です。
- ・ 障がいを持つ保護者で父親に対しての交流やふれあいが圧倒的に不足している。父子（障がい）家庭の場合だと全くサポートがないと感じる。
- ・ あいサポート等の活動を学校関係に広げたり、もう少し市民の目に触れるよう工夫したりできるとよいと思います。
- ・ 小中高校生に対する障害者に対する理解や知識を持ってもらうために（福祉人材にもつながる）事業所見学や学校に出向いての講義説明等を行っていく。
- ・ 長期休み等での事業所でのボランティア活動

### ③ 地域福祉活動の推進

- ・身体障がいへのボランティア等は進んでいくとは思いますが、精神障がいへの理解、支えあいも課題だと感じる。
- ・登録されているボランティアグループ一覧のようなものがあれば、施設にわかりやすい形で提示（郵送やホームページ掲載）されれば、ボランティアの導入がしやすいと思います。市でボランティアについて意見交換の場があればいいと思う。
- ・地域と障害者が交流することが課題だと考えます。情報があれば積極的に活用したいと考えます。
- ・地域での助け合いは必要だと思うが、今はそれぞれの価値観が多様化しており、「よかれ」ということも、悪いように受け取られてしまうこともあり、結局は何もできなくなってしまう。
- ・ボランティア活動を通じて、障がいがある方と知っていただく、理解を深めることにもつながると感じている。
- ・きっと市内にあると思うが、計画相談という仕事をしていながら、そのような地域福祉活動を把握していないため、情報発信や啓発などが少ないと思われる。
- ・市と社協の取組は評価できる。富士見市の社協は地域に活動が広がっていると思います。
- ・市民人材バンクを利用して、地域のボランティアに来ていただいている。

### ④ 権利擁護の推進及び地域共生社会の実現に向けた取り組み

- ・成年後見制度については、高齢の保護者の理解が進んでおらず、促しを行っているが、なかなか進んでいない。
- ・介護保険との連携も障がい理解の部分で移行や引継ぎが難しい（年齢等）
- ・介護保険においては、地域包括との連携をしながらになりますが、1、2号被保険者に関わらず、相談支援センターと地域包括などの連携が可能なのを知りたい。
- ・親亡きあとは喫緊の課題です。成年後見制度はその課題を解消するひとつの方策ですが、後見人の報酬については市独自の補助金があってもいいのではと思います。
- ・成年後見制度はわかりづらいので、よりわかりやすくなるといいと感じる。障がい福祉サービスから介護保険に切り替わるときに、ご本人にも支援側にもわかりやすいスムーズに対応できる仕組みづくりが必要かと感じます。
- ・虐待防止等の研修が必須である今、富士見市ならではの障害福祉分野での研修ツールがあるとより積極的に活用してみたいです。
- ・障がいサービスを介護保険と併用は今後も厳しいと思われる。65歳になった障がい者は介護保険切り替えが望ましいと思います。入所施設など65歳の方を移動することにより、空きができた在宅困難な施設待ちケースの方を入所させることができる。
- ・65歳になったからといって介護保険に切り替えるのではなく、ご本人の意向や障害特性を踏まえて、必要なサービスが十分に利用できるようにしてほしいと思います。
- ・何が差別で、何が虐待なのか等は、福祉の仕事をしていないと理解しにくい部分だと思われる。共生社会を目指すのであれば、小中高での講演等を行っていくべきではないか。

## ⑤ 障がいの早期発見と早期療育

- ・児童相談所以外での判定や申請の簡素化も必要だと感じる。
- ・三芳町は早期療育が進んでいて、勉強会等開催されている。富士見市では、勉強会等やっているかもしれませんが、事業所までのお知らせがこないため、参加できていない。
- ・発達検査待ち（半年以上など）は課題に感じる。新しく発達外来を受けてくれる病院を探すのが大変という声も多数聞く。
- ・療育に関しては、それなりに成果は出ていると思われる。その結果、強度行動障害や昼夜逆転している障害児童が減っている。

## ⑥ 障がいに応じた療育の充実

- ・現在、共働き世帯が大多数を占めている中、更なる事業所が増えることが望まれている。
- ・一時預かりを2年間やっていました。その時、みずほ学園の方が乗り込んできて、施設内のチェック等をして帰っていきました。その後、利用者にやめた方がいいようなことを言いふらされたので、やめました。いろいろなところのご理解やご協力がないと続けられません。
- ・療育が必要な児童と保護者に、ブースごとに分かれて、説明できる機会があるとよいと思います。
- ・SSTを今後も継続して必要とする利用者がいます。幼少期のケア、療育の充実がより深まればよいと感じました。
- ・お子様に合った療育を提供していくことが望ましい。そのために、保護者に利用者と施設をマッチングしてくれるような相談を充実してほしい。
- ・利用料4600円は負担が軽いと思われる。利用の必要性がない児童が負担金少なく、土日があり送迎を実施している放デイを気軽に保護者判断で使っているケースがたくさん見る。児童発達支援で保護者教育をもっと充実させるか、実施を義務化してほしい。
- ・行政が地域の総量を適切に、常に把握してほしい。
- ・放デイ前後（朝・夕）の預け先不足。就労している親が多いが受け入れてくれる場所が少ない。

## ⑦ 特別支援教育等の充実

- ・近々での施設入所希望等ではなく、ある程度のスパンを持って進路希望、決定を保護者に促してもらいたい。
- ・富士見市の支援学級の先生に不満があり、他市の支援学校に行っている方がいます。先生の質は大事です。
- ・富士見特別支援学校の卒業後に向けての進路取り組みは他校に比較して優れていると思います。
- ・県内の特別支援校すべてに図書館司書さんを
- ・進路連絡会議を全校で（個別のパーソナルアシスタントの視点で）
- ・学校の先生と情報共有がうまくいかない時がある。
- ・ケース会議の調整が難しい。
- ・障害を持っている中学生の進路先が通信制高校を選ぶ割合が今後もっと増えてくるとと思われる。障害に手厚い等謳っている通信制高校（サポート校）も増えているが、卒業後（障害の程度にもよるが）苦勞する場面があることを踏まえて、親と生徒に進路先を選んでほしい。

## ⑧ 医療的ケアが必要な障がい児・者への支援

- ・専門性に特化した訪問看護事業所が少ない。
- ・障がい児・者へ相談可能な申請をしている訪問看護事業所が少ない。
- ・ALSの利用者など、富士見市では充実していると思います。
- ・人材（職員）が不足していると思う。受け入れが難しいような印象がある。
- ・利用者の高齢化にともない通院が増加しているが、人手不足や利用者の調子（気分）しだいで通院が困難な時がある。より多くの医師が往診できると助かる。
- ・まわりにそのようなケースがないためわかりませんが、使える福祉サービスが少ない感じがします。
- ・災害時の取り組み（発電機など）は、医ケア最優先で取り組んでほしい。
- ・預け先やつなげる事業所が少ない。

## ⑨ 障がいのある人への就労の支援

- ・利用者の高齢化に伴う支援の限界もあるのではないか。
- ・障がい者雇用にて就労している利用者も、就労場所、所在地は都内であり、面接等も都内で開催されている。精神障がい者への雇用促進は更に進んでいないと思う。
- ・生活介護事業所が工賃を目的するときに、公園のそうじを月〇円というように、就労B型まではいかないが、少しでも利用者様に工賃がお渡しできるので、何かそのようなものがあればいい。
- ・以前、窓口で就労相談をして、在宅でお仕事ができるようになった利用者がありました。本人が希望しないと支援が難しいです。
- ・デイサービスにいた時の卒業生に町でばったり会うことができました。20歳をすぎ、いろんなことができるお子さんでしたが、いまだに就職していないことを聞き、複数人で仕事体験ができる機会がたくさんあるといいと思いました。
- ・福祉的就労から一般就労に向けたステップアップの支援する際に、距離的なハンディがあるために選択肢が限られることがあります。地元企業への就労がより活発になれば、更に障害者雇用の機会も増えるように思います。
- ・作業所等、働ける環境を拡充。
- ・（新設の）就労選択も、本人の思いや願いを丁寧に聞き、大切にしながら上手く活用してほしい。
- ・施設外就労先としてもっと事業所を受け入れてほしい。一般就労薄不安を少しでも解消されるよう、いろんな企業が施設外就労を受け入れることによって障害に対する理解を深め、理解不足等からくる早期離職などを減らしていけるようにしてほしい。

## ⑩ スポーツ・文化芸術活動の支援

- ・芸術活動に触れる機会が少ない。
- ・障害者スポーツの交流会があれば、障害をお持ちの方のスポーツの参加づくりが多くなると思う。
- ・障害児者が運動をする場所や活動が健常者に比べて少ないと思う。また一緒に活動するというのも困難だと思う。

## ⑪ 障がいの原因となる傷病の予防と治療

- ・家庭での生活の実態把握が難しく、生活習慣病（食生活の改善）は難しい
- ・頸椎損傷など事故等を起因とする障がいを除き、生活習慣を起因とする内臓疾患は予防も可能だと思うが、幼少期、発達期からの啓発により正しい生活習慣の履行が必須であると考えます。
- ・医療機関も障害児者を受け入れる病院は増えており、選択肢は増えた感じがする。

## ⑫ 障がい福祉サービスの充実

- ・ヘルパー不足
- ・障がい者を対象（65歳以下）としたデイサービス等の通所サービスの充実を願います。他者との関わりが少なく、入浴も不十分な身体障がいの方も多くいます。
- ・移動支援が1日2回使えるとよい。
- ・行動援護、移動支援のサービス提供事業所は少ないと思います。また移動支援については利用制限が多すぎます。生活サポートも含めて使い勝手の良いサービスにしてほしいです。グループホームについては親が安心して入居させることができる事業所が多く、結局、入所施設頼りになっています。通所施設は社会資源が少なく、キャパオーバーになりつつあります。このままだと特別支援学校の卒業生を受け入れる資源がなくなるかもしれません。
- ・各サービスをまとめた冊子があればわかりやすい。事業所が記入し、行政が作る。（特色やサービスをまとめる）
- ・短期入所事業にニーズがあるのではと感じます。近隣で利用できれば、ご家族も安心すると思います。当事業所も併用型短期入所があります。1名なので埋まっていればお断りすることがあります。
- ・移動支援サービスは、朝、夜の加算がない。ヘルパーには土日、朝、夜の加算を付けると赤字になってしまう。生活サポート事業は料金がかからない。
- ・働いている保護者が多い中で、助けをどこに求めてよいのか、どんな方法があるのかわからないというお声をよく聞きます。分かる範囲のご案内はしますが、利用者にも一目みて分かるようなヘルプ帳みたいなものがあるといい。
- ・グループホームに入っていると、自宅で生活している人と同じようなサービスを利用できない。通院や余暇支援など、世話人がすべてフォローすることは無理である。
- ・移動支援受け入れ先が見つからない。グループホームでトラブルが多く退所された方の行き場がない（施設に空きがない）。生活介護でも受け入れ断られた方の日中支援先がない。
- ・居宅支援、移動支援によって生活の質が上がった利用者がいます。より充実していくとなおよいのではと思いました。
- ・週末の外出支援を実施する事業所と人員がないこと。サービス受給するときに新規で利用ができない。質の悪いグループホームの乱立が問題。日中支援型なのに、日中に通える事業所を希望してくるホームや管理者が多い。
- ・とにかくヘルパー不足。
- ・民間のグループホームに対して、空き状況など細かなチェック体制を築いてほしい。
- ・どのサービスも人手不足。
- ・預け先不足（ニーズはたくさんあるが、預け先が少ない。）
- ・相談支援事業所の充実
- ・就労サービス事業所を利用している人のプライベートな問題の相談の場

### ⑬ 生活の安定のための支援

- ・極力、家族の実態把握をしているつもりだが、兄弟姉妹が大まかな世話をしているご家族もあるので現状把握だけはしている。
- ・ヤングケアラーについては、同居家族（18歳未満）への思念につながるサービス（同居家族がいる場合の家族支援）の緩和も必要だと感じる。
- ・障がいの子どもの持つ親の交流会（意見交換）、家族会があればリフレッシュや交流の輪が広がり、ぴあグループが広がると思う。
- ・ヤングケアラーは、サービスに入っている場合は気づけるが、気づかれないケースが多いのではないかと。
- ・母子家庭に比べると父子家庭支援やサポートが少ないと思われる。
- ・親が困っているときに、助けられない時がある。
- ・保護者が仕事をしているので、兄弟に受け渡すことがある。

### ⑭ 相談支援体制の充実

- ・担当 CW の不在や利用者支援に対する意見を求めても反応が返ってこない時もある。困難事例に関しても積極的に行政にも関わってもらいたい。
- ・ふじみ野市と比べ、セルフプランは少ないと感じるが、相談支援は足りていないと感じる。
- ・報酬告示があるので仕方ありませんが、相談支援の報酬は安すぎます。市独自の施策をお願いします。
- ・相談会のような催しがあれば、困っている方が気軽に相談できると思う。
- ・保護者の方に当施設を紹介していただいたり、相談に乗ってくれる市の相談員さんがいる。もっとそういう方が増えてほしい。
- ・相談事業所が少ないこと、相談支援専門員不足が解消されない。
- ・セルフをなくすよう、行政としても努力してほしい。
- ・基幹相談支援センターの拡充。
- ・市の CW がどの人かわからない。（会ったことがない）
- ・相談してもなかなか、サービスにつながらない。
- ・困っていることを伝えられない保護者が多い。

### ⑮ 情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実

意見なし

## ⑩ 福祉人材の確保

- ・不足している。
- ・介護保険と同様の研修計画だが、介護保険サービスと障がい福祉サービスとの違いなどは、別に研修項目を設け実施している。
- ・人材確保は常在課題です。好条件を求めて転職を繰り返す求人者がいるのも事実です。「好条件」がどういうものか、その本質を見極めてほしいです。
- ・富士見市主催の事業所が参加できるスキルアップ研修会のようなものが定期的に行われたら、学ぶ機会につながると感じる。
- ・同行援護の資格を持ってもらい、スキルアップしても仕事がほとんどない。ヘルパーの資格では、できない仕事が多い。障害者の中には、権利意識が強い方がいて、カスハラが強くあり、ヘルパーが病んでしまうことがありました。
- ・毎月、研修のようなものがあると助かります。
- ・人材の確保が難しい。地元の方のシルバーやシングル家庭等、就業を希望されている方を市役所からご紹介いただけるシステムがあればありがたいと思います。
- ・放デイ、児童の人材不足。福祉人材のハローワークのようなものがあるといいと思う。
- ・各施設でも人員確保は苦勞しており、職場内での職員教育や育成もうまくいっていないと聞く。職員の高齢化問題もあり。また次世代が育っていない。
- ・研修費用の助成をしてほしい。特にヘルパー事業所は資格がすべて、事業所負担も大きい。
- ・募集をかけてもなかなか集まらない。
- ・若い人材が定着しにくい。

## ⑪ 生活しやすいまちづくり

- ・歩道、道路の継ぎ目など、身体障がい者にとって、外出を単独で行うには、ためらってしまうところもある。(歩道が斜めでかつ勾配があるなど)
- ・ふじみ野のバス停に点字ブロックがあるのですが、バスを待っている方の所に点字ブロックがあるので、待っている方、通っている方、両方に歩きづらい、待ちづらさを感じているのではと思う。
- ・道が狭いところ。
- ・多目的トイレにベッドがあるところが少ない。(横になっておむつ交換をする人もいます)
- ・カーブミラーが必要なところがない。

## ⑱ 防犯・防災対策

- ・福祉避難所の増設
- ・高齢者（心疾患のみ）が利用可能な緊急通報システムと身体障がいへ拡充してほしい。
- ・福祉避難所について、事業所に資料を送付していただければ、利用者の方に配り、周知することができると思う。
- ・ヘルパーが台風の時、視覚障害者を連れて避難所に行ったが、対応できないと断られたことがありました。避難所でお世話をしてくれる人がいない状況では、避難したくても避難できません。
- ・避難先で健常者（他の障害者）との共存が現時点では難しいため、福祉避難所が多くなると助かります。
- ・様々な計画やマニュアルは整備されていると思います。ただ、実際に災害が発生し、それらが活用できるのかは、その時にならないとわからないと思う。
- ・「要支援者名簿」の活用については課題が多く、市民の民さんと整理を。
- ・「個別避難計画」を三芳町モデルで早期に作成を。
- ・個別に「手上げ方式」にならないように行政も工夫を。
- ・福祉避難所となっても、障害者は嫌がられる。

その他、市の障がい福祉施策に関することでご意見等がございましたら、自由にご記入ください。

- ・身体障がい者及び家族のメンタルケアの充実と、支援体制の拡充が必要だと感じます。後天障がい者の自らの障がいを受け入れる過程で負った心の傷が、見過ごされがちだと感じています。
- ・いつもお世話になっています。サービス量は年々、増えており、尽力されていることと思います。当事業所においても課題もありますので、相談させていただくこともあると思いますので、その際はよろしく願いいたします。
- ・市役所障害福祉課の窓口に行くと、職員が声かけをしてくださるので、安心して相談できます。年末にいろいろなところからアンケートが来ていて、記入するのが大変でした。
- ・児童の受給者証についてなどの問い合わせの時に、担当さんがお休みだと情報を得られないことが多く、その方が長期不在など困っています。その方以外にも、分かる方がいると助かります。
- ・事業所運営上なかなか市内での研修、会議等に積極的に参加ができない状況ですが、障害福祉分野間での連携は今後も重要になってくると感じておりますので、今後も機会を設け続けていただければと思います。
- ・障害福祉課のケースワーカーの業務と精神的な不安が多いと思われます。可能ならば、短年度で他部署に異動はなくした方がよいと思われる。
- ・障害者団体の人材不足の調査を添付します。国の調査と並行して行った結果、国とは大きく異なる結果です。新聞 19 社に載りました。とにかく人材不足と支援の質の低下は厳しい問題です。関係する部署に回覧等していただだけませんか。

富士見市障害者計画及び障がい福祉計画、  
障害児福祉計画策定のためのアンケート  
調査結果報告書

発行年月：令和8年3月

発行：富士見市 障がい福祉課

富士見市大字鶴馬 1800 番地の1

電話：049-251-2711